

科目名		エリア・スタディーズA					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121222000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 ヨーロッパの南に位置する「長靴の国」イタリアは、ローマ帝国や中世の都市国家が繁栄した古い歴史をもち、その歴史が色濃く残る景観は世界中の観光客をひきつけている。私たちにもなじみ深い国であるが、ニュースで取り上げられるヨーロッパの国はイギリスやドイツ、フランスが中心で、今のイタリアを知る機会は意外にも少ない。この授業では、イタリアの現在の姿について、政治・経済・社会の観点から丁寧に学んでいく。この授業を通じ、長い歴史を経て成熟しつつも、さまざまな問題を抱えて奮闘する今日のイタリアを知ることになるだろう。							
〔到達目標〕 DP1－1【専門分野の知識・技能】、DP3－1【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）、DP4－1【表現力、発信力】を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①現代イタリアの政治を歴史とともに学び、それが抱える問題について理解する。 ②現代イタリアの経済構造を学び、経済におけるさまざまな課題について理解する。 ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第Ⅰ部 現代イタリアの政治① —イタリア統一から現代まで— ・統一後、イタリアの政治機構が整備されてきた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第Ⅰ部 現代イタリアの政治② —政治のしくみ— ・イタリアの憲法や議会、直接民主主義について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第Ⅰ部 現代イタリアの政治③ —近年の政治の混迷— ・戦後の政治体制が崩壊したのちの政治の混迷について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第Ⅱ部 現代イタリアの経済① —イタリア＝モデル— ・中小企業を中心とするイタリアの経済構造について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第Ⅱ部 現代イタリアの経済② —南北格差と地下経済— ・イタリア経済の問題である南北格差と地下経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第Ⅱ部 現代イタリアの経済③ —EUとの関係— ・イタリアとEUとの関係および緊縮財政について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第Ⅲ部 現代イタリアの社会① —移民、格差、社会保障— ・イタリアの社会が抱えるさまざまな問題について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第Ⅲ部 現代イタリアの社会② —家族のあり方— ・イタリアの特徴的な家族像およびその変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第Ⅲ部 現代イタリアの社会③ —人びとの暮らし— ・人びとの日々の生活について、さまざまな観点から学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①現代イタリアの政治を歴史とともに知っており、それが抱える問題について説明できる。
- ②現代イタリアの経済構造を知っており、経済におけるさまざまな課題について説明できる。
- ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		エリア・スタディーズB					
教員名		清水 政行					
科目No.	121222100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義では、経済発展論的な視点から東アジア経済を分析し、その特徴を考察することによって東アジアの発展のダイナミズムに迫っていく。「なぜ東アジアは経済的に発展しているのか」をテーマに、そのメカニズムや要因を分析することで東アジア地域に対する経済的理解を深めることを目指す。授業では、各回のテーマを決めて関連するデータや具体的なモデルを取り上げながら学習を進める。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 東アジア地域はどうして経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。 2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	なぜ東アジアなのか？ [参考書：ワイル（2010）1・2 章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 2 回	東アジアと経済成長 [テキスト：大野等（2024）1 章] [参考書：大野・桜井（1997）1 章] [参考書：ワイル（2010）3 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 3 回	東アジアと人口問題 [参考書：ワイル（2010）4・5 章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 4 回	東アジアと直接投資 [テキスト：大野等（2024）2 章] [参考書：大野・桜井（1997）2 章] [参考書：ワイル（2010）8 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 5 回	東アジアと自由貿易 [テキスト：大野等（2024）3 章] [参考書：大野・桜井（1997）4 章] [参考書：ワイル（2010）11 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 6 回	東アジアと国際金融 [テキスト：大野等（2024）3 章] [参考書：大野・桜井（1997）3 章] [参考書：ワイル（2010）10 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 7 回	東アジアと環境破壊 [テキスト：大野等（2024）4 章] [参考書：大野・桜井（1997）5 章] [参考書：ワイル（2010）16 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 8 回	東アジアと開発政策 [テキスト：大野等（2024）5 章] [参考書：大野・桜井（1997）6 章] [参考書：ワイル（2010）14 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 9 回	東アジアと政治体制 [テキスト：大野等（2024）5 章] [参考書：大野・桜井（1997）7 章] [参考書：ワイル（2010）12 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 0 回	日本の経済発展 [テキスト：大野等（2024）6 章] [参考書：大野・桜井（1997）8 章] [参考書：ワイル（2010）6 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 1 回	NIEs の経済発展 [テキスト：大野等（2024）8 章] [参考書：大野・桜井（1997）9 章] [参考書：ワイル（2010）7 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 2 回	中国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）7 章] [参考書：大野・桜井（1997）11 章] [参考書：ワイル（2010）9 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 3 回	ASEAN 主要国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）9 章] [参考書：大野・桜井（1997）10 章] [参考書：ワイル（2010）15 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 4 回	ASEAN 後発国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）10 章] [参考書：ワイル（2010）13 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
〔授業の方法〕							

対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は **CoursePower** を通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
小テスト（30%）、学期末試験（70%）。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。
1. 東アジア地域はどのように経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。
2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
初級ミクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。

〔テキスト〕
大野健一・桜井宏二郎・大橋英夫・伊藤恵子『新・東アジアの開発経済学』有斐閣 2024 年（2,700 円＋税）

〔参考書〕
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣 1997 年（2,000 円＋税）※購入の必要なし
デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第 2 版』ピアソン桐原 2010 年（4,000 円＋税）※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		文化と経済（欧米世界）					
教員名		志賀 俊介					
科目No.	121222200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 ヒップ・ホップ、ロック、R&B…、今日私たちは様々なジャンルの音楽を聴いています。そのポピュラー音楽のルーツに思いをめぐらすとき、アメリカの音楽史を抜きにして考えることはできません。そしてそれは、アメリカの政治や経済、あるいはイデオロギーといった多様な要因が絡む社会的背景と切り離せないものです。本講義では、アメリカのポピュラー音楽の歴史を概観しながら、様々なジャンルの音楽がいかに時代の中で生まれたのか、あるいは時代を駆動させたのかについて考えます。たとえばそこには、アメリカが抱える奴隷制から始まる黒人差別の歴史から、黒人によって生み出されたとされるブルースの誕生が含まれるでしょう。一方で、本来「心の声」としての表現手段であった音楽の発展は、音楽ビジネスを含む資本主義経済と無縁ではいられず、それは経済大国アメリカの発展と密接に結びついています。音楽の発展と受容について、アメリカを中心としつつ、時にはそれ以外の国や地域との関連も視野に入れ、商業的側面と芸術的側面から考察します。							
〔到達目標〕 この講義の DP は以下の通りです。 ・DP 1（専門分野の知識・技能）：アメリカの歴史や音楽史を学ぶ。 ・DP 2（教養の習得）：アメリカの歴史や音楽史に関連する音楽や映像作品などに触れることで、経済などの社会背景と人々との関連について考察することができる。 ・DP 3（課題の発見と解決）：アメリカの歴史や音楽史に関する調査を行い、それらを分析し、自分なりの考えへと発展させることができる。 ・DP 4（表現力、発信力）：得た知識や自分の考えをまとめた上で、的確かつ明瞭に発信することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			【予習】シラバスを確認し、講義予定を把握する 【復習】授業内容を確認する		60 分	
第 2 回	白と黒の境界を越えて：擬態のミニストレル・ショウ			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 3 回	希望の歌としての宗教音楽：スピリチュアル、ゴスペル			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 4 回	「哀しみ」の音楽：ブルースとその商業化			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 5 回	狂騒の 1920 年代：アメリカの好景気とスウィング・ジャズ			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 6 回	ホットからクールへ：ビ・バップ、モダン・ジャズ			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 7 回	「若者」の音楽：大西洋を越えるロックンロール			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 8 回	激動の時代の声：1960 年代とフォーク			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 9 回	多様性の時代へ：カウンター・カルチャーの興隆と挫折			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 1 0 回	モータウンの勃興：ソウル、ファンク、R&B			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 1 1 回	商業主義と反商業主義の狭間で：ロックンロールからロックへ			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 1 2 回	ストリートからメイン・ストリームへ：ヒップ・ホップの隆盛			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 1 3 回	エイジアン・インヴェイジョン：アメリカにおける K-POP の躍進			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す		60 分	
第 1 4 回	まとめ			【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す／期末レポートを執筆する		60 分	
〔授業の方法〕 基本的にはスライドを用いながら、講義形式で授業を行います（履修人数によってはディスカッションを取り入れます）。適宜、内容に合わせて音楽や映像作品を使います。毎回の授業について、CoursePower 上で授業レポートを提出してもらい、学期末に合算して平常点に組み込みます。また、学期中に数回、授業内容についての確認を目的とした小テストを行います。							
〔成績評価の方法〕							

以下を総合して評価します。 ・平常点（授業への参加状況、毎回の授業レポート）：40% ・小テスト：20% ・期末レポート：40%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。 「到達目標」に照らし合わせて評価します。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 アメリカ史や音楽についての基本的な知識があることが望ましいですが、必須ではありません。
〔テキスト〕 特にありません。
〔参考書〕 大田和俊之、『アメリカ音楽史——ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』、講談社、2011 年。 バーダマン、ジェームス M. 『はじめてのアメリカ音楽史』、ちくま新書、2018 年。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		文化と経済（アジア世界）					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121222210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 テーマ：絹織物という文化とその経済を考える この授業では、日本国内における絹織物をめぐる文化と経済を展開していきます。 単に、絹織物に関するある事象がいつ起こったのかという歴史だけにこだわるのではなく、絹織物産業の発展によってモノの流れがどのように変化し、社会にどのような影響を及ぼしていったのか、ライフスタイルがどのような変化を遂げたのか――に注目をしていきます。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・技能）、D P 3（課題の発見と解決）、D P 4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①明治期の殖産興業であった製糸業の背景とその実態はどのようなものだったのかについて、明確に理解することができる。 ②絹織物の誕生が人間社会にどのような影響を及ぼしたのかを明確に分析し、理解し、提示することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	絹織物、生糸、製糸の起源／神話（1） ・絹織物、生糸、製糸の製造工程について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	絹織物、生糸、製糸の起源／神話（2） ・絹織物、蚕にまつわる神話について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	国内における養蚕業と桑栽培の推移 ・養蚕業と桑栽培の関連性とその生産推移について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	横浜開港と蚕糸業の発展（1） ・横浜港開港までの歴史を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	横浜開港と蚕糸業の発展（2） ・横浜港開港以降の蚕糸業との関連性、発展経緯を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（1） ・明治期の殖産興業の中心地としての富岡製糸場を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（2） ・海外技術者による製糸技術の伝播、国内独自の生産体制を編み出すまでの過程について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（3） ・世界遺産としての富岡製糸場および絹産業遺産群の価値について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響（1） ・世界恐慌によっていかに国内製糸業が打撃を受けたかについて解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響（2） ・世界的にも質の高い製糸業の中心地であった富岡製糸場が、人絹工業によって浸食されていく過程を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	化学繊維、化学染料の発展 ・戦後、天然繊維である絹が下火になり、化学繊維と化学染料が発展していく過程を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・国内養蚕業・絹織物業のいまを解説する。 ・絹織物という文化と経済を考える。			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
〔授業の方法〕							

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。

随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。

上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。

なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。

・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。

・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。

・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。

・絹の歴史、文化に対する正確な理解。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。適宜指示をする。

〔参考書〕

特になし。適宜指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		Special Lectures on International Communications					
教員名		挾本 佳代					
科目No.	121222400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 テーマ：「日本を語るための国際的な教養を身につける」 この授業は、日本人が外国人とコミュニケーションを円滑かつ深く行っていく場合に必要になる知識と教養を習得するためのものです。 外国人とのコミュニケーションは、単に英語が上手く話せるということだけでは不十分です。表面的な日常会話のレベルを脱し、豊かな内容を相手に伝えていくためには、まず自分自身が興味を抱いて、その豊かな内容そのものを知らなければなりません。 この授業では、外国人の関心の高い能楽や狂言や歌舞伎、アニメや KAWAII というサブカルチャー、日本の美おもてなし文化、日本映画などについての深いコミュニケーションをとるための知識を、ゲストスピーカーとのオムニバス形式で解説をしていきます。							
〔到達目標〕 DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 3（課題の発見と解決）、DP 4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①「コミュニケーションのための国際的な教養力」の必要性を的確に理解する。 ②奥行きのある日本文化を理解して、他人に伝えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 イントロダクション ・外国人との円滑なコミュニケーションのために必要なものは何かを説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】国際的な教養力について理解しておく。		60 分	
第 2 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（1）：歌舞伎 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 3 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（2）：能楽／狂言 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 4 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（3）：仏像 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 5 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（4）：日本の美 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 6 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（5）：古典文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 7 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（6）：現代文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 8 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（7）：サブカルチャー テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 9 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（8）：映画 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 10 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（9）：音楽 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 11 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（10）：アメリカ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 12 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（11）：ヨーロッパ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	
第 13 回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（12）：日本食／おもてなし テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60 分	

第 1 4 回	総括 ・授業のまとめ ・キーワード、キー概念等を確認する。 ・期末レポート提出	【予習】これまでの授業で学んできた内容を振り返り、確認しておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60 分
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間課題レポート（20%）、最終可愛レポート（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記到達目標の達成度を、客観的に評価する。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 特になし。適宜紹介する。			
〔参考書〕 特になし。適宜紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

※最新版取扱いにはなっており、内容は変更となる場合がございます。

科目名		Special Lecture on Global Economy					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121222500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 The economic agents that make up the global economy are households, firms, governments and a wide range of international and non-governmental organisations. This lecture focuses on economics as the basic framework for understanding the global economy. In particular, the course will explain macroeconomic theory at the elementary and intermediate levels. It is a basic framework for understanding national economies and their interactions. At the same time, it will explain how to apply the theory to the actual global economy. The aim is to provide a deeper understanding of the global economy by studying theory and practice.							
〔到達目標〕 In order to realise DP1, DP3, and DP4, the following objectives are to be achieved. This course aims to acquire a basic knowledge of the global economy. This course also aims to understand the movements and interactions of financial institutions and financial markets as discussed in daily news and newspaper reports.							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	Guidance Explain the general outline of the lecture plan. Lecture 1. The science of macroeconomics: What Macroeconomists Study The global economy and macroeconomics			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第2回	Lecture 2. The Data of macroeconomics (1) Measuring the value of economic activity: GDP			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第3回	Lecture 3. The Data of macroeconomics (2) Measuring the Cost of Living: CPI / Measuring Joblessness: The unemployment rate			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第4回	Practice 1. Macroeconomic statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from Penn World Table.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第5回	Lecture 4. National Income: Where it comes from and where it goes (1) What determines the total production of goods and services?			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第6回	Lecture 5. National Income: Where it comes from and where it goes (2) How is National Income Distributed to the Factors of Production? What Determines the Demand for Goods and Services?			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第7回	Lecture 6. The Monetary System: What It Is and How It Works What is Money? / The Role of Banks in the Monetary System			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第8回	Lecture 7. Inflation: Its Causes, Effects, and Social Costs: The Quantity Theory of Money			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第9回	Practice 2. Financial statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from International Financial Statistics or other statistics.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第10回	Lecture 8. Economic Growth (1) The Accumulation of Capital			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第11回	Lecture 9. Economic Growth (2) The Golden Rule Level of Capital			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第12回	Lecture 10. Economic Growth (3) Population Growth and other extensions			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第13回	Practice 2. Calibrating global economic growth. Using RStudio to stimulate economic growth models.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第14回	Review / in class examination.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
〔授業の方法〕							

In Lecture sessions, the instructor will explain the content of macroeconomics textbooks. In Practice sessions, students are required to bring their own PCs and analyse data. Quizzes and mini-reports will be given in both Lecture and Practice sessions.
〔成績評価の方法〕 100% of the evaluation of each class (class participation and scores on quizzes and mini-reports).
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. Grading is also based on how well you have accomplished the objectives described above.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 マクロ経済学入門 1・2
〔テキスト〕 Mankiw, G. (2019) Macroeconomics, Tenth Ed. ISBN 1319243584（購入の必要なし）
〔参考書〕 There are no reference books.
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 外国語のみで授業

科目名		グローバル特殊講義（比較都市史）					
教員名		内田 日出海					
科目No.	121222630	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 〔テーマ〕 古代～現代の世界の都市現象の比較史 〔概要〕 古今東西、地球上には遍く都市現象が確認されます。本講義は世界の都市史を、規模や景観、経済的・政治的・法的・社会的機能、農村との共生関係、システムやネットワークといった観点から、包括的かつ体系的に講じます。 方法としてはタテの類型化（時系列的把握）、ヨコの類型化（空間的把握）を通じて、ヨーロッパ、日本を含むアジアの諸都市を中心に、より具体的な都市の歴史像を提示します。 世界の都市についてのイメージをもっといただくために、あるいは都市史をめぐる世界旅行の感じをもたせるため、図像、写真、映像などをできるだけ多く取り入れる予定です。							
〔到達目標〕 DP1 専門分野の知識・技能、DP3【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）、DP4【表現力、発信力】、DP6【自発性、積極性】を実現するため、以下を到達目標とします。 1. 世界の都市現象に関して時間軸に沿いつつ歴史的な特徴をつかまえる 2. 世界の諸都市の比較を通じて、空間的な共通点、相違点を学ぶ							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	都市とは何か——比較都市史の射程			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第2回	都市の典型的把握（時代的類型、空間的類型）			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第3回	ヨーロッパの都市史（1）：ビデオで見るヨーロッパの都市史			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第4回	ヨーロッパの都市史（2）：コミュニケーション運動から中世都市へ			【予習】ヨーロッパの中世史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第5回	ヨーロッパの都市史（3）：中世都市シュトラースブルク			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第6回	ヨーロッパの都市史（4）：近現代都市ストラスブール			【予習】ヨーロッパの近現代史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第7回	アジアの都市史（1）：日本の都市現象			【予習】古代～江戸時代の日本の都市について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第8回	アジアの都市史（2）：中国、イスラーム世界の都市現象			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第9回	首都の比較史（パリと江戸）（1）：都市計画と景観の観点を中心に			【予習】江戸・東京の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第10回	首都の比較史（パリと江戸）（2）：行政・司法・経済の観点を中心に			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第11回	海港都市の歴史（1）：長崎、横浜			【予習】長崎と横浜の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第12回	海港都市の歴史（2）：香港			【予習】香港の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第13回	都市ネットワーク論（1）：ヨーロッパの場合			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第14回	都市ネットワーク論（2）：アジアの海港都市ネットワーク 第1回～第13回の総括と理解度の確認			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 第1回～第13回の授業内容に関しておさらいをしておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		120	
〔授業の方法〕							

▶対面式の講義中心ですが、CoursePower も活用します。画像・写真・動画などもできるだけ多く使用します。 ▶双方向性を確保するために、レビュー方式を使って毎回の授業内容に関して理解度をチェックします。これを小テストの代わりとします。必要に応じていくつかのレビューを次の回の冒頭に紹介するなどして相互学習に資します。 ▶予習・復習用に毎回 CoursePower 上に講義メモ・ファイル（pdf 抄録版）を事前にアップします。
〔成績評価の方法〕 ①学期末試験（50%） ②レポート（20%）：2 回 ③平常点（30%）：毎回のレビュー（＝小テスト） により総合的に評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。 下記の点について目標の到達度を測ります。 1．古代から現代にいたるまで世界の諸都市がどのように発達してきたかについて概説できるかどうか 2．世界の様々な都市の歴史を比較的に概説できるかどうか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は不要です。先修科目もありません。 関連科目は経済史の基礎、西洋経済史 A、西洋経済史 B、比較経済史、地域経済史、日本経済史 A、日本経済史 B、社会史、総合特殊講義（国境の経済史）などの歴史系科目です。
〔テキスト〕 とくに定めません。
〔参考書〕 ▶マックス・ウェーバー『都市の類型学』（世良晃四郎訳）創文社、1964 年 ▶増田四郎『都市』筑摩書房、1978 年 ▶二宮宏之・樺山紘一・福井憲彦編『都市空間の解剖』＜アナール論文選 4＞新評論、1985 年 ▶高澤紀恵/アラン・ティレ/吉田伸之編『パリと江戸』山川出版社、2009 年 ▶内田日出海『物語 ストラスブールの歴史——国家の辺境、ヨーロッパの中核』中公新書、2009 年 ▶河原温・池上俊一『都市から見るヨーロッパ史』NHK 出版、2021 年 など。（購入の必要はありません。図書館で参照してください） そのほか、講義の進行に合わせて随時紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイト等で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		グローバル特殊講義（グローバルヒストリーと現代的な諸課題）					
教員名		二井 正浩					
科目No.	121222650	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 SDG s に代表される現代的な諸課題の歴史的な経緯を考察するためには、グローバルな歴史的視点が求められる。そして、それは日本史・世界史の枠組みをこえたグローバルヒストリーとしてのアプローチとなる。本授業では、このような視点から現代的な諸課題を歴史的に探究する。							
〔到達目標〕 DP1-1(専門分野の知識技能)、DPDP3-1（課題の発見と解決）、DP4-1（表現力・発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめることができる。 ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできる。 ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとすることができる。 ④現代的な諸課題の形成に関わる歴史について調査し、整理し、伝達することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション① ～SDG s の目標から探究するテーマを設定しよう～			復習：自己とのレリバンスを意識しながらテーマを設定する。		60	
第 2 回	オリエンテーション② ～グループ分け・問いの設定～			復習：探究のための問いを設定する。		60	
第 3 回	グローバルヒストリーの視点の検討～人新世とは何か～			復習：授業で紹介した文献等を確認する。		60	
第 4 回	仮説を立てる（グループで話し合う・発表する）			復習：仮説を確定する。		60	
第 5 回	情報を収集する（グループで協力する）			復習：資料（史料）収集を行う		60	
第 6 回	時代区分する（グループで話し合う・発表する）			復習：課題の探究と説明にふさわしい時代区分を確定する。		60	
第 7 回	資料（史料）に基づいて論述する（論をまとめる）			復習：探究してきたことを文章等にまとめる。		60 加えて、レポート作成	
第 8 回	発表の準備をする			復習：プレゼンテーションの準備を行う。		60 加えて、プレゼン準備	
第 9 回	探究結果のプレゼンテーションと討議①			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第 1 0 回	探究結果のプレゼンテーションと討議②			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第 1 1 回	探究結果のプレゼンテーションと討議③			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第 1 2 回	探究結果のプレゼンテーションと討議④			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第 1 3 回	探究結果のプレゼンテーションと討議⑤			事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成		60 加えて、プレゼン準備・レポート作成	
第 1 4 回	まとめ～講義の振り返りとプレゼンテーション・レポートの講評～			事後:授業全体の振り返り		60	
〔授業の方法〕 講義・ディスカッション・パフォーマンス（発表・報告書作成）を実施する予定。 毎時間ごとに提出する報告書、授業への参加状況、パフォーマンスをもとに評価する。							
〔成績評価の方法〕							

毎時間ごとに提出する報告書（授業への参加状況） 30% パフォーマンス（発表） 35% パフォーマンス（報告書） 35% ※提出物は期限厳守
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その到達度により評価する。 ①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめているか。 ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできているか。 ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとしているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に無し
〔テキスト〕 特に無し
〔参考書〕 特に無し 高校「世界史」「日本史」の教科書持参
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション）

科目名		グローバル特殊講義（グローバル時代と現代文化）					
教員名		バラニャク平田　ズザンナ					
科目No.	121222660	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 グローバル時代の現代文化とは何か？グローバルとローカルな文化が融合すると何が起きるのか？ローカルな文化はどのように世界中の関心を集め、受容されるようになるのか。本授業では、現代文化とその多彩な表象に着目し、グローバル化と技術の進展とそれが個人、コミュニティ、社会に与える影響について学ぶ。ポップカルチャー、メディア、ジェンダーなどの事例を通して、グローカリゼーションやソフトパワーの概念を紹介し、日本の現代文化がどのように変容してきたのか、日本の文化産業がどのように国境を超えてグローバルな現象となっているのかを考察する。 ※授業の内容やスケジュールは変更することがある。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】とDP4【表現力、発信力】を達成するために、以下の目標を設定する。 ①現代文化について、基礎的な特徴、概念や用語をつかまえ、説明できること。 ②国内外の視点をを用いながら、グローバル時代の文化流動とその動向を、より包括的な社会的、経済的、政治的な文脈の中で批判的に分析することを身につける。 ③理論的概念を批判的に取り組み、プレゼンテーションなどの課題を通して授業内容で得た知識を応用する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	オリエンテーション			シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。		60分	
第2回	現代文化とは何か①：基礎的概念			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第3回	現代文化とは何か②：グローバリゼーションとグローカリゼーション			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第4回	現代文化とは何か③：ソフトパワー			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第5回	現代文化とメディア①：アニメと漫画			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第6回	現代文化とメディア②：映画とドラマ			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第7回	現代文化とメディア③：デジタルメディア			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第8回	現代文化とジェンダー①：メディア表象			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第9回	現代文化とジェンダー②：LGBTQ+			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第10回	現代文化とグローバル時代①：技術			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第11回	現代文化とグローバル時代②：観光			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第12回	現代文化とグローバル時代③『ONE PIECE』実写版映画の鑑賞			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第13回	プロジェクト・プレゼンテーション①			プロジェクト発表を準備する。		120分	
第14回	プロジェクト・プレゼンテーション②とまとめ			プロジェクト発表を準備する。第1～13回の授業内容を復習し、理解を深める。		120分	
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行い、パワーポイントを用いるが、質疑応答やディスカッションも取り入れる予定である。この授業では、①リアクションペーパー（≠出席）と②プロジェクト・プレゼンテーションを課す。 ①リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえた上で自分の感想・考えと質問・コメントを求める。 ②プロジェクト・プレゼンテーションでは、学生がプレゼンテーションを行い、授業内容の正確な理解度と映像資料の批判的思考を評価する。							
〔成績評価の方法〕							

下記の 2 点により総合的に評価する。 ①平常点：リアクションペーパー（50%） ②プロジェクト・プレゼンテーション（50%）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 授業中に随時指示する。 ※購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 初回の授業で指示する。
〔特記事項〕 プロジェクト型授業 アクティブ・ラーニング

※取寄せ販売は、この交付書は交付となる期日がのりません。

科目名		中級ミクロ経済学					
教員名		矢作 健					
科目No.	121232000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 中級ミクロ経済学では 1 年次に履修した「初級ミクロ経済学Ⅰ/初級ミクロ経済学Ⅱ」の内容をもとに、ミクロ経済学の分析手法をさらに深く学んでいきます。まずは家計の消費行動から需要曲線、企業の生産行動から供給曲線を導出し、市場において価格が決定されていく過程を分析していきます。こうした市場メカニズムの社会的な望ましさや、それが成立している条件について改めて考えます。そして、こうした健全な市場が機能しない「市場の失敗」とよばれる状況についても紹介し、現実の社会を分析する枠組みを学んでいきたいと思います。							
〔到達目標〕 本科目では、DP1（専門分野の知識・理解）DP3(課題の発見と解決) を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く ・完全競争市場での均衡を導出できる ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・授業の進め方、概要の説明			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 2 回	完全競争市場（1） ・完全競争市場とは ・余剰分析の紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 3 回	完全競争市場（2） ・価格弾力性とは、価格規制の与える影響とは			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 4 回	消費者の行動（1） ・予算制約下での効用最大化行動とは			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 5 回	消費者の行動（2） ・需要曲線と財の価格・所得との関係			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 6 回	生産者の行動（1） ・生産関数、費用関数の考え方を紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 7 回	生産者の行動（2） ・短期での利潤最大化行動			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 8 回	生産者の行動（3） ・長期での利潤最大化行動			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 9 回	部分均衡分析 ・均衡とは何か、その社会への影響を余剰の観点から分析			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 1 0 回	一般均衡分析（1） ・交換経済の競争均衡を導出する			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 1 1 回	一般均衡分析（2） ・パレート効率性と厚生経済学の基本定理について学ぶ			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 1 2 回	市場の失敗（1） ・完全競争市場が成立しない要因とは ・不完全競争として、独占市場の紹介			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 1 3 回	市場の失敗（2） ・外部性とは何か、その解決方法を考える			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
第 1 4 回	まとめ			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		90 分	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学生の理解の到達度を確認するため、小テストまたは宿題や学期末試験を実施します。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります							
〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く
- ・完全競争市場での均衡を導出できる
- ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の科目を履修していることが望ましいです。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 (ISBN 978-4535557567)

『ミクロ経済学』 奥野正寛 東京大学出版会 (ISBN 978-4130421270)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕

科目名		中級マクロ経済学					
教員名		庄司 俊章					
科目No.	121232100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 初級マクロ経済学Ⅰ、Ⅱで扱った内容を発展させ、本講義では学部中級レベルのマクロ経済学について学習します。具体的には、まずマクロ経済学の基本モデルを学び、国内総生産や金利、物価などの決まり方を考察します。続いて、より高度なトピックス（為替レート、経済成長、資産価格の決まり方）について検討します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とします。 ・モデルを用いて、国内総生産や金利などがどのように決まるか説明できる。 ・モデルを用いて、インフレや為替レートが経済に与える影響について説明できる。 ・経済成長のメカニズムや資産価格の決まり方について、論理的に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		90	
第2回	国内総生産と金利の決まり方（1） ・IS-LMモデルの基礎			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第3回	国内総生産と金利の決まり方（2） ・IS-LMモデルの応用			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第4回	総需要・総供給と物価の決まり方（1） ・AD-ASモデルの基礎			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第5回	総需要・総供給と物価の決まり方（2） ・AD-ASモデルの応用			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第6回	インフレとデフレ（1） ・インフレ期待、自然利子率、フィリップス曲線			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第7回	インフレとデフレ（2） ・消費者物価の計測に関する問題			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第8回	中間の到達度確認テスト			ここまでの講義資料、演習問題の内容を確認しておく。		90	
第9回	為替レートの決まり方（1） ・購買力平価、金利平価			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	為替レートの決まり方（2） ・小国開放経済モデル			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第11回	経済成長（1） ・ソローモデルの基礎			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第12回	経済成長（2） ・ソローモデルの応用			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第13回	資産価格の決まり方 ・配当の割引現在価値モデル			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		90	
第14回	授業の総括・質疑応答			【復習】期末試験に向けて、授業中の演習問題等を復習する。		90	
〔授業の方法〕 授業資料や板書に基づいて、講義形式で授業を行います。授業内で到達度確認テストを行い、授業内容の理解度を確認します。なお、到達度確認テストの実施日程・回数は変更する可能性があります。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業内の到達度確認テスト）40％、期末試験60％を基本とし、授業での積極的な発言・質問をプラスに評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
入門的なミクロ経済学・マクロ経済学の知識を前提とします。

〔テキスト〕
『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで 第 3 版』、平口良司・稲葉大、2023 年、有斐閣ストゥディア

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		中級経済数学					
教員名		井上 潔司					
科目No.	121232200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 現代経済学科の学生が、更に進んで「経済数学の基礎知識」を修得することを目的とする。1 年次にすでに学んだ初級経済数学の内容を前提とし、1 変数関数の微分法に加え、多変数関数の微分法、ベクトル、行列の基礎事項を講義し、数学的諸概念の習熟を目指す。さらには講義で学んだ知識を活用し、経済学の様々な応用問題を解決できる能力の育成を目指す。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、(広い視野での思考・判断)、DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。 ・1 変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・多変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・極値問題、最適化問題の考え方を学び、経済学に応用できる力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・中級経済数学を学修する上での基本的な考え方を説明する。			【予習】学生への序文、テキストを熟読。		60 分	
第 2 回	微分法の基礎 ・平均変化率・微分係数・導関数の定義について理解する。 ・接線の方程式の導出方法を学ぶ。			【予習】テキスト熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の定義を理解し、導関数の導出方法を修得しておく。		90 分	
第 3 回	微分法の諸公式 1 ・微分法の基礎公式（積の微分公式、商の微分公式、等）を理解する。 ・実例を通して微分公式の適用方法を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の諸公式（積の微分公式、商の微分公式、等）を修得しておく。		90 分	
第 4 回	微分法の諸公式 2 ・合成関数の微分法について学ぶ。 ・指数・対数関数の微分法を修得する。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】合成関数の微分法を修得しておくこと。”		90 分	
第 5 回	関数の増減と極大極小 ・導関数を用いた関数の増減の調べ方、極値の求め方を学ぶ。 ・導関数を用いた関数の凹凸の調べ方、変曲点の求め方を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】第 1 次導関数、第 2 次導関数の利用方法について確認しておく		90 分	
第 6 回	微分法を用いた応用問題 ・微分法を用いた様々な応用問題の考え方について学ぶ。 ・関数のグラフを用いて応用問題の解き方を修得する。			【予習】テキストを読み、微分法を用いた様々な応用問題を解いておく。 【復習】最大・最小問題の基本的な解き方について確認しておく。		90 分	
第 7 回	2 変数関数の微分法 ・2 変数関数に関する基本事項・用語について学ぶ。 ・偏微分と全微分について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2 変数関数の微分法を習得する		90 分	
第 8 回	2 変数関数のグラフと極値 ・2 変数関数にの扱い方について学ぶ。 ・2 変数関数の極値問題に関する基本事項・用語について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、＜まとめ＞の内容を把握する。 【復習】2 変数関数のグラフの概形を把握できるようにする。2 変数関数の極値を求められるようにする。		90 分	
第 9 回	最適化問題 1 ・2 変数関数の最大・最小問題 ・制約のない 2 変数関数の最適化問題について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2 変数関数の最適化問題を理解する。2 変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90 分	
第 1 0 回	最適化問題 2 ・2 変数関数の最大・最小問題 ・制約のある 2 変数関数の最適化問題について学ぶ。 ・ラグランジュ関数 ・ラグランジュの乗数法			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ラグランジュ関数を理解し、制約のある 2 変数関数の最適化問題を理解する。 2 変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90 分	
第 1 1 回	ベクトルの基礎 ・ベクトルの定義 ・ベクトルの演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ベクトルの基礎事項を理解し、諸演算を理解する。		90 分	
第 1 2 回	ベクトルの応用 ・ベクトルの平面図形への応用 ・ベクトルの空間図形への応用			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】平面・空間問題への様々な応用方法を学ぶ。		90 分	
第 1 3 回	行列とその応用 ・行列の定義 ・行列の演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】行列の基礎事項を理解し、諸問題への応用を学ぶ。		90 分	
第 1 4 回	まとめ等 ・授業のまとめ ・学期末試験への諸注意			【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60 分	
〔授業の方法〕 講義と演習を並行して行う。							

〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や積極性、演習課題、確認テスト）40% 学期末試験 60%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ・微分法の諸概念を理解できているか。 ・多変数関数の扱いを修得しているか ・多変数関数を用いて、さまざまな応用問題が解けるか。 ・数学的手法を経済学へ応用できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・初級経済数学 ・高校数学 IA・IIB の知識があれば、理解の助けとなる。
〔テキスト〕 尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学』日本評論社 ISBN978-4-535-55659-1
〔参考書〕 特にないが、高校時代の教科書「数学 IA, IIB, III」が役立つ。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

※取寄せ販売品は、この交付書は発注となる期日のためです。

科目名		中級計量経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121232300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義はこれまでに統計学の理論を学んだ学生が、実際にデータを用いて統計的に分析する際に必要な手法について学修することを目的としている。前半は Excel を用いて単純集計・クロス集計などの集計方法などを学び、さらにそれらを可視化する方法を演習を通じて学修する。後半は統計ソフトの R の基本的な利用方法について学び、R を用いた回帰分析の手法および、結果の見方などを含めた手法を演習を通じて学修する。課題演習などでは、企業等の実データを用い、その企業等の課題解決に資するような課題を設定し、データ分析を行う。 本講義は Excel および R の利用経験が全くない方を対象としております。統計学および計量経済学などを学んで、この分野に興味をお持ちになった方はどなたでも歓迎致します。							
〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決) を実現するため、以下の 3 点の到達目標を掲げる。 ① Excel および R の基本的な手法について理解し、操作できる。 ② 実際にデータを用いた Excel および R の基本的な操作ができる。 ③ Excel および R で得られた結果の見方を理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 授業のスケジュール、進め方、予習・復習の仕方および必要な PC 環境について説明する。			【予習・復習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。PC の環境などを確認しておく		60	
第 2 回	Excel の実習 1 Excel の基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む			【予習】 Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 3 回	Excel の実習 2 Excel の基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む			【予習】 Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 4 回	Excel の実習 3 Excel を用いた可視化、主にグラフの作成方法などを学修する。 課題に取り組む			【予習】 Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 5 回	統計または実証分析に関わる資料を読む			【予習】 Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】資料についてのレポートを作成する		60	
第 6 回	R の実習 1 Rstudio のインストール、基本操作などを学修する。			【予習】第 4 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 7 回	R の実習 2 Rstudio の基本操作などを学修する。			【予習】第 4 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 8 回	R の実習 3 R を用いて記述統計、変数の関連性を見る。			【予習】第 5 章をを熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 9 回	R の実習 4 R を用いて記述統計、変数の関連性を見る。			【予習】第 5 章をを熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 1 0 回	R の実習 5 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第 10 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 1 1 回	R の実習 6 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第 10 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく		60	
第 1 2 回	R の実習 7 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第 10 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題 2 にて到達度を確認する		120	
第 1 3 回	R の実習 8 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。			【予習】第 10 章を熟読する。Course Power に挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題 2 にて到達度を確認する		120	
第 1 4 回	復習課題 1, 2 の解説をおこなう。 フォローできていない課題をピックアップして取り組む			【予習】復習課題 1, 2 を再確認する 【復習】復習課題 1, 2 を確実にこなせるようする		60	
〔授業の方法〕 授業の形式は講義および課題の演習である。 学生は、授業中に取り組んだ演習を提出することが求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、演習・レポートおよび到達度確認課題演習 1, 2 の狙いは以下のとおりである。 演習：授業で学んだ内容を実際に手を動かして行うことができるかについて確認する。 レポート：現在自分たちが行っている演習がどのようなことに使えるのか確認する。							

到達度確認課題演習 1・2：Excel および R の基本操作を習得できたかについて確認する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認課題演習 1・2、Course Power 等を用いた演習課題の提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
到達度確認課題演習 1（25%）、到達度確認課題演習 2（30%）、レポート課題（20%）、平常点（演習課題の提出、授業への参加状況など）（25%）による総合評価。
なお、演習課題等についてグループで話し合う事は歓迎されるが、必ず一度は自分自身で手を動かしておくこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① Excel および R の基本的な操作ができる。
- ② 実際にデータを用いて Excel および R で結果を出力できる。
- ③ Excel および R で得られた結果を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

統計学、計量経済学など

〔テキスト〕

浅野正彦・矢内勇生『R による計量政治学』オーム社 3200 円 ISBN:978-4-274-2213-6
購入の必要なし

〔参考書〕

『ビジネスこれだけ！Excel データ分析・資料作成 & Power Point』 マイナビ 925 円 ISBN:978-4-8339-6754-3
星野匡郎 田中久稔 『R による実証分析-回帰分析から因果分析へ』 オーム社 2700 円 ISBN:978-4-274-21947-4
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

情報リテラシー教育科目、ICT 活用

科目名		西洋経済史A					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである資本主義経済の基盤は、ヨーロッパにおいて長い時間をかけて形成されてきた。つまり資本主義経済の特徴を深く理解するためには、ヨーロッパ経済の歴史を学ぶことが必要になる。そこでこの授業では、古代ギリシア・ローマから中世ヨーロッパ、そして近世イギリスやオランダへといったヨーロッパ経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、ヨーロッパにおける経済の歴史を、その背景もふくめて理解する。							
〔到達目標〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを理解する。 ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを理解する。 ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第Ⅰ部 ヨーロッパ経済圏の成立① —古代地中海世界の成立と崩壊— ・古代ギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第Ⅰ部 ヨーロッパ経済圏の成立② —中世ヨーロッパ世界の成立— ・中世封建社会の成立について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第Ⅰ部 ヨーロッパ経済圏の成立③ —「商業の復活」と中世都市— ・11世紀以降におけるヨーロッパ経済の発展について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第Ⅱ部 ヨーロッパ経済圏の再編① —封建社会の動揺— ・14世紀半ば以降における危機や変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第Ⅱ部 ヨーロッパ経済圏の再編② —ルネサンスとヨーロッパ経済— ・イタリア商人の活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第Ⅱ部 ヨーロッパ経済圏の再編③ —大航海時代とヨーロッパの拡大— ・大航海時代の背景および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第Ⅲ部 ヨーロッパ経済圏の発展① —オランダの躍進と衰退— ・近世オランダの経済構造について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第Ⅲ部 ヨーロッパ経済圏の発展② —イギリスの重商主義と市民革命— ・イギリス絶対王政や議会による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第Ⅲ部 ヨーロッパ経済圏の発展③ —フランスの重商主義と市民革命— ・フランス絶対王政による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを説明できる。
- ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを説明できる。
- ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		西洋経済史B					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである資本主義経済は、近世までにヨーロッパで形成された基盤の上に、産業革命以降の工業化を経て完成された。資本主義経済を理解するために、この工業化の歴史を学ぶことは不可欠である。そこでこの授業では、産業革命以降のヨーロッパ（とりわけイギリス・ドイツ）およびアメリカの経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、近現代における欧米の工業化の歴史を、その背景もふくめて理解する。							
〔到達目標〕 DP2－1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを理解する。 ②19世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを理解する。 ③2度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第Ⅰ部 産業革命による工業化① －イギリス産業革命－ ・イギリス産業革命の過程および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第Ⅰ部 産業革命による工業化② －ドイツおよびアメリカの工業化－ ・特徴あるドイツとアメリカの工業化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第Ⅰ部 産業革命による工業化③ －「バクス・ブリタニカ」の時代－ ・19世紀半ばにおけるイギリス経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第Ⅱ部 産業構造の転換① －第2次産業革命－ ・第2次産業革命における技術革新について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第Ⅱ部 産業構造の転換② －ドイツ経済の発展－ ・重工業を中心に独占が進んだドイツ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第Ⅱ部 産業構造の転換③ －アメリカ経済の発展－ ・国内市場と結び付いて発展したアメリカ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第Ⅲ部 現代の欧米経済① －第1次世界大戦後の復興－ ・大戦後におけるアメリカを中心とする復興について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第Ⅲ部 現代の欧米経済② －世界恐慌後の経済－ ・世界恐慌後における各国の対応について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第Ⅲ部 現代の欧米経済③ －第2次大戦後の欧米経済－ ・今日にいたるまでの欧米経済の歩みについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを説明できる。 ②19 世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを説明できる。 ③2 度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史 A」「比較経済史」「地域経済史」
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		比較経済史					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 人類がこれまでどのように生き延びてきたのかを解明することは、経済史の重要な課題の 1 つである。これを解明するために、ある特定の時代や地域の経済システムを観察する方法もあるが、それぞれ特徴をもついくつかの経済システムを比較することで、それらのシステムをよりよく理解できることもある。この授業では、全体を 3 つのパートに分け、各パートで複数の経済システムの比較を行っていく。これにより、どのような経済システムも、その背景にあるさまざまな状況からの影響を受けながら形成されていったことを理解する。							
〔到達目標〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて理解する。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて理解する。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第Ⅰ部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活① ―狩猟採集民の世界― ・人類が長いあいだ続けた狩猟採集生活について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第Ⅰ部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活② ―グラヴェット文化― ・寒冷地で開花したグラヴェット文化の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第Ⅰ部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活③ ―農耕牧畜の開始― ・農耕牧畜が人類の生活に与えた影響について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第Ⅱ部 古代オリエント世界の諸経済① ―農耕の開始とメソポタミア文明― ・農耕の開始とともに形成されたメソポタミア文明について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第Ⅱ部 古代オリエント世界の諸経済② ―地中海世界における興亡― ・地中海世界で展開されたさまざまな経済活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第Ⅱ部 古代オリエント世界の諸経済③ ―古代ギリシアおよびローマ― ・オリエント世界から影響を受けて形成されたギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第Ⅲ部 ヨーロッパとイスラーム① ―ヨーロッパ経済圏の形成― ・中世に形成されたヨーロッパ経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第Ⅲ部 ヨーロッパとイスラーム② ―イスラーム経済圏の形成― ・中世に形成されたイスラーム経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第Ⅲ部 ヨーロッパとイスラーム③ ―「ヨーロッパの成長」をめぐる― ・ヨーロッパ成長の原因についてイスラームと比較しつつ学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を 3 つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・小レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて説明できる。
- ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて説明できる。
- ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史 A」「西洋経済史 B」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		地域経済史					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121241500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである近代資本主義経済を理解するためには、その基盤となったヨーロッパ経済の歴史を理解することが欠かせない。この歴史にかんして、とりわけおよそ千年間続いた中世という時代において、その後のヨーロッパの拡大を決定づける重要な変革が生じたことは強調すべきである。この時代に「ヨーロッパ経済」という 1 つの特徴ある「地域経済」のシステムが形成されたのである。この授業では、おもにA. ピレンヌの概説書に依拠しつつ、中世ヨーロッパ経済について農業・商業・工業・貿易・都市経済などのさまざまな観点から丁寧に学んでいく。							
〔到達目標〕 DP2－1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について理解する。 ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について理解する。 ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第Ⅰ部 商業の衰退から復活へ① －中世初期のヨーロッパ経済－ ・中世初期にヨーロッパ経済が縮小した状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第Ⅰ部 商業の衰退から復活へ② －「商業の復活」－ ・11世紀ごろからヨーロッパで遠隔地商業が活発化した状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第Ⅰ部 商業の衰退から復活へ③ －都市と農村の生活－ ・中世ヨーロッパの都市および農村における生活について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第Ⅱ部 繁栄する中世ヨーロッパ経済① －大市と信用のしくみ－ ・中世ヨーロッパに特徴的な大市とそこで発達した信用について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第Ⅱ部 繁栄する中世ヨーロッパ経済② －遠隔地商業の隆盛－ ・地中海および北ヨーロッパで発達した遠隔地商業について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第Ⅱ部 繁栄する中世ヨーロッパ経済③ －都市における経済活動－ ・中世ヨーロッパ都市の経済活動について、工業を中心に学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第Ⅲ部 変化する中世ヨーロッパ経済① －ヨーロッパ全体を襲う危機－ ・黒死病などの大きな危機に襲われたヨーロッパ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第Ⅲ部 変化する中世ヨーロッパ経済② －都市の政策と大商人の活動－ ・危機を経て、都市および商業のあり方が変化する状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第Ⅲ部 変化する中世ヨーロッパ③ －ルネサンス期のヨーロッパ経済－ ・成熟するヨーロッパ経済とその近世への影響について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を 3 つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。							

・中間レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。
〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について説明できる。 ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について説明できる。 ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	社会史						
教員名	小林 正幸						
科目No.	121241600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 テーマ：「コミュニケーションの社会史」 この授業では、近代におけるコミュニケーションあるいはメディアを中心とした人々の営みを社会史として展開していく。 基本的には近代になって以降、メディアとコミュニケーションをめぐる文化や生活がどのように育まれていったのか、また、読書、出版、電子メディア、映画、テレビ、そしてインターネットに人々がどのように影響を受け、影響を与えてきてのか、その相互作用について議論する。 メディアへの理解とは、メディアの歴史、特に社会史的理解そのものといっている。日常的に触れるメディアではあるが、本講義では、そのような日常の実感がどのように構築されたのかを考察する講義である。							
〔到達目標〕 D P2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①国内外で論じられるメディアとコミュニケーションにはどのようなものがあるかを理解し、説明できる。 ②日本人論や日本文化論に関心をもち、現代社会の中で日本人のメディア観、コミュニケーション観から文化についての理解を深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	社会史とは何か 通常の歴史の授業と社会史の違いを理解するために、まず社会史とはなんであるのか説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	メディアって何 導入として、現在私たちが当然のように使用しているコンピュータ・テクノロジーがどのような社会的文脈で生じたのか説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	近代読者とは まず近代なるものをメディアとの関連で理解することを目的として、読者という存在自体が歴史的に現れたことを説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	読書行為とはなんであるのか 読書という行為は実は身体において生じることである。そして、その身体の有り様は変化する。それを読書空間という概念から接近する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	電子メディアと読書 活字離れが問題視される。そこで実際にどのような読書がなされているのか、電子メディアとの関係からも読書を位置付けていく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	写真という新しい眼 写真の登場が人々のコミュニケーションをどのように変化させてきたのか、現在のスマホの写真まで射程に入れて説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	映画とプロパガンダ 20 世紀直前映画が登場し、人々は映画をどのように利用しようとしたのか、その極北としてのプロパガンダについて説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	テレビの登場 テレビによって人々は現実とは異なる位相にあるイメージをこそ生きていくようになる。それが人々をどのようなコミュニケーションの規範に向かわせたのか説明する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	イメージの自律運動 身近に存在するテレビは、家庭や個室にイメージを組み込むようになる。そこにはテレビ的世界の脱神話化と再神話化がある。その流れを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	インターネットの過剰な語り インターネットが社会に浸透することが、人々の情報に対する態度姿勢の変化をもたらしている。その具体的な姿を例にあげながら解説していく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	SNS の登場 SNS におけるコミュニケーションの可能性と問題点について考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第 1 4 回	総括 ・メディアの社会史についてのまとめを行う。	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	120
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ・メディアコミュニケーションに対する社会的文化的理解。 ・日常で使用するメディアに対する考えの変化			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 教科書は指定しないがメディアに関する図書を何か参考にしてほしい。「購入の必要なし」ではあるが、以下の本をあげておく。 ダニエル・ブーアスティン『幻影の時代』東京創元社			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業中終了後、教室で受け付けます			
〔特記事項〕			

科目名		総合特殊講義（家族関係と法）					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121241700	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 『家族関係と相続に関わる法律と判例』 ・家族関係と相続に関する民法の基本的な制度とルールを理解し、具体的な相続紛争の事例をどのように解決すべきかを考察する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力・発信力】を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方 ・家族法（親族法・相続法）の基礎			授業内容の確認。		60 分	
第2回	家族関係（1） ・婚姻 ・離婚 ・事実婚・内縁			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第3回	家族関係（2） ・嫡出子・婚外子 ・普通養子・特別養子			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第4回	家族関係（3） ・親権の内容 ・親権の制限 ・離婚後の子の親権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第5回	家族関係（4） ・未成年者の後見 ・成年後見制度 ・扶養			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第6回	法定相続（1） ・相続人 ・相続の承認・放棄			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第7回	法定相続（2） ・相続財産 ・不動産の相続・相続登記 ・預貯金の相続 ・配偶者居住権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第8回	法定相続（3） ・相続分 ・遺産分割			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第9回	遺言相続（1） ・遺言の自由 ・遺言の方式 ・遺言の解釈			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第10回	遺言相続（2） ・遺贈 ・遺言の執行			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第11回	遺言相続（3） ・遺留分制度 ・遺留分の清算			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第12回	相続に関する紛争事例（1） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第13回	相続に関する紛争事例（2） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第14回	授業で学習した内容の全体をまとめるとともに、今後の法改正の課題を検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
〔授業の方法〕 ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・第12回、13回の授業では、相続に関する紛争事例として主要な最高裁判例の事案を取り上げて、その事案や関連事案をどのように解決するかを検討する。 授業のなかで受講者の意見を聞く。 ・課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。							

〔成績評価の方法〕 ・中間レポート課題 (40%)、期末レポート課題 (60%)。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の 2 点に着目し、その達成度により評価する。 ①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 ・『民法 7 家族』 山本敬三監修、有斐閣、2530 円、ISBN : 9784641151154
〔参考書〕 ・『民法 VI 親族・相続 (第 7 版)』前田陽一・本山敦・浦野由紀子著、有斐閣、3080 円、ISBN : 9784641179578「購入の必要なし」
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	総合特殊講義（国境の経済史）						
教員名	内田 日出海						
科目No.	121241710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 〔テーマ〕 ヨーロッパの国境地域の経済史 〔概要〕 ①EU の深化・拡大とともにヨーロッパの歴史は各国史の足し算としてより、むしろ一かたまりの枠組みとして語られることが多くなってきています。それとともに、近代の進むうちにしばしば分断されていた国境地域が今日その固有の歴史的なアイデンティティを蘇らせつつあります。 ②そうした視点に立つて本講義では、フランス・ドイツ・イタリア・スイスの近代国民国家形成史の学びを前提としつつも、これらの国どうしの政治・経済・文化関係が象徴的かつ集約的に現れる国境地域を扱うことで、経済史のより具体的で生々しい「現場」に触れます。 ③とくに国民史・国民経済史に単純には回収されないフリー・ゾーンの経済史、アルザスの経済史、密貿易、ライン河の経済史、といった切り口から越境の日常性をめぐる新しい地域研究領域を提示します。 ④と同時に、これらの作業を通じてさらにヨーロッパの諸国民史、諸国民経済史の学びにフィードバックします。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とします。 (1) ミクロ・ヒストリー（国境地域史）の凝視・追跡を通じてマクロ・ヒストリー（フランス、ドイツ、イタリア、スイスの近代史・国民経済史）の理解を深める (2) フランスとドイツの間、フランスとスイスの間の地域にフリー・ゾーン（関税免除区域）があり、独自の越境的な経済圏・生活圏があったことを学ぶ							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	序1：地理と歴史の相克（国境経済史へのアプローチ）			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第2回	序2：図像・写真・動画で見るヨーロッパの国境地域			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第3回	国境地域から見た国民国家史（1）：フランス			【予習】フランスの地理・歴史について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第4回	国境地域から見た国民国家史（2）：スイス			【予習】スイスの地理・歴史について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第5回	国境地域から見た国民国家史（3）：ドイツ、イタリア			【予習】ドイツ、イタリアの地理・歴史について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第6回	国境地域の地政学的考察：サヴォワ、ジュネーヴ、ジェクス			【予習】ジュネーヴの地理・歴史について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第7回	フリー・ゾーン（1）：世界、フランス、ドイツ、イタリア			【予習】世界のフリー・ゾーン（自由貿易特区・経済特区・保税加工区など）について調べておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】提示された諸地図を参照しつつ、講義内容をおさらいしておく。		100	
第8回	フリー・ゾーン（2）：関税発達史とフリー・ゾーン			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義の内容をおさらいしておく。		80	
第9回	フリー・ゾーン（3）：そのしくみと実態（商品の動き、保税加工区の可能性）			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】図とグラフを参照しつつ、講義内容をおさらいしておく。		80	
第10回	EU の地域政策と越境地域間協力（その現状と将来）			【予習】EU の基本的な組織について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第11回	アルザス政治経済史(1)：政治・文化史（独・仏領有の狭間で）			【予習】下記参考文献などでアルザスの歴史について下調べをしておく。CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		100	
第12回	アルザス政治経済史(2)：インターフェイスとしてのアルザス経済史の実像			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第13回	密貿易から見た国境経済史：フランスの「義賊」ルイ・マンドラン、ナポレオン大陸封鎖体制の現実			【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。		80	
第14回	「ヨーロッパの南北軸」ライン河の経済史、および第1回～第13回の講義のまとめ			【予習】13 回分の講義内容をチェックしておく。 【復習】講義で述べられた主要論点についておさらいしておく。		100	

〔授業の方法〕 ▶対面式の講義中心ですが CoursePower も活用します。図像・写真・動画などもできるだけ多く使用します。 ▶講義の理解を深めていただくために、授業内容に関連するテーマに関してレポートを 2 回課します。 ▶双方向性を確保するために、レビュー方式を使って毎回の授業内容に関して理解度をチェックします。これを小テスト代わりとします。必要に応じていくつかのレビューを次の回の冒頭に紹介して相互学習に資します。 ▶予習・復習用に毎回の講義メモ・ファイル（抄録 pdf 版）を CoursePower 上にアップします。
〔成績評価の方法〕 学期末試験：50% 2 回のレポート：20% 毎回のレビュー（＝小テスト）：30% により総合的に評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。 下記の点について目標の到達度を測ります。 (1) 地理と歴史の相克というレトリックで国境地方の経済史を整理できるかどうか (2) アルザス地域経済史の特徴を政治史と関連づけつつ述べるができるかどうか (3) フリー・ゾーンの実態と歴史的な意義について述べるができるかどうか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は不要です。先修科目はありません。 関連科目は、経済史の基礎、西洋経済史 A、西洋経済史 B、比較経済史、日本経済史 A、日本経済史 B、数量経済史、社会史、グローバル特殊講義（比較都市史）などの歴史系科目です。
〔テキスト〕 とくに使用しません。毎回、事前に講義メモを CoursePower 上にアップします。
〔参考書〕 ▶内田日出海『物語 ストラスブールの歴史——国家の辺境、ヨーロッパの中核』中公新書、平成 21 年 ▶P. ギンジョネ『フランス・スイス国境の政治経済史—越境、中立、フリー・ゾーン』（内田日出海・尾崎麻弥子訳）昭和堂、平成 23 年（初版第 2 刷） ▶内田日出海「アルザス経済史素描——周縁のポジティヴィティ」『BULLETIN』（日仏経済学会編）第 28 号、平成 24 年 ▶内田日出海『アルザス社会経済史——周縁の力学』刀水書房、令和 3 年 そのほか、講義の進行に合わせて随時紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイト等で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	総合特殊講義（社会哲学入門）						
教員名	岩城 志紀						
科目No.	121241720	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 「社会哲学」とは、社会・世界を織りなす制度に注目し、それらの正当性について考える学問です。また、制度がもたらす不正義に注目し、それらを解決する責任について考える学問でもあります。 人間は、長い歴史の中で、様々な制度を作ってきました。例えば日本という一国家だけを見ても、その国の経済・政治・福祉の在り方を大きく左右するような制度が無数に存在することに気づくでしょう。一方、グローバリゼーションの中で、超国家的な制度も急速に発展してきました。例えば、「世界経済」と呼ばれるシステム（制度の集合体）は、いまや、地球規模で人々の生活に大きな影響を与えています。私たちは、普段、こうした制度についてあまり疑問視せずに、日々の生活を営んでいるわけです。 しかし、これらの制度は、はたして「良いもの」なののでしょうか？言い換えれば、それらは「正当化できるもの」なののでしょうか？正当化できるとすれば、なぜでしょう？できないとすれば、なぜでしょう？社会哲学とは、私たちが普段は疑問視しない「制度」というものについて、その正当化の根拠（理由）を掘り下げていく学問です。 場合によっては、正当化できない制度が見つかるかもしれません。例えば、ある制度が機会格差等の不正義を生む場合、その制度は正当化できないと言えるでしょう。その場合、不正義のある現状、あるいは不正義をもたらす制度そのものを、何らかの方法で改善していかなければならないでしょう。では、誰が、どのような理由で、改善に向けた責任を負うべきなのでしょう？これもまた、社会哲学が扱う重要な疑問です。 この授業を通じて、学生ひとりひとりが社会・世界と真剣に向き合い、自分の生き方や社会・世界の在り方について深く考えていけるようになってほしい。そう願っています。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下の5点を到達目標とします。 ① ひとつの空間（社会や世界）を共有する者同士、どのような関係を築いていくべきか、深く考えられるようになること。 ② 授業で学んだ視点や考え方を踏まえつつ、自分自身の意見を組み立て、他者に伝わるような形で発信できるようになること。 ③ 現状を安易に受け入れることなく、現状の問題を乗り越え、新たな未来へと繋げていく意志や責任感を養うこと。具体的には、次の2点ができるようになること。 － 社会・世界を広く見渡し、人類が直面している様々な現代的課題について客観的・批判的に考察し、今後どのような方向に社会・世界が進むべきかについて考えられるようになること。 － 社会・世界を今よりも良くするために自分にできることは何か、真剣に考えられるようになること。 ④ 授業で学んだ視点や他者の意見に対する自分なりの考えを、他者に伝わるような形で発信できるようになること。 ⑤ 他者の意見を尊重しつつ、その意見に対し建設的なコメントを加え、他者（および自分）がさらに深く考えるきっかけを作れるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	「社会哲学」とは何か			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第2回	なぜ国民は政府に従わなければならないのか			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第3回	民主主義、その是非を問う			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第4回	国家と経済 － 福祉国家と最小国家、どちらが正義に合うのか			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第5回	フェミニズムと多文化主義 － 国家は多様性をどのように受け入れるべきか			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第6回	力と権威 － 社会の陰に潜むもの			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第7回	グローバリゼーションと社会哲学 － 地球視点で考える「国家」と「正義」			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第8回	グローバル正義論① － 妥当な正義・不正義の判断基準は何か			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第9回	グローバル正義論② － なぜ富裕層が責任を負うべきなのか			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第10回	経済と倫理 － 道徳的に正しく生きることが、なぜ、こんなにも難しいのか			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第11回	哲学と現実の接点① － 世界人権宣言			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第12回	哲学と現実の接点② － SDGs			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	
第13回	最終課題論文について			【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。		60	

第14回	まとめ	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
〔授業の方法〕 ☐ 「知る→考える→議論する→さらに深く考える」という建設的プロセスを重視します。 ☐ 講義中、講義内容に関するグループ・ディスカッションまたはオープン・ディスカッションを行います。 ☐ 最終課題として、講義で学んだ哲学者の視点や、ディスカッションで生まれた様々な意見をもとに、論文（A4、2～3ページ程度）を書いてもらいます。			
〔成績評価の方法〕 講義／ディスカッションへの参加姿勢：30% リアクション・ペーパー：30% 学期末課題論文：40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。 ① 与えられた課題について自分の言葉で説明することができること。 ② 授業で学んだ知識やディスカッションで挙げられた他者の見解、および独自の事前調査を踏まえつつ、自分なりの意見を盛り込んでいること。 ③ 論理的かつ明快な文章で表現できていること。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 なし。講師の作成した「講義スライド」や「講義ノート」を使用します。			
〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問や相談は、授業の前後またはオフィス・アワーに受け付けます。オフィス・アワーは学内専用ホームページで告知します。			
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング			

科目名		企業を取り巻く法律					
教員名		盛里 吉博					
科目No.	121251000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 いかなる企業の活動も、法律とは無縁ではられません。法律は、企業が経済活動を行う上で守るべきルールであると同時に、経済社会を支える重要なインフラでもあります。 例えば、上場企業が自社製品を販売する場面を考えてみましょう。製品の販売について相手方企業と契約を締結することになりますが、担当者となったあなたに民法の素養があれば交渉のポイントが分かるでしょう。この契約が会社にとって重要であれば、取締役会の承認を得なければならず、会社法の知識が求められるかもしれません。また、相手方が零細企業であることをよいことに一方的に有利な条件で契約を締結した場合には、市場における公正競争維持のための法律である独占禁止法の違反となってしまうかもしれません。契約交渉が連日長引いて部下に残業をさせれば労働法が問題になり、ようやく交渉がまとまった際には、金融商品取引法上の情報開示が必要となるかもしれません。このように企業活動においてはいたるところに法律が顔を出してきます。細かな法律知識は必要ありませんが、法律の基本的な考え方を概観しておくことは、将来、企業活動にかかわる上で必ず役に立つことでしょう。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学部の学生として、企業社会において生起する様々な事象について、法律面からの分析・検討を行うための基礎的な素養及び視座を身につけることを目標とします。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	企業をとりまく法律の概要			【予習】シラバスを読み、講義の概要を把握する。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第2回	企業と民法			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第3回	株式会社の基本構造			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第4回	株式会社における株式			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第5回	株式会社におけるガバナンス			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第6回	株式会社における計算			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第7回	小テスト 株式会社における資金調達（1）			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】第6回までの講義内容を復習。 中間課題レポートの作成、提出を行う。		120	
第8回	株式会社における資金調達（2）			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第9回	企業と M&A（1）			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第10回	企業と M&A（2）			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第11回	企業と M&A（3）			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第12回	企業と市場 ― 金融商品取引法			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第13回	独占禁止法、労働法			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。		60	
第14回	企業紛争解決			【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回までの全講義内容を復習。		120	
〔授業の方法〕 授業は、事前に配布する講義資料を基に講義を中心に進めます。主に復習に力を入れ、次回の講義までに分からないところを持ちこさないようにしてください。上に示された準備学修の時間はあくまで目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むようにしてください。 第7回目の講義の前後で、中間テスト（小テスト）を行う予定です。テスト実施回以前までの講義内容を理解していれば標準以上の評価を得られる基本的な内容を想定しています。							
〔成績評価の方法〕							

中間テスト（小テスト）：35％
学期末試験：65％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①会社法の基礎的な概念を理解し、明確に説明できる。
②民法、金融商品取引法、独占禁止法、労働法等の関連法律分野の基礎的な事項を理解している。
③企業社会において現実には生起している事象について、法律的な側面から分析・検討し、問題点を分かりやすく説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
法律の予備知識は不要です。講義においては、「契約」、「株式」など、法律の基本的事項から説明するとともに、実際に新聞報道等で取り上げられている時事問題についても可能な限り取り上げて解説することを予定しています。

〔テキスト〕
特になし。毎回の講義の前に、講義資料を配布します。

〔参考書〕
特になし。
なお、「e-Gov 法令検索」を利用して、インターネット上で法律の条文を入手することが可能ですので、必要に応じて利用してください。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後の教室又は初回授業で周知する電子メールアドレスへの電子メールの送付により随時質問を受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	企業経済特殊講義（日本経営史）						
教員名	太田 愛之						
科目No.	121251120	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 日本の企業は現在大きな曲がり角に立っている。20 世紀後半に営々として形作ったこれまでのあり方が、通用しなくなってきたのである。これはレジームの転換であるとして間違いない。いわゆる「日本的経営」を構成する諸契機の中には、失いたくないものがたくさんあることは事実だが、舵取りを誤ってレジームの転換に身を委ねるならば、後世に悔いを残す結果となるだろう。 しかし、このようなレジームの転換は、長い目で見るならば何度も経験してきたことである。日本の経営者は、古くも 300 年以上前に合名会社・合資会社的な資本結合を発明し、それなりに合理的な経営管理を試みてきた。日本が近代化する過程では、進んで西洋の先進的経営方法を受け容れ、明治初年にして雨後の筍のごとき株式会社の叢生を見た。繊維産業に代表される軽工業が軌道に乗ると、さらに重化学工業化を進め、財閥系企業をはじめとする大企業が 1940 年頃までに「日本的経営」の原型を形成した。日中戦争および第二次世界大戦を挟み、この日本的経営は日本を高度経済成長に導き、続く安定成長期には先進国の中でも模範的なあり方としてもはやされた。今、それが行き詰っているのである。 講義では、上に述べた大きな流れを具体的にたどって行くことにする。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①日本経営史の基本的な流れを理解し、説明できる。 ②経営発展を貫く基本法則を個別具体的な事象と関連付けられる。 ③日本企業の経営のあり方とあるべき姿について、明確な見識を涵養する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 経営史とは何か ・日本経営史を学ぶ意義について理解する。			【予習】テキストの「初版まえがき」および「エピローグ」を熟読。		60	
第 2 回	日本経営史の揺籃（第 1 章第 1 節） ・江戸時代の経営環境と経済発展について学修する。			【予習】テキスト第 1 章第 1 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	江戸時代の商家経営（第 1 章第 2 節・第 3 節） ・江戸時代の商家経営、とくにその経営システムについて学修する。			【予習】テキスト第 1 章第 2 節・第 3 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。授業で省略されるテキスト第 1 章第 4 節を熟読。		60	
第 4 回	近代的経営組織の形成（第 2 章第 2 節） ・明治期における企業家、会社制度の発展、政商と財閥、専門経営者の出現および在来経営の革新について学修する。			【予習】テキスト第 2 章第 2 節を熟読。授業で省略される第 2 章第 1 節についても熟読して理解を深めておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	近代的経営管理の形成（第 2 章第 3 節） ・技術導入の担い手、初期の工場と労働および会計制度の形成について学修する。			【予習】テキスト第 2 章第 3 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	明治国家と企業（第 2 章第 4 節） ・殖産興業政策と官業払下げ、金融機関と企業、日清戦後の政府と企業、経済団体の形成および貿易の展開と企業について学修する。			【予習】テキスト第 2 章第 4 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	大企業時代の到来（第 3 章第 2 節） 企業の合併・集中運動とカルテル活動、4 大財閥の覇権確立および財界の形成について学修する。			【予習】テキスト第 3 章第 2 節を熟読。授業で省略される第 3 章第 1 節についても熟読して理解を深めておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 授業後、中間レポートの課題を公表し、提出を求める。		60	
第 8 回	新興産業の勃興と産業開拓活動（第 3 章第 3 節） ・信仰重化学工業の勃興、「都市型」産業の誕生および在来産業の発展について学修する。			【予習】テキスト第 3 章第 3 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	企業活動の国際化と経営管理の進展（第 3 章第 4 節・第 5 節） ・日本企業の国外進出、外国企業の日本市場進出、現代企業の出現と専門経営者の成長、日本型人事労務管理の生成と経営家族主義および経営合理化と「科学的管理法」の導入について学修する。			【予習】テキスト第 3 章第 4 節・第 5 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 10 回	大企業体制の変遷（第 4 章第 2 節） ・1930 年代の大企業体制、財閥の拡大と再編、財閥解体および企業集団の形成と二重構造の再現について学修する。			【予習】テキスト第 4 章第 2 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 11 回	労使関係の変化（第 4 章第 3 節） ・1930 年代の労使関係、産業報国体制下の労使関係、戦後労働運動の高揚および企業別組合の定着について学修する。			【予習】テキスト第 4 章第 3 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 12 回	技術開発の推進と経営管理の展開（第 4 章第 4 節・第 5 節） ・1930 年代の技術動向、戦時下の技術政策と技術開発、軍需から民需への転換、技術導入と研究開発、産業合理化運動の展開、戦時下の経営管理、戦後改革期の経営管理およびアメリカ的経営管理の導入と定着について学修する。			【予習】テキスト第 4 章第 4 節・第 5 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 13 回	高度成長とその後の日本経済の変転（第 5 章第 1 節） ・高度経済成長期、安定成長期、長期不況期の経営環境および代表的企業の変遷について学修する。			【予習】テキスト第 5 章第 1 節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。授業で省略される第 5 章第 2 節以下についても熟読して理解を深めておく。		90	

第 1 4 回	まとめ ・これまでの学修内容について、理解度を確認するための復習・質疑応答を行う	【予習】最終レポート作成に備え、これまでの学修内容を確認する。	120
〔授業の方法〕 パワーポイントによるスライドを用い、講義形式で行う。受講者は教科書を携帯・参照しつつ、必要に応じてスライドの内容をノートに取ることが求められる。なお、中間レポートと最終レポートの狙いは以下のとおりである。 ・中間レポート：それまでの講義をどのように理解してきたかを問い、フィードバックを通じて以後の学修に方向付けを与える。提出内容により、受講者の理解度および授業への取り組みの真剣さを確認する。なお、実施時期は第 7 回授業終了とを目途とするが、授業中のスケジュール公表と CoursePower の更新に留意して提出のしそびれがないよう留意すること。 ・最終レポート：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕 中間レポートへの評価（20%）、最終レポート（80%）で評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本近世史・近現代史に関する基本知識が必要である。関連科目としては、近代日本経済史・現代日本経済史・企業経営史・現代日本経済等が挙げられるが、それらの履修を条件とはしない。			
〔テキスト〕 宮本又郎ほか『日本経営史[第 3 版]』（有斐閣）定価 3,600 円＋税、ISBN978-4-641-16617-2			
〔参考書〕 J・ヒルシュマイヤー、由井常彦『日本の経営発展』（東洋経済新報社）定価 3,900 円＋税 経営史学会『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）定価 3,300 円＋税 『講座・日本経営史』全 6 巻（ミネルヴァ書房）定価各 3,800 円＋税 いずれも購入の必要はない。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。また、CoursePower 上の掲示板や電子メールでのやり取りにも応じる。			
〔特記事項〕			

科目名		企業経済特殊講義（企業の東京集中問題）					
教員名		中島 正博					
科目No.	121251130	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 近年、東京への一極集中が問題だとされている。人口の集中とともに、いわゆる大企業（の本社）が東京に集中している。そのことがなぜ問題なのかを考える際に、いつごろからどのような要因で集中するようになったのかを考えることも重要なことである。本講義は、企業の東京集中についての要因を歴史的に振り返ることを目的とする。経済学の理論や数式については、特に言及しない。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を獲得するため、以下を到達目標とする。 ①企業の都市への集中について、要因について理解し、説明できる。 ②企業の都市への集中について、その弊害について理解し、説明できる。 ③企業が都市へ集中することの一般論と、「TOKYO」への集中との相違について、理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション データで見る企業の東京集中			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 2 回	戦前の日本経済と都市			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	戦後復興と企業			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	高度経済成長と地域開発			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	都市問題			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	過疎問題			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	石油ショックと低成長			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	田園都市構想と三全総			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	世界都市 TOKYO と四全総			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	ブラザ合意（1985 年）からバブル経済の中での東京			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	地方分権・地方創生			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	世界都市 TOKYO の「完成」と未来			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	企業の東京集中による社会課題とその解決のために			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	まとめ			【予習】 レジメを読み、不明な語句等はあらかじめ調べておくこと。 【復習】 キーワードについて説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕 講義（対面）。 講義前週に「レジメ」をポータルサイトにアップするので、不明な単語等はあらかじめ調べておくこと。							
〔成績評価の方法〕 定期試験（70%） 期間中に提出するレポート（30%）。提出機会は 4 回程度設け、上位 3 回分を評価として採用します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 成績評価は、到達目標の達成具合に応じて行う。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 必要な文献等は、講義中に紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		金融に関する法律					
教員名		坂田 典一					
科目No.	121252000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 「お金の流れ」「お金の貸し借り」という「金融」は、日本銀行、金融市場、金融機関等が担い手となり、各経済主体（国・地方公共団体、民間企業・個人）がそれぞれの事業運営や生活の円滑・安定のために利用する重要なシステムであることは承知のとおりです。 この講座では、金融システムを支える「法律」その他のルールを、以下の2つの側面からできるだけ平易に解説します。 第1に、国民経済上重要な金融システムを国が規制することにより、利用者を保護すると共に、金融システムの安定・健全性を確保する「金融監督法」の分野 第2は、金融機関と利用者との間の金融サービスの取引の内容、利害を調整するための「金融取引法」の分野 この講義で取り上げる金融サービスは「身近な伝統的金融サービス」としますが、最近の動向についても重要なものは解説します。 また、受講生は消費者であると共に社会人としての準備段階にある、という観点から、商品内容や法律の仕組みの他に、金融サービスのポイントや注意点を含めて解説するように努めます。 なお、講義対象とする金融サービスは、受講生と以下の関係にある5分野とします。 ・銀行取引は、経済生活の基盤であること。 ・保険は、日常生活のリスク管理上重要な手段であること。 ・クレジットカード等のキャッシュレスは、生活上 common になっていること。 ・FinTech は、身近になってきていて共に、今後の社会・経済環境を変革すること。 ・株式は、日本経済の重要な担い手である株式会社の理解にも役立つこと。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 (1) 基本的な金融サービスの概要と、金融サービスを規制する法律等の基本的な内容を習得する。 (2) 金融サービスの利用に関する消費者のトラブル・問題点と対応策のポイントを理解し、説明できる。 (3) 金融サービスの利用を含む、市民生活の基盤である民法その他消費者法のポイントを習得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	◆ ガイダンス ・ 授業の内容、予・復習の仕方等を説明する。 ◆ 金融と民法（その1） ・ 金融サービスのベースとなる民法のうち、取引を規定する契約その他の財産法の基本的な内容を習得する			【予習】資料1（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第2回	◆ 金融と民法（その2） ・ 金融サービスのベースとなる民法のうち、婚姻等の親族・相続に関する家族法の基本的な内容を習得する。			【予習】資料1（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第3回	◆ 保険（その1） ・ リスクマネジメント、保険の原理、保険取引を規制する法律、保険契約のポイントを理解する。 ◎ 資料1から第1回レポート課題を提示する。			【予習】資料2（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第4回	◆ 保険（その2） ・ 生命保険・損害保険の主な商品の概要と機能のポイントについて理解する。			【予習】資料2（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第5回	◆ 保険（その3） ・ 受講生に身近な自動車保険と自転車保険について、事故の状況、法的な問題、保険の概要と利用上のポイントを理解する。			【予習】資料2（3）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第6回	◆ キャッシュレス決済（その1） ・ キャッシュレス決済の全体像、クレジットカードの取引の仕組みと規制法を理解する。 ◎ 資料2から第2回レポート課題を提示する。			【予習】資料3（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第7回	◆ キャッシュレス決済（その2） ・ クレジットカードに関するトラブルと留意点・対応法を理解する。 □ 第1回レポート課題について解説する。			【予習】資料3（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第8回	◆ キャッシュレス決済（その3） ・ クレジットカード以外のキャッシュレス決済の仕組みと規制法および利用上の留意点を理解する。			【予習】資料3（3）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第9回	◆ 預金・決済取引（その1） ・ 銀行の三大業務（預金・融資・為替）、日本銀行の機能の概要を理解する。 ◎ 資料3から第3回レポート課題を提示する。			【予習】資料4（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第10回	◆ 預金・決済取引（その2） ・ 預金に関係するトラブルと対応方法の概要を理解する。 □ 第2回レポート課題について解説する。			【予習】資料4（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第11回	◆ 株式会社と株式（その1） ・ 会社・株式会社と株式の種類・機能・特徴などと、両者の関係の概要を理解する。			【予習】資料5（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	
第12回	◆ 株式会社と株式（その2） ・ 株式投資の方法・市場、投資リスクの概要を理解する。			【予習】資料5（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		90分	

第 1 3 回	◆ FinTech (その 1) ・FinTech の全体像・動向・特徴等を俯瞰して理解を深めると共に、伝統的な法体系や規制との関係を理解する。	【予習】資料 6 (1) を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。	90 分
第 1 4 回	◆ FinTech (その 2) ・暗号資産その他の FinTech の代表的なサービスと、これを規制する法律およびこれらの動向を理解する。 □ 第 3 回レポート課題について解説する。	【予習】資料 6 (2) を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。	90 分
〔授業の方法〕 ① 授業は、配布資料に基づく講義を中心に進めます。 ② 受講生は、配布資料、自分で記述したノートにより復習して、不明点は質問により解明してください。 ③ 「準備学修」の時間は目安であって、各自の理解度に応じた取組みが必要です。 ④ 小テスト・レポートの目的は以下のとおりです。 ・ 小テスト：毎回の講義・資料についての基本的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 (小テストの回答期限は、次の授業日の前日までとします。) ・ レポート：解答に必要な事項を主体的に調べると共に、学修内容と併せて自己の考察を加え、論理的に思考・記述することができるかを確認する。			
〔成績評価の方法〕 ◆ 課題レポート (3 回 : 60%)、到達度確認テスト (1 4 回 : 40%) による総合評価を基本としつつ、講義に関する質問・意見表明等の積極的な参加はプラス評価 (最大 10%) します。			
〔成績評価の基準〕 ◆ 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠して評価します。 ◆ 次の点に着目して、その達成度により評価します。 ① 具体的な事例に対して、学修内容に加えて、自己の調査・考察を加えて論理的に思考できる。 ② 金融商品と、それを支える法律その他のルール of the 概要が説明できる。 ③ 金融商品を巡るトラブルと、それに対する留意点・対応法の概要が説明できる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に必要とされる予備知識はありません。			
〔テキスト〕 特にありません。			
〔参考書〕 必要に応じて、講義の中で推薦します。			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ◆ 講義内容等に関する質問・要望は、次のいずれかにより連絡してください。 ① 授業終了後に教室で申し出る。 ② 講義資料に表記するアドレス宛にメールで連絡する。 ③ CoursePower 上の「Q&A 質問通知」に提出する。			
〔特記事項〕 該当ありません。			

科目名		環境経済学B					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121253000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 日本の環境政策は公害対策や自然環境保護から発展してきたが、廃棄物、資源・エネルギー、気候変動などのように取り組むべき環境問題は広がり続けている。本講義は、日本の環境問題や、環境政策を中心として、その歴史・目的・効果などを紹介しながら、これらの問題と対策を描写する簡単な経済モデルを解説する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①環境問題・環境政策に関係する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。 ②問題解決・政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス&イントロダクション 環境問題における社会科学の視点			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 2 回	1. 環境問題とは何か 類型・特徴・公害			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 3 回	1. 環境問題とは何か 公害と環境法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 4 回	1. 環境問題とは何か （経済学）公害と規制			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 5 回	2. 裁判と補償 特別措置法と患者認定基準			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 6 回	2. 裁判と補償 （経済学）量規制と患者認定			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 7 回	3. 廃棄物問題 廃棄物の定義・類型と日本の現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 8 回	3. 廃棄物問題 一般・産業廃棄物対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 9 回	3. 廃棄物問題 （経済学）廃棄物関連対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 1 0 回	4. エネルギー問題 歴史・定義・現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 1 1 回	4. エネルギー問題 政策動向			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 1 2 回	5. 環境評価法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 1 3 回	5. 環境評価法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
第 1 4 回	総括			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60`90 分	
〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて講義資料を配布する。数回の小テスト、期末試験が予定されている。							
〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数＝小テスト（3 0％）＋期末テスト（7 0％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

①環境問題・環境政策に関係する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。

②問題解決。政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、環境関連科目全般とミクロ経済学関連科目が挙げられる。

〔テキスト〕

特に指定しない。ただし、以下の書籍を中心に講義資料を作成する。

浅子和美・落合勝昭・落合由紀子(2015)『グラフィック 環境経済学』新世社（購入の必要なし）

〔参考書〕

[1]栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』有斐閣, ISBN978-4-641-17729-1, ¥2,400+tax

[2]有村俊秀・日引聡(2023)『入門 環境経済学 新版』中公新書, ISBN978-4-12-102751-1, ¥900+tax

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		経済地理学A					
教員名		木戸口 智明					
科目No.	121253100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義は、経済地理学の観点から日本の農業・農村の変容メカニズムについて学習します。食べ物は人間が生きていくうえで欠かすことのできないものですが、現代の食生活は国内外にわたる生産・加工・流通の仕組みによって成り立っています。本講義では、経済地理学の基本的な考え方を学習しながら、私たちの食生活がいかなるシステムによって成り立っているのか、農業を中心とした地域社会がどのような変化を遂げてきたのかについて理解することを目的とします。							
〔到達目標〕 DP1-1（現代経済学科の専門分野に関する知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とします。 ① 経済地理学の基本的な考え方について理解すること。 ② 日本における食料供給構造の変容メカニズムについて理解すること。 ③ 近年の農村社会が抱える課題について説明できること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			シラバスの確認 講義内容の復習		60	
第2回	農業・農産物の特性			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第3回	資本主義における農業			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第4回	チューネンの農業立地論			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第5回	高度成長と基本法農政			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第6回	農産物の産地形成			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第7回	農産物過剰と生産調整			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第8回	農村工業化と農家兼業			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第9回	貿易自由化に対する日本農業の対応			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第10回	食生活の変化			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第11回	アグリビジネス			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第12回	農業経営の大規模化・法人化			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第13回	「地方消滅」論			疑問点の整理（予習）、講義内容および参考書の復習		60	
第14回	まとめ			前回までの講義で分からない点の確認、講義内容の振り返り		60	
〔授業の方法〕 講義形式で進めます。講義では担当教員が作成したスライド資料を用います。毎回の講義でリアクションペーパーを配布するので、講義内容に関する感想や疑問点などを自由に記述し、講義終了時に提出してください。							
〔成績評価の方法〕 平常点 40%、期末試験 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 以下の 3 点から評価基準とします。 ① 経済地理学の基本的な考え方が理解している。 ② 日本における食料供給構造の変容メカニズムについて理解している。 ③ 近年の農村社会が抱える課題について説明することができている。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は特に必要ないですが、経済地理学 B、社会経済地理学とあわせて履修することがのぞましいです。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 いずれも「購入の必要なし」ですが、予習・復習のために手元にあることが望ましいです。なお、伊藤ほか（2020）は「社会経済地理学」でもテキストとして使用します。この他の参考書は講義内で適宜紹介します。 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）：『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。ISBN-13：9784623086917 荒木一視（2013）：『食料の地理学の小さな教科書』ナカニシヤ出版。ISBN-13：9784779507939 山下一仁（2022）：『国民のための「食と農」の授業 ファクトとロジックで考える』日本経済新聞出版。ISBN-13：9784532359164 増田寛也編（2014 年）：『地方消滅』中公新書。ISBN-13：9784121022820
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		経済地理学B					
教員名		加藤 幸治					
科目No.	121253200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 この授業では経済地理学のなかでも、地域経済や地域政策に関わる諸問題を扱う。 具体的には、日本における地域政策の展開を題材にしながら、それぞれの時期において地域（経済）のおかれた状況やそれに対する政策的対応、その理論（地域経済論）的な背景などについて学ぶ。これらを通じて、サステナビリティの観点から、これまでの日本の経済・社会現象について、把握できるようにする。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・日本の地域政策の展開の概要・問題点を説明できるようになる。 ・主たる政策の理論（地域経済論）的な背景、目的、諸結果を説明できるようにになる。 ・現在の地域開発の問題について概要を説明できるようにになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスの確認（予習） 講義内で話した内容の確認		60	
第 2 回	地域政策とは			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習		60	
第 3 回	戦後復興・三大改革（前史）			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 4 回	資源開発と産業基盤の整備：波及効果・逆流効果			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 5 回	拠点開発：「成長の極」			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 6 回	大規模開発とその後：エネルギー基地			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 7 回	開発の弊害：公害問題			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 8 回	テクノポリス構想：生活圏とハイテク産業			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 9 回	リゾート構想：“at the last resort”			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 1 0 回	リゾートブームとその後			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 1 1 回	地域政策の転換と産業クラスター：産業クラスター論			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 1 2 回	グローバル化と地方創生			内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習。		60	
第 1 3 回	到達度確認テスト			テストに備えた予習（これまでの授業内容の復習）		180	
第 1 4 回	テストの解説 サービス経済化と地域間格差：累積的因果関係			本講義全体の疑問点など質問事項がないか等の確認（予習）。 本講義の内容の確認など通常の復習と全体のまとめと整理		120	
〔授業の方法〕 講義を中心に、授業は行う。パワーポイントの提示を中心に、図表プリントなどを参照しながら講義の内容を理解してもらうようにする。							
〔成績評価の方法〕 数回の小レポートと到達度確認テストによって、成績評価を行う。少人数の場合、テストはレポートに代える場合がある。 小レポート 20～30％ 到達度確認テスト（レポート） 70～80％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 - 日本の地域政策の展開の概要，問題点を説明できる。 - 主たる政策の理論（地域経済論）的背景，目的，諸結果を説明できる。 - 現在の地域開発の問題について説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 経済地理学 A とあわせて履修するとよりよい。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 いずれも本授業のためだけにであれば「購入の必要なし」ではあるが，伊藤ほか（2019）は予習・復習のために手元にあることが望ましい。その他参考書は講義中に適宜紹介する。 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）：『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。 根岸裕孝（2018）：『戦後日本の産業立地政策：開発思想の変遷と政策決定のメカニズム』九州大学出版会。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

※最終版と異なる場合があります。

科目名		地球環境問題					
教員名		野津 雅人					
科目No.	121253300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、私たち人類を含む多くの生物が生きていくための場所と資源を提供してくれる地球環境を取り扱います。全体がひとつの安定なシステムとして長期間の均衡を保ってきた地球環境は、有史以来の人類の旺盛な活動により揺るがされ、私たち自身の生存にも影響を与えつつあります。この講義では、このような地球環境を考えるために - 地球上で起こる環境問題とその背景となる環境を形作るメカニズムを学ぶ - 過去・現在に起こった環境問題について、発生から解決までのストーリーを追いかける - 今後人類に影響を与える気候変動などの環境問題が与える影響と解決方法を論じる といったことを行います。							
〔到達目標〕 地球環境問題に関して、 - DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を行い、 - DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を行うための 素養を身につけることが目標です。具体的な目標を以下にあげます： - 環境問題発生の原因理解に必要な地球科学の基礎知識を身につける。 - 環境問題を解決するために必要な対策を自分で提案するための情報収集・分析・論理的思考力を身につける。特に、「与えられた情報を批判的に捉え、吟味し、評価する」習慣を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス (1) 環境問題とそれを解決する環境科学 1			シラバスの確認		60	
第 2 回	(1) 環境問題とそれを解決する環境科学 2			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた 予習		60	
第 3 回	(2) 大気汚染			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた 予習		60	
第 4 回	(3) 酸性雨 (D-1) グループディスカッションの準備 1			- (3 酸性雨) 前回の復習、および、事前配布資料や参考書 などを用いた予習 ※この回では説明を行うだけなので、グループディスカ ッションに関する予習は不要です		60	
第 5 回	(4) 成層圏オゾン層			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた 予習		60	
第 6 回	(5) 水質汚染 (D-1) グループディスカッションの準備 2			- (5 水質汚染) 前回の復習、および、事前配布資料や参考 書などを用いた予習 - (D-1) グループディスカッション指定参考書の章ごとの 内容を把握する		70	
第 7 回	(6) 土壌汚染			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた 予習		60	
第 8 回	(D-2) グループディスカッション			グループディスカッション指定参考書の担当する章を読む		75	
第 9 回	(7) 気候変動 [7-1] 気候とは何か？ [7-2] 惑星気温の決定メカニズムと温室効果			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 0 回	(D-3) グループディスカッションの発表 1			グループディスカッションの準備		75	
第 1 1 回	(7) 気候変動 [7-3] 気候変動の影響 [7-4] 緩和策と適応策			前々回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用い た予習		60	
第 1 2 回	(D-3) グループディスカッションの発表 2			グループディスカッションの準備		75	
第 1 3 回	(8) 講義全体のまとめ 1			ここまでの全ての講義内容の復習		75	
第 1 4 回	(8) 講義全体のまとめ 2 学期末到達度テスト			ここまでの全ての講義内容の復習		120	
〔授業の方法〕 ・ Course Power で配布する講義資料ファイルをプロジェクト投影しながら解説を行います。 ・ 履修者が過大にならない限り、地球環境問題に関するグループディスカッションを行います。3～8 名程度のグループごとに、(a) 指定する参考書の 1 章（30 ページ程度）を読み、(b) 書かれている内容をレポートした上で、(c) それに対する意見・批判・対案などを含んだプレゼンテーションを行っていただきます。講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に、自分なりの批判や考察を行えることを評価します。							

- 宿題レポートを課します。グループディスカッションを行う場合は 1 回。行わない場合は 2 回課す予定です。上記のグループディスカッションと同様に、講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に、自分なりの考察を行えることを評価します。
 - ミニレポート（講義内で完成）を課します。実施の趣旨は宿題レポートと同様です。グループディスカッションを行う場合は 3 回。行わない場合は 4 回課す予定です。
 ※上記の講義計画はグループディスカッションを行う場合のものです。

〔成績評価の方法〕
 - 学期末到達度テスト（60%）
 - 平常点（40%）。内訳は以下の通り：
 ○ グループディスカッションを行う場合
 (i) 講義、講義内ミニレポート、グループディスカッションへの参加状況（24%）
 (ii) 宿題レポートの提出状況とレポートに対する評価（16%）
 ○ グループディスカッションを行わない場合
 (i) 講義、講義内ミニレポートへの参加状況（15%）
 (ii) 宿題レポートの提出状況とレポートに対する評価（25%）

〔成績評価の基準〕
 - 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
 - Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.
 - 講義の到達目標である以下三項目：
 1: 環境問題発生の原因理解に必要な地球科学の基礎知識
 2: 与えられた情報を批判的に捉え、吟味し、評価する能力
 3: 問題解決に必要な対策を自分で提案する素養
 の習得への到達度に基づき評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
 特にありません。

〔テキスト〕
 特にありません。

〔参考書〕
 - 『文系のための環境科学入門 新版』，藤倉良氏・藤倉まなみ氏，有斐閣，2530 円，ISBN 978-4-641-17423-8，購入の必要なし
 (以下はグループディスカッションを行う場合に使用予定の参考書)
 - 『みんなで考える地球環境 Q&A 145 地球に代わる惑星はない』，マイク・バーナーズ=リー氏（藤倉良氏訳），丸善出版，3080 円，ISBN 978-4-621-30743-4，購入の必要なし
 - 『100 兆円で何が出来る？ 地球を救う 10 の思考実験』，ローワン・フーパー氏（滝本安里氏訳），化学同人，3080 円，ISBN 978-4-7598-2095-9，購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
 - 講義時間の前後に教室で受け付けます。
 - 講義時間後にメールでも受け付けます。
 - 質問等のメールアドレスは講義内でお知らせします。

〔特記事項〕

科目名		資源経済学					
教員名		清水 政行					
科目No.	121253400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義では、途上国の貧困問題や資源利用に関わる開発課題を取り上げて、「貧困はどうして存在し続けるのか」や「開発のためにどのように資源を活用するべきか」をテーマに、“開発経済学”をベースにしながらミクロ経済学的な観点から学習を進める。授業では、教科書の流れに沿いながら各回のテーマを決めて、関連する箇所については参考書も参照しながら理解を深めていく。ただし、理論面については、簡単な数式や経済モデルを使用するため、教科書よりも上級の内容になる。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）および DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	貧しい人々の暮らし ：開発のミクロ経済学と市場の不完全性 [テキスト：黒崎・栗田（2016）プロローグ] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）1 章] [参考書：黒崎・山形（2017）2 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 2 回	農業Ⅰ ：小農は搾取されているのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）1 章] [参考書：黒崎・山形（2017）4 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 3 回	農業Ⅱ ：小農は非合理的農民なのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）1 章] [参考書：黒崎・山形（2017）4 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 4 回	農村信用市場Ⅰ ：非対称情報と信用制約 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2 章] [参考書：黒崎・山形（2017）5 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 5 回	農村信用市場Ⅱ ：マイクロクレジットの機能と限界 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2 章] [参考書：黒崎・山形（2017）10 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 6 回	教育と健康 ：なぜ人的資本への投資は重要なのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）3 章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）4 章] [参考書：黒崎・山形（2017）6 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 7 回	労働移動Ⅰ ：過剰労働と偽装失業 [テキスト：黒崎・栗田（2016）4 章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 8 回	労働移動Ⅱ ：都市失業とスラム [テキスト：黒崎・栗田（2016）4 章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2 章] [参考書：黒崎・山形（2017）6 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 9 回	経済成長と工業化 ：どうして生産性は上昇しないのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）5 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 10 回	技術移転と開発金融 ：どうすれば生産性は上昇するのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）6 章・7 章] [参考書：黒崎・山形（2017）8 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 11 回	開発援助Ⅰ ：援助の氾濫とファンジビリティ [テキスト：黒崎・栗田（2016）8 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 12 回	開発援助Ⅱ ：援助の効果とランダム化比較実験 [テキスト：黒崎・栗田（2016）8 章・補論] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）10 章] [参考書：黒崎・山形（2017）3 章・9 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 13 回	持続可能な開発Ⅰ ：環境と開発は対立するのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）9 章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	

第 1 4 回	持続可能な開発 II ：資源やエネルギーの利用は持続可能か？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）9 章] [参考書：黒崎・山形（2017）11 章]	テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。	60
〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。			
〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学関連の科目を一通り履修していることを前提にして講義を実施する。			
〔テキスト〕 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学—途上国の暮らしを考える』有斐閣 2016 年（1,800 円＋税）			
〔参考書〕 アジア経済研究所等編『テキストブック開発経済学 第 3 版』有斐閣 2015 年（2,300 円＋税）※購入の必要なし 黒崎卓・山形辰史『開発経済学—貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社 2017 年（2,700 円＋税）※購入の必要なし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		環境と法					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121253500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
[テーマ・概要] 『公害・環境問題と環境法』 ・1960 年代から現在に至る公害・環境問題の展開を踏まえながら、環境問題と環境法の基本的なルールを考察する。							
[到達目標] DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、地球温暖化、廃棄物、リサイクルなど環境問題の課題とその解決策を考えることができる。							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 授業内容と進め方を説明する。			授業の内容を確認する。		6 0 分	
第 2 回	公害・環境法の展開（1） 1980 年代まで、戦後の経済成長に伴う公害問題について、裁判を通じてどのような解決がなされてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 3 回	公害・環境問題の展開（2） 1990 年代以降、生活環境から循環型社会、地球温暖化対策、生物多様性まで、環境法が、国際条約を通じてどのように整備されてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 4 回	環境権と環境紛争 環境権論が普及するなかで、公害、騒音、日照、景観などをめぐる環境紛争がどのように解決されてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 5 回	環境法の基本原則 環境汚染を防止するための基本原則である、予防原則や原因者負担原則について、その内容を概説したうえで、具体的な事案にどのように当てはまるのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 6 回	環境政策の手法 行政規制のほか、自主的な取り組みを促す、合意的手法（公害防止協定など）、経済的手法（環境税、排出枠取引など）、情報的手法（環境ラベリングなど）について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 7 回	環境基本法・環境影響評価 都市開発などにおける環境配慮、環境アセスメント（影響評価）の手続きについて考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 8 回	大気汚染対策 公害訴訟を経て整備された、大気汚染防止法による工場・発電所などのばい煙や自動車排ガスの規制、さらに、光化学スモッグ対策やアスベスト粉じん飛散防止対策などについて考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 9 回	水質汚濁・土壌汚染対策 海洋・河川・湖沼の環境保全にとどまらず、地下水汚染対策、生活排水対策も含めて整備された水質汚濁防止法による規制、土壌汚染対策法による土壌汚染の把握・被害発生防止措置について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 1 0 回	廃棄物の処理 廃棄物処理法に基づいて、廃棄物の不法投棄などによって有害物質が環境を汚染しないように、国・自治体・事業者・市民がどのような役割を担って、一般廃棄物・産業廃棄物をどのように処理することが求められるのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 1 1 回	循環型社会 環境への負荷を低減するために、資源の消費や廃棄物の発生を抑止し、使用後の製品をできる限り再利用することが必要である。3R 政策（リデュース、リユース、リサイクル）のための循環型社会形成推進基本法・資源有効利用促進法、製品の種類ごとの個別リサイクル法に基づく排出削減、再商品化について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	
第 1 2 回	地球温暖化対策 温室効果ガス（二酸化炭素など）が大量に排出されることによる地球温暖化が進行し、異常気象による災害、熱中症など健康の悪化、農作物の品質低下など様々な損失が深刻になっている。先進的な EU 諸国の動きをみながら、地球温暖化対策推進法に基づく緩和策、気候変動適応法に基づく適応策がどのように展開されているのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		6 0 分	

第 1 3 回	生物多様性 食糧生産、医療など人類が生存する基盤となる生物多様性・生態系を維持していくために、生物多様性基本法に基づいて、国・自治体がどのような役割を担って、どのような対策を進めていくことが必要であるのかを考察する。	授業内容をテキストや授業資料で復習する。	6 0 分
第 1 4 回	授業で学習した全体の内容をまとめる。	授業内容をテキストや授業資料で復習する。	6 0 分
〔授業の方法〕 ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・課題レポート（中間レポート 2 回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。			
〔成績評価の方法〕 ・中間レポート課題 2 回（40%）、期末レポート課題（60%）。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の 2 点に着目し、その達成度により評価する。 ①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につけて説明できる。 ②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、循環型社会、地球温暖化、生物多様性などに関する環境問題の解決策を検討できる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 『環境法 BASIC(第 4 版)』 大塚直著、有斐閣、5060 円、ISBN : 9784641233126			
〔参考書〕 授業のなかで紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		地域・環境特殊講義（交通経済学）					
教員名		須田 昌弥					
科目No.	121253610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 交通経済学の領域は多岐にわたるが、本講義では半期講義という時間の制約も鑑み、交通経済学の中でも日常生活において用いる交通＝地域内交通の範囲を中心に、交通に関する諸問題を考察していきたい。理論的なトピックについてもいくらか検討するが、重要なことは理論それ自体ではなく、理論によって現実の問題をどれだけ説明し、解決策を見いだすことができるのかである。 近年、地方では鉄道やバス路線の廃止が相次いでいる。過疎化ないしは少子高齢化のためと片付けてしまえばそれまでであるが、では廃止すれば全て問題が解決するかと言えばそうとも限らない。他方、東京圏では通勤鉄道が今なお計画されているが、その多くは一定の乗客を見込めるにもかかわらず未着工のままである。鉄道ネットワークが過小のままで、鉄道を通勤・通学に利用する多くの住民が居住可能な範囲が限定され、都市の居住環境をさらに悪化させることになる。 本講義の目標は、冒頭に掲げたような各地域の問題の「解決策」を学ぶだけではなく、本講義で学んだことを元に、各自が解決策を提示・評価できるようになることである。受講される方はそのつもりで、能動的に学ぶことを心がけてほしい。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、以下を到達目標とする。 交通問題について、各自の暮らす「地域」との関わりを踏まえて考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	はじめにー「交通」とは何かー（『交通政策への招待』第1章） 授業の内容、進め方などを説明する。 「交通」とは何か、交通サービスにはどのような特徴があるのかを考察する。			【予習】このシラバスにあらはじめ目を通しておく。 【復習・復習】テキスト（『交通政策への招待』）を入手し、交通経済学の大まかな体系を認識しておけるとなよい。		60	
第2回	交通市場の発展（『交通政策への招待』第2章） 日本における鉄道・バスなどがどのように発展してきたのかを概観する。			【予習】身近な交通機関について、その沿革を整理してみる。 【復習】1987年の「国鉄分割・民営化」がなぜ行われ、どのような帰結をもたらしたのかについて、他の交通手段との関係を踏まえて整理してみる。		60	
第3回	交通市場の特性（『交通政策への招待』第3章） 交通市場がどのように分類されるかを考察し、各市場にどのような特徴・課題があるのかを考察する。			【予習】交通機関にはどのようなものがあるのか調べておく。 【復習】地域内交通市場がどのような要因によって区分されるのかを整理し、それぞれの課題をまとめておく。		60	
第4回	交通需要の分析（『交通政策への招待』第4章） 交通サービスの特性を踏まえて、交通に対する需要がどのような特徴を持つかを考察する。あわせて交通手段選択の理論を紹介し、交通需要予測についても概観する。			【予習】ミクロ経済学における「弾力性」の概念を復習しておく。 【復習】・交通需要の特性が、交通事業者ならびにその利用者にどのような影響をもたらすのかを整理する。あわせて「犠牲量モデル」を用いた交通手段の選択が具体的な数値例のもとで計算できるようにする。		60～90	
第5回	交通における「規制」について（『交通政策への招待』第5章） 交通サービスがなぜ規制されるのか、どのような規制がなされるのかを概観する。			【予習】ミクロ経済学における「市場の失敗」の概念を復習しておく。 【復習】交通における規制の根拠と交通サービスの特性の関連について整理しておく。あわせて伝統的な規制理論における「参入規制」と「価格規制」の関わりについて整理する。		60	
第6回	交通における「規制緩和」について（『交通政策への招待』第6章） 交通サービスの規制緩和がなぜ可能なのか、どのような根拠で志向されるかについて考察する。			【予習】前回の講義内容を復習しておく。 【復習】「コンテストビリティの理論」の経済学的前提と達成される結論、ならびにその実現可能（困難）性について整理する。 鉄道における規制緩和での上下分離の果たす役割について説明できるようにする。		60	
第7回	規制緩和の事例（『交通政策への招待』第7章） 交通サービスの規制緩和がどのように実施されたのか、どのような帰結をもたらしたのかについて考察する。			【予習】前回の講義内容を復習しておく。あわせて、これまでに実現した「規制緩和」の例を探し出し、なぜそれが求められたのかを確認しておくといよい。 【復習】鉄道における上下分離や路線バスにおける分社化がなぜ実施されたのか規制緩和の文脈で説明してみる。		60	
第8回	限界費用価格形成とラムゼイ運賃（『交通政策への招待』第9章） ミクロ経済学からの帰結として導かれる「限界費用価格形成」が、なぜ現実の交通運賃では実現しないのかを考察する。その上で「次善」の運賃としてのラムゼイ運賃の考え方を説明し、その実現可能性を模索する。			【予習】ミクロ経済学における「完全競争市場」ならびに「独占」の概念を復習しておく。『交通政策への招待』第8章も活用されたい。 【復習】限界費用価格形成がなぜ「最善」であるにもかかわらず実現しないのかについて整理する。そしてその課題をラムゼイ運賃でどこまで解決できているか確認しておくといよい。		60～90	
第9回	実際の運賃設定（『交通政策への招待』第10章） 今日の日本の交通運賃制度の根幹となっている「総括原価主義」について、その考え方と問題点を考察する。あわせて、その問題点を解決するためにどのような運賃が考案されてきたかについても整理する。			【予習】第5回～第8回までの講義内容を復習しておく。 【復習】総括原価主義の考え方について説明できるようにする。その上でこの考え方がなぜ今日「改革」を迫られているかについて、他の考え方を踏まえて説明できるようにする。		60	

第10回	混雑料金とピークロードプライシング（『交通政策への招待』第11章） 混雑現象の解決策として提示される混雑料金とピークロードプライシングについて考察する。その上で、両者が実は相補的なものであることについて検討し、そして何故実際の運賃政策として採用されないのか考察する。	【予習】身近にある「混雑」現象について、それがなぜ生じ、何が問題なのかを整理しておく。 【復習】これらの理論に基づいて、首都圏の混雑は何が問題で、改善するためには何が必要か説明できるようにする。	60～90
第11回	交通と都市（『交通政策への招待』第12章） 初歩的な立地理論を踏まえて、交通と都市・地域の関係について考察する。あわせて、地域開発の理論的基礎について概観する。	【予習】都心の地価が高く郊外の地価が安いのはなぜか、新幹線が開業するとしばしば駅前の大型店が閉店するのはなぜか考えてみる。 【復習】キャピタリゼーション仮説が妥当するためにはどのような条件が必要なのか整理しておく。	60～90
第12回	地域開発と交通投資（『交通政策への招待』第13章） 主に大都市圏において、地域開発における鉄道事業者が果たした役割について考察する。あわせて、その際に重要になる「開発利益の還元」についても検討する。	【予習】前回の講義内容を復習しておく。 可能ならば「コースの定理」についてあらかじめ調べておく。 【復習】鉄道事業者はどのように開発利益の還元を実現していくのか、理論と実際の両面からまとめてみる。	60
第13回	費用便益分析（『交通政策への招待』第14章） 交通投資の採否の決定に用いられる費用便益分析について、その概要と課題を検討する。	【予習】ミクロ経済学における「パレート最適」の概念について復習しておく。 【復習】必要性に疑問のある交通プロジェクトが、しばしば「必要性あり」と判断されて実行される。費用便益分析の考え方を理解した上で、このようなことがなぜ起こるのか、どうしたら防げるかを考えてみる。	60～90
第14回	まとめーこれからの交通と交通政策ー（『交通政策への招待』第15章） 「交通問題」に関心を寄せる周辺領域においてどのような議論が（交通に対して）なされているか検討する。これまでの講義を振り返りつつ、地域の中で交通問題とどう向き合うべきかを今一度確認する。	【予習】武蔵野市の「ムーバス」はなぜ成功したのか、地域との関連で考えてみる。 【復習】期末試験に向けて、講義内容を再度確認することを通して、各自が関わる／関心を持つ交通問題をどう考えるかを検討して欲しい。	60～120
[授業の方法] 基本的には講義形式で行うが、折に触れて受講者に「質問」等を行う。折を見て小テストないしはコースパワーを通じた課題の出題（日時・回数は未定）を実施し、問題を解くことで理解しやすくなる事項の説明を補いたい。			
[成績評価の方法] 学期末試験に基づいて成績評価する。上記の小テスト／課題は期末試験で合格点に達した人への加点材料としてのみ用いる。＜100％＞			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] ミクロ経済学の初歩的な知識があることを期待する。 公共経済学・経済地理学などの知識があるとよい。			
[テキスト] 以下の文献に準拠して講義を進める予定であるので入手されたい。ただし時間の都合上、全てを説明できるわけではない。 青木 亮・須田昌弥（2024）『交通政策への招待』ミネルヴァ書房。			
[参考書] 交通経済学について、発展的な内容を自習したい向きには以下の文献を推奨する。 山内弘隆・竹内健蔵（2002）『交通経済学』有斐閣 そのほか関連する文献については、講義中に適宜紹介する。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] 授業終了後に教室で受け付ける。コースパワー等も適宜活用されたい。			
[特記事項]			

科目名		地域・環境特殊講義（環境と社会システム）					
教員名		小室 譲					
科目No.	121253620	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 社会の一員として、身近な地域から地球規模に至るさまざまな環境問題に目を向け、その解決のために考え、行動することは 21 世紀を生きる我々にとって不可欠なことです。あわせて現在の経済活動において、企業は環境に配慮せずに、経済的利益のみを追求するのが困難になりつつあります。そこで、本授業では環境と社会のかかわりという視点から、環境問題の沿革や論点を理解し、持続可能な社会の実現のために個人、企業、自治体、国家等が果たす役割について一緒に考えましょう。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、以下の到達目標を定める。 (1)環境と社会システムのかかわりについて論理的に理解する (2)持続可能な社会システムの構築について多面的にとらえる視点を養う (3)環境問題の解決に向けたさまざまな方策を考察し他者に説明する							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス（環境と社会のかかわり）			シラバスを読んで、授業の目的・内容を確認する		60	
第 2 回	環境問題の変遷 1：経済成長と公害			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 3 回	環境問題の変遷 2：江戸時代に学ぶ循環型社会			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 4 回	持続可能な社会の実現に向けて 1：SDGs の沿革と特定目標の に関するケーススタディ			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 5 回	中間まとめ			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 6 回	持続可能な社会の実現に向けて 2： 廃棄物の発生と対応			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 7 回	持続可能な社会の実現に向けて 3：廃棄物の再利用			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 8 回	持続可能な社会の実現に向けて 4：海外観光地の取り組み事例			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 9 回	前回授業までの総ふりかえり（中間テスト）			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 1 0 回	期末発表のテーマ策定と計画立て			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 1 1 回	期末発表に向けたデータ整理と発表準備			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		120	
第 1 2 回	講評発表 1			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 1 3 回	講評発表 2			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
第 1 4 回	授業の総まとめ			学習内容について授業資料などをもとにふり返る		60	
〔授業の方法〕 主に、授業の前半では講義、後半では発表やディスカッションを取り入れた演習形式で進行します。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業内試験や小課題）：60％、 期末発表と関連課題：40％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に求めません。ただし、授業で学習する（した）事柄に関するインターネットやマスメディア等の情報に積極的に触れる習慣をつけましょう。

〔テキスト〕
必要に応じて、授業内で紹介します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
初回の授業で説明します。

〔特記事項〕
※履修者が一定数以下の場合は、複数回分の授業において、環境と社会に関連して、現場学習（現地訪問）を実施する可能性があります。

※最終版ではない。この資料は変更となる場合がございます。

科目名		社会保障論A					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 急速な少子化による保育所問題、就業環境の悪化にともなう失業や貧困問題など、社会福祉が対応すべき問題は多様化し、深刻化しています。ややもすれば感情論で語られがちな社会福祉の問題を、経済学の視点から解説を試みたいと思います。 社会経済状況や授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合がありますのでご注意ください。							
〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 社会福祉の各制度の仕組みを理解している。 ② 社会福祉の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、福祉の市場において留意すべき点を明確に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	社会政策の経済学的分析について 社会政策を如何に経済学的に分析するか学修する。 また関連する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	社会政策の経済学理論1 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	社会政策の経済学理論2 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	社政策の歴史と定義 貧困問題から始まる社会政策の歴史を概観し、基本的な仕組みを学修する。 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。※課題レポートについて説明する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポートのガイダンスを確認する。		120	
第6回	貧困とは何か 人は貧困に陥ったときどのような行動をとるのか。経済学的に検討する。			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	貧困問題と貧困対策 相対的貧困率の定義、貧困の状況、不利な家庭環境で育つ子どもへの支援策について学修する。			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。 ※課題レポートを提出する			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	最低賃金制度の仕組みと課題 最低賃金制度の仕組みや課題について学修する。 合わせて生活最低賃金の概念について学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	子育て支援 現在の少子化の現状について学修する 現金給付と現物給付の違い、少子化対策、子育て支援策・次世代支援策について学修する。			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	保育所問題 保育所の基本的仕組み、待機児童問題について学修する。次世代育成支援策			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第14回	到達度確認テストのフィードバックを行う			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直しておく。		60	
〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。							

なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。
〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト（60%）、課題レポート提出（20%）、平常点（授業への参加状況など）（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：ミクロ経済学理論、社会保障論 B、医療と健康の経済学、行動経済学など
〔テキスト〕 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂『社会政策―福祉と労働の経済学』 有斐閣アルマ、定価 2,700 円（本体 2,500 円）、ISBN 978-4-641-22058-4 購入の必要なし。
〔参考書〕 厚生労働省『厚生労働白書』各年版 阿部彩 『子どもの貧困』 岩波書店 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂 『最低生活保障の実証分析』 有斐閣 鈴木亘『社会保障と財政の危機』 PHP 新書 アビジット.V. パナジー・エステル・デュフロ（著）、山田浩生（訳）『貧乏人の経済学』 みすず書房 その他、授業中に紹介する。購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		社会保障論B					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、社会保障の基礎理論、特に公的年金・保険制度の基本的な概念および仕組みと主な課題について、経済学的視点から解説します。保険の機能などの基礎理論を学んだ上で、現在私たちを取り巻く社会経済要因が、年金および他の保険制度にどのような影響を及ぼすのかを理解します。なお、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がありますので、ご注意ください。							
〔到達目標〕 DP 1（専門分野の知識・技能）を達成するため、以下の 3 点の到達目標を掲げる。 ① 社会保障の機能、原理を説明できる。 ② 公的年金・保険制度がなぜ必要なのかを理解し、その仕組みを説明できる。 ③ 公的年金・保険制度に関する経済学的な理論を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第 2 回	社会政策は何故必要か 社会保障、社会政策とは何か、その歴史的背景について学修する。			【予習】テキスト序章、第 1 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 3 回	社会政策の経済学 社会保障の経済学的位置づけについて学修する。			【予習】テキスト第 2 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 4 回	社会政策の経済学 社会政策をミクロ経済学および行動経済学の両面から学修する。 表題に関する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第 5 回	社会政策・年金保険の経済学 特に年金保険制度の経済学的位置づけについて学修し、なぜ「国民皆保険・皆年金」が必要であるかを経済学的に学修する。			【予習】テキスト第 2 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 6 回	社会保障の財源問題 政府がなぜ再分配政策を行うのか、再分配政策における国と地方自治体の役割について学修する。			【予習】テキスト第 4 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。キーワードを説明できるようにする。		60	
第 7 回	少子・高齢化に取り組む 少子・高齢化にどのように取り組むのか事例を元に検討する。 ※課題レポートを提出する。			【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		120	
第 8 回	公的年金制度の概念 公的年金制度の概念と必要性について学修する。			【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 9 回	公的年金制度の仕組み 国民年金制度の被保険者の種類、給付と負担について学修する。 厚生年金保険、確定拠出年金の基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	公的年金制度が抱える問題 無年金者問題、公的年金の財源問題、国民年金の空洞化問題について学修する。			【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。			【予習】テキスト第 1 3 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。			【予習】テキスト第 1 3 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		120	
第 1 3 回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第 1 4 回	到達度確認テストのフィードバックを行う			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直しておく。		60	
〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。							

なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。
〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト（60%）、課題レポート提出（20%）、平常点（授業への参加状況など）（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：社会保障論 A、医療と健康の経済学、行動経済学など
〔テキスト〕 駒村 康平・山田 篤裕・四方 理人・田中 聡一郎・丸山 桂『社会政策 -- 福祉と労働の経済学』 有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22058-4、2500 円＋税 購入の必要なし
〔参考書〕 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞社 駒村康平編『日本の年金』岩波新書 鈴木亘『年金は本当にもらえるのか』ちくま新書 厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい その他、授業中に紹介する 購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		医療経済学					
教員名		内藤 朋枝					
科目No.	121254200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 医療問題というと、経済学とは一見無関係に見えるが、医療保険制度、医療の供給体制など、経済学の視点が欠かせない。本講義では、上記の挙げられた医療問題に加え、健康を維持するための課題等について、経済学の視点から解説する。社会経済状況や授業の進捗などによって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 医療制度の仕組みを理解している。 ② 医療保険の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、医療に関わる理論、問題点を明確に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて医療について学修するにあたり 必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづ らい所をピックアップしておく。本講義期間中に、現在加 入している医療保険を確認しておくこと。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	日本の医療制度 日本の医療制度の枠組みと、政策課題について学修する。			【予習】テキスト序章を読む。または Course Power 上の資 料を読む。現在加入している医療保険を確認する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	医療サービスにおける政府の介入 医療サービスにおける政府の介入を市場の失敗の視点から学 修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	公的医療保険制度 公的医療保険の問題について経済学的に学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	医療サービスにおける情報の非対称性 患者と医師の関係を経済学的に学修する。			【予習】テキスト第1章、第3章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	医師の偏在とマッチング 医師の偏在についての資料を読み学修すると同時に、課題レ ポートにて要求されているポイントについて演習を行う。 ※課題レポートについて説明する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第7回	健康の経済学 健康を保持するための行動理論について、資料を元に学修す る。			【予習】テキスト第6章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	混合診療1 混合診療禁止ルールを学修するにあたり混合診療の概念につ いえ学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	混合診療2 混合診療禁止ルールの維持と撤廃について効率性と公平性の 観点から学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。		120	
第10回	病床規制 病床規制の根拠となっている供給者誘発需要について学修す る。 ※課題レポートを提出する。			【予習】テキスト第4章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	社会的入院 社会的入院の背景と今後について学修する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power 上の 資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	終末期医療と遺族 患者と家族の行動を行動経済学の枠組みで検討する。			【予習】テキスト第11章を読む。または Course Power 上 の資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第13回	到達度確認テスト			【予習】テキストまたは Course Power 上の資料を読み到達 度確認テストに備える 【復習】テストの復習を行う		120	
第14回	総復習 授業全体を復習する。 期末テストについてのガイダンス、例題の演習を行う。			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。		60	
〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。							

〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト（60%）、課題レポート提出（20%）、平常点（授業への参加状況など）（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：社会保障論 A、B、行動経済学など
〔テキスト〕 河口洋行 『医療の経済学 〔第 4 版〕』 日本評論社 2500 円 購入の必要なし。
〔参考書〕 厚生労働省『厚生労働白書』各年版 健康保険組合連合会『図表でみる医療保障』（各年版）、ぎょうせい 大竹文雄・平井哲 『医療現場の行動経済学』 東洋経済新報社 津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』 その他、授業内で紹介する。購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		ベーシック民法					
教員名		渡邊 知行					
科目No.	121254300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 『市民生活・社会経済生活、企業取引に関わる民法の基本的なルール（契約、所有権、不法行為など）』 ・民法の基本的な制度とルールを、具体的な事例に照らして理解する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解する。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容と進め方 ・民法の学習方法			授業内容の確認。		60 分	
第2回	民事法・民法の全体像 ・民法の適用範囲と特別法 ・民法の構造 ・民法改正の歴史			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第3回	民法の基本原則 ・権利と義務 ・物権と債権 ・権利の濫用 ・契約自由・所有権・過失責任			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第4回	法律行為・契約 ・法律行為・契約・意思表示 ・公序良俗と契約 ・契約の無効・取消事由 ・権能力・意思能力・行為能力			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第5回	代理 ・代理制度の意義 ・無権代理 ・表見代理			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第6回	時効 ・時効制度の意義 ・完成猶予と更新 ・取得時効と消滅時効			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第7回	契約の成立と債務不履行 ・契約の成立 ・債務不履行と損害賠償 ・契約の解除			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第8回	所有権 ・動産と不動産 ・所有権の取得と対抗要件 ・物権的請求権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第9回	不法行為 ・不法行為の機能と保険制度 ・不法行為の要件 ・使用者責任・工作物責任 ・損害賠償			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第10回	債務の弁済 ・保証・抵当権 ・銀行送金 ・クレジットカード			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第11回	家族法（親族法・相続法）の概要 ・夫婦・親子関係 ・法定相続・遺言			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第12回	紛争事例の解決（1） 消費者契約における紛争事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第13回	紛争事例の解決（2） 賃貸借契約における紛争事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
第14回	授業で学習した内容の全体をまとめるとともに、権利の実現手段について補習する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60 分	
〔授業の方法〕							

・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・第 12 回、13 回の授業では、具体的な紛争事案を取り上げて、その事案や関連事案をどのように解決するかを検討する。授業のなかで受講者の意見を聞く。 ・課題レポート（中間レポート 2 回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。
〔成績評価の方法〕 ・中間レポート課題（40%）、期末レポート課題（60%）。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の 3 点に着目し、その達成度により評価する。 ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解している。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解している。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 『民事法入門（第 8 版補訂版）』 野村豊弘著、有斐閣、1980 円、ISBN：9784641221987
〔参考書〕 授業のなかで紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		公共政策特殊講義（都市と経済厚生）					
教員名		中神 康博					
科目No.	121254410	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 都市における様々な現象をミクロ経済学の知識に基づいて分析することを目的としている。前半は厚生経済学の基本的な概念を学び、社会的厚生について論ずる。後半はそれらの知識に基づいて都市における効率化政策と格差是正政策について議論する。とくに格差是正政策として労働所得税，土地課税などの税制，集団と個人に対する再分配政策などを取り上げる。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ミクロ経済学の知識にもとづいて，都市が抱える問題を自ら発見し，その解決策を考える力を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・講義の目的と到達目標 ・効率性と公平性			教科書 18 章を読んでおくこと。		60	
第 2 回	生産と消費の基礎理論 ・生産理論 ・消費理論			教科書 18 章を読んでおくこと。		60	
第 3 回	厚生経済学の基本定理 ・生産の効率性 ・交換の効率性			教科書 19 章を読んでおくこと。		60	
第 4 回	厚生経済学の基本定理 ・生産量の組合わせの効率性 ・厚生経済学の基本定理			教科書 19 章を読んでおくこと。		60	
第 5 回	社会的厚生 ・不平等税制政策 ・社会的厚生関数 ・社会的厚生最大化			教科書 20 章を読んでおくこと。		60	
第 6 回	社会的厚生 ・社会的厚生最大化の過程 ・効率化政策の代替政策			教科書 20 章を読んでおくこと。		60	
第 7 回	社会的厚生 ・効率化原則の長期的効果 ・所得再分配とモラル・ハザード			教科書 20 章を読んでおくこと。		60	
第 8 回	効率化政策 ・厚生逐次改善原則			教科書 21 章を読んでおくこと。		60	
第 9 回	効率化政策 ・既得権保護政策			教科書 21 章を読んでおくこと。		60	
第 1 0 回	格差是正政策 ・労働所得税とインセンティブ ・土地課税とインセンティブ			教科書 22 章を読んでおくこと。		60	
第 1 1 回	格差是正政策 ・集団再分配			教科書 22 章を読んでおくこと。		60	
第 1 2 回	格差是正政策 ・個人再分配 ・累進課税			教科書 22 章を読んでおくこと。		60	
第 1 3 回	格差是正政策 ・個人再分配 ・使途自由補助金 ・使途指定補助金			教科書 22 章を読んでおくこと。		60	
第 1 4 回	まとめ ・効率化政策と格差是正政策の両立			教科書終章を読んでおくこと。		60	
〔授業の方法〕 授業は教科書に沿って講義形式で行われる。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み）、中間試験、期末試験に基づいて成績評価する予定である。評価割合は、授業への取り組み方、中間試験、期末試験それぞれ 10%、30%、60%を原則とする。							

〔成績評価の基準〕 到達目標であるミクロ経済学の知識にもとづいて、社会が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度にもとづいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学全般。
〔テキスト〕 『ミクロ経済学 II 効率化と格差是正』、八田達夫著、東洋経済新報社、3800 円、ISBN978-4-492-81300-3
〔参考書〕 必要に応じて授業の中で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

※取組や取組ではない、この科目は実地となる科目がめりより。

科目名		公共政策特殊講義（グローバル社会と国際ビジネス）					
教員名		永野 均					
科目No.	121254420	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 日本の公的な対外金融機関である国際協力銀行（JBIC）での実務経験を活かし、日本を取り巻く国際関係や日本企業の対外的なビジネス動向等につき、国際協力銀行・国際機関・民間企業等の視点から考察する。また複数の授業回において実務経験豊富な外部講師も迎えて講義を行う。なお以下に記載の授業計画は状況に応じ変更となる可能性あり。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・各種の国際情勢に関する高いレベルでの知識を習得している。 ・グローバル社会の中での日本政府や企業等の取組について高いレベルでの知識を習得している。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明するとともに、受講生の関心テーマ等についての確認を行う。			事前にシラバスを読んだ上で、授業前後に各人が関心のあるテーマ等について整理し考察する。		60	
第 2 回	地球温暖化の現状と取組① ・特に地球温暖化対策で先行するヨーロッパの取組状況等について理解を深める。			地球温暖化に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 3 回	地球温暖化の現状と取組② ・グローバルに進む地球温暖化対策の中での日本企業のビジネス動向について理解を深める。			地球温暖化に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 4 回	エネルギー問題とウクライナ情勢① ・ロシアによるウクライナ侵攻の実情や国際関係への影響について理解を深める。			ロシアによるウクライナ侵攻に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 5 回	エネルギー問題とウクライナ情勢② ・ロシアによるウクライナ侵攻が日本のエネルギー動向や日本企業ビジネスに与える影響などについて考察する。			ロシアによるウクライナ侵攻に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 6 回	日本の対外援助の取組 ・主に国際協力機構（JICA）の取組を通じた ODA を中心とする日本の対外援助について理解を深める。			日本の対外援助の在り方に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 7 回	中間振り返り ・これまでの授業を通じた疑問や気づきを整理し、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。			これまでの授業を通じた疑問点や考察を予め整理しておくとともに、授業後はクラス内で出てきた意見等を踏まえて改めて問題意識や今後理解を深めて行きたい事柄について考える。		60	
第 8 回	アジア地域におけるインフラ支援等について ・日本も参画する国際機関であるアジア開発銀行（ADB）のアジア向けインフラ支援動向について理解を深める。			アジア開発銀行やアジア地域における日本の対外援助の在り方に対する疑問を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 9 回	中国による覇権拡大と日本の立ち位置 中国政府が主導する国際機関である AIIB による世界のインフラ支援動向を含む中国の覇権拡大と日本への影響について理解を深める。			中国による覇権拡大の動向や AIIB の取組に対する疑問を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 1 0 回	グローバル社会の変化と農業 ・グローバル社会が変化する中での農業の位置づけと日本企業の取り組みについて理解を深める。			変化するグローバル社会における日本の農業の在り方や関連ビジネスに対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 1 1 回	グローバルな「地経学」の変化と日本 ロシアによるウクライナ侵攻、米中関係その他の激動する世界における地経学の動向や日本の立ち移置等について考察する。			激動する国際情勢の中での日本の立ち位置に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。		60	
第 1 2 回	個人又はグループプレゼンテーション① ・授業と関連あるテーマについてプレゼンを行い、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。			事前にプレゼンテーションの発表準備を行う。授業での他メンバーの発表や質疑を踏まえての気づき等を整理する。		120	
第 1 3 回	個人又はグループプレゼンテーション② ・授業と関連あるテーマについてプレゼンを行い、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。			事前にプレゼンテーションの発表準備を行う。授業での他メンバーの発表や質疑を踏まえての気づき等を整理する。		120	
第 1 4 回	授業のまとめ ・これまでの授業内容を通じての振り返りや質疑・応答を行う。			これまでの授業を通じての疑問点や気づき等を今一度まとめる。授業を踏まえ、今後に向けた各人の研究課題等を整理する。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は主に教員及びテーマごとの外部の専門家を招いて講義形式で行うが、トピックによりグループワークや質疑応答も取り入れた双方向の形をとる。授業期間を通じ個人別のプレゼン発表を 2 回程度行う予定。その他、各授業回ごとに受講者の考察を課題として提出し知識の定着を図る。							
〔成績評価の方法〕 個人別プレゼン（2 回計 40%）、各授業回の課題提出（30%）、講義中の発言や質問等（30%）に基づき総合的に評価を行う。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 国際情勢やグローバル社会の中での日本政府や日本企業等の取組について、自身の頭でしっかりと考察し、視野を広げつつ問題意識を深めて探求できているかに着目し、評価を行う。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日常より新聞や関連書籍等から情報を収集する姿勢をもち、自分の頭で、日本の政府・企業や個人が取り組むべきことについて探求することが重要である。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業前後に教室で受け付け、また随時メールでの受け付けも可。
〔特記事項〕

科目名		社会経済地理学					
教員名		木戸口 智明					
科目No.	121340300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義は、現代資本主義のもとで発生する地域問題について学習することを通じて、社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念に対する理解を深めることを目的とします。本講義では、資本主義の基本的なメカニズムについて概説したのち、産業の空洞化や都市問題、環境問題、人間の働き方といった様々な側面から資本主義がもたらす矛盾について考えます。社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念を用いて、現代社会における地域問題の発生について理解することを目指します。							
〔到達目標〕 D P 1-1（現代経済学科の専門分野に関する知識・理解）および DP3-1（課題の本質を発見するために必要な情報を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている）を実現するため、以下の 3 点を到達目標とします。 ①資本主義の空間的展開とそれがもたらす矛盾について理解する。 ②現代社会における地域問題の要因を説明することができる。 ③社会経済地理学および隣接分野の諸概念を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			シラバスの確認		60	
第 2 回	資本主義における商品化の論理			・ 前回の講義内容を復習する。		60	
第 3 回	資本主義と環境問題			・ 前回の講義内容を復習する。		60	
第 4 回	地域的不均衡発展			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 2 章に目を通す。		60	
第 5 回	産業の空洞化と地域			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 1 章、第 5 章に目を通す。		60	
第 6 回	大都市圏への人口集中			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 3 章に目を通す。		60	
第 7 回	人々のキャリアと家族形成			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 4 章に目を通す。		60	
第 8 回	大都市の衰退と再生			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 8 章に目を通す。		60	
第 9 回	中心商店街の空洞化			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 15 章、第 16 章に目を通す。		60	
第 1 0 回	サプライチェーンの広域化			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 6 章に目を通す。		60	
第 1 1 回	食料供給の持続可能性			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 14 章に目を通す。		60	
第 1 2 回	農山村の過疎化・高齢化			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 17 章に目を通す。		60	
第 1 3 回	資源開発と環境保全			・ 前回の講義内容を復習する。 ・ テキスト第 19 章に目を通す。		60	
第 1 4 回	まとめ			・ 本講義の内容に関する疑問点を整理する。 ・ 課題レポートの振り返りを行う		60	
〔授業の方法〕 配布資料をもとに講義を進めます。毎回の講義後に、講義内容に関する感想や質問等を記入したリアクションペーパーの提出を求めます。課題レポートは、新聞記事のなかから地域問題に関する記事を 1 つ取り上げて、記事の要約と自分自身の感想や考察についてまとめます。課題レポートの詳細については、第 1 回の講義で説明します。							
〔成績評価の方法〕 平常点（30%）、課題レポート（20%）、期末試験（50%）にもとづいて評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 以下の 3 点を評価基準とします。 ①資本主義の空間的展開とそれが抱える矛盾について理解している。 ②現代社会における地域問題の要因を説明することができている。 ③社会経済地理学および隣接分野の諸概念を理解している。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は必要ありませんが、経済地理学 A、経済地理学 B をあわせて受講するとよいです。
〔テキスト〕 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020 年）：『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。ISBN-13：978-4-623-08691-7
〔参考書〕 いずれの参考書も「購入の必要なし」です。この他、参考書については講義内で適宜紹介します。 経済地理学会編（2018 年）：『キーワードで読む経済地理学』原書房。ISBN-13：978-4-562-09211-6 中澤高志（2024 年）：『ポスト拡大・成長の経済地理学―地方創生・少子化・地域構造』旬報社。ISBN-13：978-4-8451-1869-4 漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治（2021）：『図説 世界の地域問題 100』ナカニシヤ出版。ISBN-13：978-4-7795-1613-9
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		ゲーム理論					
教員名		吉田 由寛					
科目No.	121345000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 この授業では、現代経済学の理解にとって必須となっているゲーム理論を解説する。ゲーム理論の標準的な入門書を用いて、人々の利害が絡み合う状況をゲームとして捉え、人々が取るべき行動や社会の均衡状態を考察したい。また、ゲーム理論の応用として、寡占市場の分析を行う。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）と DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・実際の人間関係を抽象化してゲームとしてモデル化するというゲーム理論の方法論を理解する。 ・戦略形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。 ・展開形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／ゲーム理論とは何だろうか？〔Ch. 1〕			当授業での注意点を把握する。／教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第2回	選択と意思決定〔Ch. 2〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第3回	戦略ゲーム〔Ch. 3〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第4回	ナッシュ均衡点〔Ch. 4〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第5回	利害の対立と協力〔Ch. 5〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第6回	ダイナミックなゲーム：その1〔Ch. 6〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第7回	ダイナミックなゲーム：その2〔Ch. 6〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第8回	繰り返しゲーム〔Ch. 7〕			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第9回	寡占市場のゲーム理論による分析 1			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第10回	寡占市場のゲーム理論による分析 2			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第11回	不確実な相手とのゲーム：その1〔Ch. 8〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第12回	不確実な相手とのゲーム：その2〔Ch. 8〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第13回	進化ゲーム〔Ch. 11〕			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第14回	まとめと質疑応答			すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。		120	
〔授業の方法〕 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。							
〔成績評価の方法〕 授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条・第 39 条）に準拠し、到達目標への達成度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
各学科で開講されているミクロ経済学と経済数学の内容を予備知識とする。

〔テキスト〕
教科書として以下を指定する。
・岡田章『ゲーム理論・入門 -- 人間社会の理解のために（新版）』，有斐閣，2014 年

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で，またメールで受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		情報の経済学					
教員名		吉田 由寛					
科目No.	121345100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 当科目のキーワードは「情報」である。正しい情報を持たない（持てない）状態を「不確実性」という。また、情報を持つ者と持たない者が共存する状態を「情報の非対称性」という。 授業ではまず、不確実性が伴う世界において、人々がどのような行動基準を持っているのか、経済学における伝統的な理論を紹介する。次に、情報を獲得した者はそれをどのように利用するのかについて考察を与える。そして、情報の非対称性の下では、このような情報利用が資源配分上の非効率性を引き起こしてしまうことを詳細に説明する。 授業では、上記に加え、この分野（あるいは関連分野）の最新トピックスを紹介することにしたい。							
〔到達目標〕 E19 以前の学生は DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、E20 以降の学生は DP1（専門分野の知識・技能）と DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・不確実性下での合理的行動を説明できる。 ・情報の非対称性によって引き起こる問題を理解する。 ・情報共有に関する問題を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／期待効用理論1：基礎			当授業での注意点を把握する。／授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第2回	期待効用理論2：応用			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第3回	ゲーム理論の基礎1：戦略形ゲーム			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第4回	ゲーム理論の基礎2：展開形ゲーム			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第5回	情報の取得と活用1：情報集合			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第6回	情報の取得と活用2：ベイズの定理			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第7回	モラルハザード1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第8回	モラルハザード2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第9回	逆選択1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第10回	逆選択2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第11回	シグナリング1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第12回	シグナリング2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第13回	情報・知識の共有1：共有の難しさ			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第14回	情報・知識の共有2：安易な共有／まとめと質疑応答			授業内容を復習し、練習問題を解く。／すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。		120	
〔授業の方法〕 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。							
〔成績評価の方法〕							

授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条・第 39 条）に準拠し、到達目標への達成度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『ゲーム理論』が関連科目である。

〔テキスト〕
後日指定するか、テーマに応じて文献を配布する。

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で、またメールで受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		経済発展論					
教員名		清水 政行					
科目No.	121345200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 開発途上国では、“持続的”な経済発展が望まれており、それを実現するためには発展のメカニズムや発展に必要な政策について理解することが重要になる。本講義では、「どうすれば途上国の経済は発展するのか」をテーマに、アジア諸国の経験を参考にしながら経済発展論を学習し、開発経済学的な観点から開発のあり方について理解を深めていく。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。 2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	経済発展論とは？ ：成長のアジアと停滞のアフリカ			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 2 回	貧困のメカニズム ：発展を開始する以前の経済 〔テキスト：渡辺（2010）1 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 3 回	人口転換Ⅰ ：人口構造の変化と爆発的増加 〔テキスト：渡辺（2010）2 章〕 〔参考書：ワイル（2010）4 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 4 回	人口転換Ⅱ ：人口ボーナスと少子高齢化 〔テキスト：渡辺（2010）3 章〕 〔参考書：ワイル（2010）5 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 5 回	農業発展Ⅰ ：緑の革命と誘発的技術進歩 〔テキスト：渡辺（2010）4 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 6 回	農業発展Ⅱ ：農業開発と工業化とのつながり 〔参考書：ワイル（2010）7 章〕			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 7 回	工業発展Ⅰ ：工業化のメカニズム 〔テキスト：渡辺（2010）5 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 8 回	工業発展Ⅱ ：二重経済的發展 〔テキスト：渡辺（2010）5 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 9 回	工業化政策Ⅰ ：工業化の初期条件と輸入代替工業化 〔テキスト：渡辺（2010）6 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 0 回	工業化政策Ⅱ ：輸出志向工業化と海外直接投資 〔テキスト：渡辺（2010）7 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 1 回	技術伝播 ：経済成長の源泉 〔参考書：ワイル（2010）8 章〕			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 2 回	体制転換 ：中国の経験 〔テキスト：渡辺（2010）8 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 3 回	金融危機 ：グローバル化の影響 〔テキスト：渡辺（2010）10 章・11 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 4 回	環境問題 ：持続可能な発展 〔参考書：ワイル（2010）15 章・16 章〕			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。 1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。 2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級ミクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。
〔テキスト〕 渡辺利夫『開発経済学入門 第 3 版』東洋経済新報社 2010 年（2,800 円＋税）
〔参考書〕 デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第 2 版』ピアソン桐原 2010 年（4,000 円＋税）※購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名	行動経済学						
教員名	内藤 朋枝						
科目No.	121345300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 伝統的な経済学において、人間は、他からの影響を受けず、全ての情報を用いて合理的意思決定が行われる存在（ホモエコノミクス）として仮定されている。一方、行動経済学においては、このような合理性から系統的にずれる「バイアス」が存在することが前提になっている。本講義では、行動経済学において整理されている、人間の意思決定における系統的なバイアスについて学修する。さらに、行動経済学的特性を用いて、金銭や、罰則付きの規制を使うことなく、人々の行動をよりよい（合理的な）ものに変えていく方法（ナッジ）について学ぶ。トピックは進度や状況に応じて変更することがある。							
〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 行動経済学の原理を理解している。 ② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。 ③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 伝統的経済学にて前提とされる意思決定者の特徴と、行動経済学にて前提とされる意思決定者について学修する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしやすい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		30	
第2回	合理性とはなにか 経済学という合理性について理解をふかめることで、これまで学んできた「古典的な」経済学と行動経済学との違いについて学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	時間選好1 人間は現在の楽しみを優先し、将来の計画を先延ばしにしてしまうことが分かっている。 ここでは現在バイアスという概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	時間選好2 引き続き現在バイアスという概念についていくつかの実例を見ながら学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	コミットメント 「時間非整合な意思決定」をどのように是正できるのかについて検討する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	プロスペクト理論1 行動経済学では不確実性のもと、意思決定を行う場合、客観的確率に従わないことが分かっている。そのような人間の行動メカニズムについて学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	プロスペクト理論2 ここでは、主に確実性効果、損失回避などの概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	ハロー効果 私たちの成功は運と努力どちらの効果がより大きいのだろうか。ハロー効果の概念の理解と共に検討する。※課題レポート1について説明する			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	ヒューリスティクス1 人々は決して全ての情報を最大限に活かして意思決定できるわけではない。 ここでは「直感的意思決定」の概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	ヒューリスティクス2 直感的意思決定に従う事でどのような社会的影響があるのか、について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポート1の準備を行う。キーワードを説明できるようにする。		120	
第11回	社会的選好1 行動経済学において、人間は他者の物的・金銭的利得への関心を持つことが想定されている。 このような互恵性、利他性について学修する。 ※課題レポート1を提出する			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	社会的選好2 社会的選好を用いて、男女格差や労働生産性にどのようにアプローチできるのかについて検討する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	ナッジ ナッジの概念について学修する。 どのような条件が揃えばナッジといえるのか実例を見ながら検討する。 ※課題レポート2について説明する			【予習】Course Power 上の資料を読む。日常の場面でナッジが使われていると考えられる現象を見つけてくる。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポート2の準備を行う。		120	
第14回	総復習 授業全体を復習する。			【予習】確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	

〔授業の方法〕 学生は、課題レポート1、課題レポート2を作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 状況に応じてトピックならびにスケジュールの調整がおこなわれることがある。 課題レポート1：授業内容の基本的な事項の理解を深め、自分の考えを整理する。 課題レポート2：行動経済学の基本的な概念の理解を深め、人の行動や社会情勢を行動経済的観点から分析・検討する。
〔成績評価の方法〕 課題レポート1、2、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 課題レポート1 (40%)、課題レポート2 (45%)、平常点 (授業への参加状況など) (15%) による総合評価。 なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 特に以下の到達目標に着目し、その達成度により評価する。 ① 行動経済学の原理を理解している。 ② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。 ③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：ミクロ経済学、社会学、社会保障論 A、B など
〔テキスト〕 特になし 参考書をもとに作成した資料を配布する。
〔参考書〕 大竹文雄 『行動経済学の使い方』 岩波新書 820 円 I S B N : 978-4-00-431795-1 バデリー, ミシェル 『[エッセンシャル版] 行動経済学』 早川書房 1600 円 I S B N : 978-4-15-209794-1 セイラー, リチャード, サンスティーン, キャス 『実践行動経済学—健康、富、幸福への聡明な選択』 日経 B P 社 2420 円 ISBN : 978-4-8222-4747-8 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		国際マクロ経済学					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121345400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義では、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面（Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance）と呼ばれる領域のテーマを扱います。 マクロ経済学の標準的な理論を復習しながら、それを国際経済でのマクロ経済現象の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を身に着けるために実現するため、以下を到達目標とする。 1．マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。 2．マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	国際マクロ経済学のオーバービュー			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第2回	為替レートの決定メカニズム（1） 購買力平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第3回	為替レートの決定メカニズム（2） 金利平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第4回	為替レートの決定メカニズム（3） データで見る購買力平価・金利平価の説明力			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第5回	資金市場の均衡と国際マクロ経済学（1） 国際収支統計の基本			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第6回	資金市場の均衡と国際マクロ経済学（2） 国際収支統計の基本（続き）			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第7回	資金市場の均衡と国際マクロ経済学（3） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第8回	資金市場の均衡と国際マクロ経済学（4） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第9回	資金市場の均衡と国際マクロ経済学（5） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第10回	日本企業の対外直接投資（1） データで見る日本企業の対外直接投資			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第11回	日本企業の対外直接投資（2） 生産性と対外直接投資のモデル			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第12回	日本企業の対外直接投資（3） 生産性と対外直接投資のモデル（続き）			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第13回	日本企業の対外直接投資（4） 生産性と直接投資			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第14回	授業のまとめ			これまでの授業内容をよく復習する。		60	
〔授業の方法〕 板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。							
〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点（毎回の提出課題等）(40%)で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（毎回の提出課題や授業内での試験等）(100%)で成績評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価します。

1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。
2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。
3. 発展的テーマへの考察ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：

経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など
現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など
経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」

〔テキスト〕

適宜、指定する。

〔参考書〕

適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		応用計量経済学					
教員名		庄司 俊章					
科目No.	121345500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 これまで学んできた計量経済学・統計学の知識をベースにして、この講義では因果推論（因果関係を特定するための計量分析デザイン）について学習します。具体的には、RCT（ランダム化比較試験）や DID（差分の差）、アンケート調査の注意点などについて、実際のデータを用いて学習します。また、回帰分析の考え方や確率統計の基礎知識についても解説します。なお、授業の進捗に応じて内容を変更することがあります。							
〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次のような水準に履修学生が到達することを目標とする。 ① 経済データの構造や観測方法について、基礎的な知識を身につける。 ② データを用いて計量経済学的な分析ができるようになる。 ③ 分析結果をレポートやプレゼンテーションにまとめ、他者に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション 授業で利用するソフトウェアの講義			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 2 回	RCT（ランダム化比較試験） ・サンプル平均処置効果を求める分析デザイン			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 3 回	演習問題 1：労働市場における人種差別			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 4 回	DID（差分の差） ・パネルデータを活用した政策効果の測定			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 5 回	演習問題 2：最低賃金の引き上げとファストフード産業における雇用			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 6 回	アンケート調査の注意点 ・サンプルの代表性、回答の歪みについて			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 7 回	演習問題 3：アフガニスタンにおけるアンケート調査			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 8 回	予測としての回帰分析 ・回帰係数、標準誤差、t 値、信頼区間などの解釈			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 9 回	演習問題 4：世論調査を用いた米大統領選の予測			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 1 0 回	確率 ・確率の基本概念と評価方法、確率変数、期待値			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 1 1 回	演習問題 5：誕生日問題と大数の法則			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 1 2 回	計量分析としての回帰分析 ・推定量の一致性、欠落変数バイアス、仮説検定			【復習】授業内容を再確認する。		60	
第 1 3 回	演習問題 6：クラスサイズがテスト成績に与える影響			【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。		90	
第 1 4 回	政府統計からのデータの取得方法 全体の総括・まとめ			【復習】授業内容を再確認する。		60	
〔授業の方法〕 授業では、上に示したような様々なトピックに関する社会科学データを実際に取り扱う。各トピックについて、講義とコンピュータ演習を並行して行うため、受講者には積極的に手を動かして演習に臨む姿勢が求められる。授業内容は下記テキストに準拠する。							
〔成績評価の方法〕 授業内に実施する小テスト 8 0 %、課題レポート 2 0 %、を基本として成績評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目は以下の通り。
経済数理学科生：計量経済学Ⅰ、Ⅱ（できれば計量経済学Ⅲまで履修していることが望ましい）
現代経済学科生：初級統計学Ⅰ、Ⅱ（できれば中級計量経済学まで履修していることが望ましい）
なお、R や Rstudio に関する予備知識は必要ありません。

〔テキスト〕
『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』、今井耕介、2018 年、岩波書店。（購入の必要なし）

〔参考書〕
『データ分析の力』、伊藤公一朗、2017 年、光文社新書。
『入門 実践する計量経済学』、藪友良、2023 年、東洋経済新報社
『入門 実践する統計学』、藪友良、2012 年、東洋経済新報社
『入門 計量経済学』、James H. Stock 著・Mark W. Watson 著・宮尾 龍蔵 訳、2016 年、共立出版
（いずれも購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 教育科目、アクティブ・ラーニング

科目名		人口学					
教員名		石井 太					
科目No.	121345600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本科目は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口学方法論の基礎についても実際の統計データを用いて学ぶ。具体的には、まず人口学の基礎概念を解説し、次に人口増加・人口構造分析について説明する。次に死亡分析について、生命表を中心として解説するとともに、長寿化と疫学的転換について説明する。さらに、出生分析と結婚とその解消について講義を行う。その後、人口推計の手法と結果、安定人口理論について説明する。							
〔到達目標〕 ・DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、人口学の主要な方法論や人口理論について理解する。 ・DP3(課題の発見と解決)を実現するため、人口統計を用いて具体的な人口分析を行うことができ、分析に基づいて人口動向や将来人口推計の意味・解釈や、背景となる実体人口学的理論についての説明ができる。 ・DP2(教養の習得)を実現するため、人口学的な思考ができる能力を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	序論：人口学とは 人口学とは何か、また、人口問題をどう考えるかについて講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第2回	人口学の基礎概念 人口分析の基礎となる概念について、人口学的方程式や人口学的率を中心に解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第3回	人口規模の分析 人口成長の分析方法と、歴史的な人口増加に関する人口転換理論について講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第4回	人口構造の分析 基礎的な人口構造である性・年齢に関する分析について解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第5回	死亡に関する分析(1) 死亡分析の方法論を生命表を中心として解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第6回	死亡に関する分析(2) 歴史的な死亡率改善に関する疫学的転換理論について講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第7回	出生に関する分析(1) 出生分析の方法論と、出生・死亡による人口再生産について講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第8回	出生に関する分析(2) 長期的な出生率低下に関する出生力転換について解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第9回	結婚と結婚の解消に関する分析 配偶関係の変化を表す結婚と結婚の解消に関する分析について解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第10回	人口推計(1) 人口学における将来人口推計の考え方と、レスリー行列による人口推計の方法論を解説する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第11回	人口推計(2) 公的将来人口推計の手法や仮定設定について講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第12回	安定人口理論(1) 安定人口理論の基礎的な性質について講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第13回	安定人口理論(2) 安定人口理論の応用として、高齢化のメカニズムや人口モメンタムについて講義する。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
第14回	まとめと総括 講義全体のまとめと総括を行う。			講義資料を読み、その内容を踏まえて、授業内の例題または課題を解き、理解を深める。		60分	
〔授業の方法〕 授業は講義を中心として行い、数回、課題(Micorsoft Excelを使用)を提出する。毎回の授業では、配布スライドに基づいて、講義内容を説明する。							
〔成績評価の方法〕 平常点(授業への参加状況と課題の提出・達成度)60%、学期末試験 40%。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、授業では指数・対数関数、微積分、行列、確率、統計などを使うので、数学・統計学に関してある程度知識があること、また課題では Microsoft Excel を用いるので使い方がわかっていることが望ましい(授業内でも必要に応じて説明する)。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	社会学						
教員名	挾本 佳代						
科目No.	121345700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 テーマ:「社会を考える 公と私」 この授業では、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していきます。特に、社会学の二大理論である「社会システム論」と「コミュニケーション論」双方の概念および理論の解説を丹念に行っていきます。 社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解があります。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えています。 そうした現状を正確に把握するために、社会的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現状、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していきます。							
〔到達目標〕 D P 1 (専門分野の知識・技能)、D P 3 (課題の発見と解決)を実現するため、以下を到達目標とする。 ①社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる。 ②自分が生きている社会の問題点の在処を知り、社会の中での自らの立ち位置を明確に他人に理解させることができる。 ③社会学理論を理解し、社会的考察をすることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。 ・社会学の謎			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第2回	「社会」とは何か／その理論 ・社会学における社会学理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。 ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界 (1) ・「無縁社会」の現状を解説する。 ・NHK「無縁社会キャンペーン」を考察する。 ・「無縁社会」批判を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界 (2) ・家族、職場、地域社会の抱える問題点を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	わたし探しのゆくえ ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をし続けなければならないのか、について解説する。 ・ジェンダー、セクシュアリティの観点からも考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	コミュニケーション不全は解決できるか ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。 ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	コミュニティの可能性 ・コミュニティは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニティ」という言葉が使われる現状を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	政治という非日常 ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。 ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	集団とネットワーク／メディアの可能性 ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。 ・メディアによって作り上げられる「理想の自分像」はないかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	神話世界としての消費空間 ・みせびらかしの消費、消費の合理化から現代社会を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第 1 2 回	マスメディアに踊らされる個性のゆくえ ・ミニマリズム、断捨離、ときめき片づけといった、作り上げられる流行に振り回されて個性は確立されるかについて考える。	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第 1 3 回	社会学の必要性 ・社会の発展法則の解明、危機の時代にこそ対応できる社会学、社会秩序のあり方について考察する。	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第 1 4 回	総括 ・授業のまとめ ・キーワード、キー概念等を確認する。 ・到達度確認テスト	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
〔授業の方法〕 基本的に、教科書、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ・中間テスト：第 1 回～6 回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・社会学理論の基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ・「社会と個人」「公と私」の相克に対する深い思考。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 『大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる』、出口剛司、株式会社 KADOKAWA、1500 円（税別） ISBN978-4-04-601990-5 教科書は書かれた順番通りには使用しない。			
〔参考書〕 『ファーストステップ教養講座 社会学で描く現代社会のスケッチ』、友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典、株式会社みらい、2200 円（税別） ISBN978-4-86015-485-1 購入の必要はないが、授業で内容について言及をすることがある。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		基盤特殊講義（身近なゲーム理論）					
教員名		地主 遼史					
科目No.	121346020	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義は様々な社会現象を簡易なゲーム理論モデルを用いて説明する。ゲーム理論とは「戦略的状況」における「合理的な意思決定」とその帰結を説明するための道具である。まずゲーム理論の伝統的な記述方法と解概念を説明する。その後、選挙や公共財、就職活動や談合など身近なゲーム理論の応用例を紹介する。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能の習得】および DP3【課題の発見と解決】を達成するため、以下を到達目標とする。 ・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できる。 ・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できる。 ・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できる。 ・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション、戦略形ゲーム（と展開形ゲーム）、支配戦略、囚人のジレンマとパレート効率			予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 2 回	ナッシュ均衡			復習：授業内容の確認		60 分	
第 3 回	混合戦略とナッシュ均衡の存在			復習：授業内容の確認		60 分	
第 4 回	進化動学			復習：授業内容の確認		60 分	
第 5 回	企業の参入、バックワードインダクションと部分ゲーム完全均衡			復習：授業内容の確認		60 分	
第 6 回	政府による介入が難しい状況（複数均衡と均衡の非存在）			復習：授業内容の確認		60 分	
第 7 回	到達度確認テスト			復習：授業内容の確認		60 分	
第 8 回	ベイズ学習と逆選択			復習：授業内容の確認		60 分	
第 9 回	就職活動とベイズ完全均衡			復習：授業内容の確認		60 分	
第 1 0 回	公共財の供給			復習：授業内容の確認		60 分	
第 1 1 回	長期的関係			復習：授業内容の確認		60 分	
第 1 2 回	契約			復習：授業内容の確認		60 分	
第 1 3 回	正義			復習：授業内容の確認		60 分	
第 1 4 回	組織の違い＋市場経済と計画経済＋学生からのリクエストされたお題			復習：授業内容の確認		60 分	
〔授業の方法〕 基本的に講義形式で進行する。上記計画は一つの例であり、学生の理解の進捗に応じて、適宜調整を行う。成蹊大学の学習支援システム（CoursePower）を利用して、宿題を提出してもらうことを予定している。 特にゲーム理論の応用例については、学生の反応の良かった部分は残しつつ、年によって（学生からの希望が被らない限り）毎年異なるものを採用したい。例えば、過去には組織の経済学や政治経済学を扱った。今年は進化ゲーム理論やその応用としての「正義」について扱いたい。							
〔成績評価の方法〕 宿題 20%、到達度確認テスト 30%、期末試験 50%の重みで評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 具体的には以下の点を重点的に評価する。 ・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できるか。 ・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できるか。 ・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できるか。 ・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ゲーム理論関連の科目全般と関連が深い。
〔テキスト〕 以下テキスト及び参考書は全て購入の必要なし。 1. 『活かすゲーム理論』 浅古泰史、図斎大、森谷文利、有斐閣、2750 円、978-4-641-20005-0 2. 『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』 梶井厚志、松井彰彦、日本評論社、2530 円、978453555202-9
〔参考書〕 1. 『ミクロ経済学の力』 神取道宏、日本評論社、3520 円、9784535557567 2. 『制度と進化のミクロ経済学』 サミュエル・ボウルズ著、塩沢由典、磯谷明德、植村博恭訳、NTT 出版、7480 円、978-4-7571-2295-6 3. 『正義のゲーム理論的基礎』 ケン・ビンモア著、栗林寛幸訳、須賀晃一解説、NTT 出版、4620 円、978-4-7571-2233-8 4. 『ゲーム理論の見方・考え方』 岡田章、勁草書房、2750 円、978-4326550876 5. 『ゲーム理論〔第 3 版〕』 岡田章、有斐閣、4730 円、9784641165779 6. 『組織の経済学』 伊藤秀史、小林創、宮原泰之、有斐閣、3520 円、978-4-641-16550-2 7. 『ゲーム理論で考える政治学ー フォーマルモデル入門』 浅古泰史、有斐閣、2860 円、978-4-641-14928-1 8. 『ゲーム理論入門の入門』 鎌田雄一郎、岩波新書、880 円、9784004317753 9. 『ルービンシュタイン ゲーム理論の力』 アリエル・ルービンシュタイン著、松井彰彦監訳、村上 愛、矢ヶ崎 将之、猿谷 洋樹訳、東洋経済新報社、3520 円、9784492314845 10. 『ゲーム理論はアート 社会のしくみを思いつくための繊細な哲学』 松島 斉、日本評論社、2200 円、978-4-535-55892-2
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

※最終版ではない。印刷物は変更となる場合がございます。

科目名		基盤特殊講義（金融政策入門）					
教員名		原 尚子					
科目No.	121346040	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 金融政策とは、中央銀行が、物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資するために通貨・金融調節を行うことを指します。日本では、中央銀行である日本銀行が日本銀行法に基づいて金融政策を行っています。金融政策の効果は、金融経済の構造と深く関わっています。本講義では、日本の金融に関する基礎解説を行った後、金融政策の目標、手段とその波及メカニズムについて、経済学に基づいて説明します。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】および DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下を到達目標とする。 ・現実の金融経済における金融政策の必要性を理解している。 ・金融政策のメカニズムの基礎を理解している。 ・講義で紹介した方法を使って、現実の金融経済を自分なりに解釈することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業ガイダンス ・授業の全体像と進め方 ・金利の種類			【予習】教科書序章を読んでおく。新聞・ビジネス雑誌などで金融政策に関する話題を読んでおく。 【復習】授業内容を復習する。		60 分	
第 2 回	日本の金融取引 ・金融取引の概要と形態 ・金融取引と資金循環統計			【予習】教科書 1 章、2 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 3 回	家計の資産選択の実際			【予習】教科書 6 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 4 回	企業の投資と資金調達の実際			【予習】教科書 8 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 5 回	金融システムと金融機関（1） ・銀行の業務とリスク			【予習】教科書 9 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 6 回	金融システムと金融機関（2） ・銀行と信用創造			【予習】教科書 10 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 7 回	到達度確認テスト（1） 中央銀行の業務			【予習】これまでの授業内容を復習する。教科書 23 章を読んでおく。 【復習】テストで分からなかった部分と授業内容を復習する。		60 分	
第 8 回	金融政策の目標と手段（1） ・金融政策の目標 ・インフレーションとデフレーション			【予習】教科書 24 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 9 回	金融政策の目標と手段（2） ・金融政策の自主性と説明責任 ・金融政策の手段			【予習】教科書 24 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 1 0 回	金融政策の効果（1） ・金融政策の実務的な目標 ・景気変動のとりえ方			【予習】教科書 25 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 1 1 回	金融政策の効果（2） ・金融政策・金融調節が経済に及ぼす影響 ・金融政策ルール			【予習】教科書 25 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 1 2 回	1998 年以降の日本の金融政策（1） ・ゼロ金利政策と量的金融緩和 ・「時間軸効果」とは			【予習】教科書 26 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 1 3 回	1998 年以降の日本の金融政策（2） ・量的・質的金融緩和と長短金利操作 ・マイナス金利政策			【予習】教科書 26 章を読んでおく。 【復習】授業内容を復習し、宿題があればそれに取り組む。		60 分	
第 1 4 回	到達度確認テスト（2） 授業全体のまとめと振り返り			【予習】これまでの授業内容を復習する。 【復習】テストで分からなかった部分と授業内容を復習する。		120 分	
〔授業の方法〕 ・主に講義形式で行います。到達度確認テストを 2 回行います。到達度確認テスト回以外の授業ではクイズまたは宿題を出題します。 ・クイズ等で CoursePower ないし Forms を使いますので、持参不要の指示がない限り、毎回ノート PC を必ず持参してください。 ・授業計画や内容は授業の進度によって一部変更する場合があります。							
〔成績評価の方法〕 (1) 到達度確認テスト：60％ (2) 平常点(クイズへの解答状況など)：40％ 上記により総合的に成績評価を行います。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 到達目標に掲げた項目を達成できたかどうかを総合的に判断し、評価します。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・先修科目：マクロ経済学の入門科目（経済学部生であればマクロ経済学Ⅰまたは初級マクロ経済学Ⅰ）を履修済であることが望ましい。 ・関連科目：金融論に関する科目
〔テキスト〕 『入門テキスト 金融の基礎（第2版）』、藤木裕、東洋経済新報社、3520 円、ISBN: 978-4-492-65493-4
〔参考書〕 授業内で適宜紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		経済史の基礎					
教員名		鴨野 洋一郎					
科目No.	121350000	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 経済史の重要な課題の 1 つに、「人類はどのようにして生き延び、そして豊かになってきたか（もしくは豊かではなくなってきたか）」を解明することがある。近年、A I 技術の進歩などを背景に「人類とは何か」という問題関心から人類が生き延びてきた歴史を壮大なスケールで物語る本や、今日の私たちの経済システムである資本主義経済の性質を問い直すような本が、世界でも国内でも大きな関心を集めている。この授業では、こうした近年の問題関心についてできるだけわかりやすく、要点をおさえて紹介していく。これにより、受講生にはより深く、柔軟に「人類の経済」について考えられるようになってほしい。							
〔到達目標〕 DP 2－1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの 3 点を到達目標とする。 ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて理解する。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて理解する。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第 2 回	第Ⅰ部 人類はどのように生き延びてきたか① －寒冷化と初期人類の出現－ ・地球の寒冷化とともに初期人類が出現したことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 3 回	第Ⅰ部 人類はどのように生き延びてきたか② －人類の出現と脳容量の増大－ ・人類が過酷な環境にあわせて脳容量を増大させたことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 4 回	第Ⅰ部 人類はどのように生き延びてきたか③ －地球に拡散する現生人類－ ・現生人類がきわめて過酷な環境を生き延びた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 5 回	第Ⅰ部のまとめ ・第Ⅰ部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第Ⅰ部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第 6 回	第Ⅱ部 人間はどのように豊かになってきたか① －ダイヤモンド『銃・病原菌・轍』－ ・ダイヤモンドの著書を紹介し、農耕牧畜の重要性について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 7 回	第Ⅱ部 人間はどのように豊かになってきたか② －ノア＝ハラリ『サビエンス全史』－ ・ノア＝ハラリの著書を紹介し、彼の文明史観について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 8 回	第Ⅱ部 人間はどのように豊かになってきたか③ －人間は本当に豊かになったのか？－ ・2 つの著書から、人間にとっての「豊かさ」について考える。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 9 回	第Ⅱ部のまとめ ・第Ⅱ部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第Ⅱ部の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
第 1 0 回	第Ⅲ部 資本主義はどのようにして生まれたのか① －古典的な解釈－ ・マルクスやヴェーバーによる古典的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 1 1 回	第Ⅲ部 資本主義はどのようにして生まれたのか② －ブローデルとウォーラーステイン－ ・複数の経済圏を設定する巨視的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 1 2 回	第Ⅲ部 資本主義はどのようにして生まれたのか③ －アジアからの視点－ ・資本主義形成のプロセスをアジアからの視点でとらえる解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第 1 3 回	第Ⅲ部のまとめ ・第Ⅲ部の授業内容についてまとめる。			【復習】第Ⅲ部の内容をまとめる。		60	
第 1 4 回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
〔授業の方法〕 【注意】昨年度と異なり、対面で実施します。 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を 3 つのパートに分け、第Ⅰ部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。							

・ 中間レポート：第Ⅰ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・ 期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。
〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて説明できる。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて説明できる。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	経済学史						
教員名	山本 英子						
科目No.	121351100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 経済学史とは、経済学の各理論が、過去の経済学者たちによって、どのような経緯をたどって受け継がれ、議論され、洗練されてきたかについて学修する科目である。 経済学を学ぶ学生にとって、過去の主要な経済学者たち、例えば 18 世紀のアダム・スミス、あるいは、20 世紀の J・M・ケインズ、または M・フリードマンらが、それぞれの時代に何を批判してどんな理論や主張を提起していたのかを学ぶことは不可欠である。 この経済学史の授業では、黎明期の経済思想から 20 世紀までの代表的な経済理論を説明していく。 経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを、経済学の歴史の中で時系列に追体験していくことによって、経済学が人間社会の中で果たしてきた役割を認識しながら、経済学の体系を理解することをめざす。							
〔到達目標〕 DP 2 (【教養の習得】広い視野での思考・判断) を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ①経済学の理論と思想の発展の経緯を、歴史的な視点で説明できる。 ②経済学の学派によって、その前提、思想、理論、経済政策が異なることを理解できる。 ③過去の代表的な経済学者の業績を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第 1 回	ガイダンス ・授業の進め方の説明 ・経済学史で何を学ぶのか、歴史的視点から見る経済学についての解説			【予習】シラバスを読み、講義内容を把握する。 【復習】学修方法や評価基準等を確認する。		60	
第 2 回	重商主義に至るまでの経済思想 ・古代ギリシャの議論：アリストテレス ・中世の経済思想：アキナス ・重商主義：マン、ペティ、ロック、コルベール			【復習】アリストテレスとプラトンの思想とその後の諸思想とのつながりを確認しながら、重商主義までの内容を理解する。		60	
第 3 回	18 世紀の経済思想 (1) ・重商主義の影響 ・三大バブル：ロー、カンティロン ・自由主義経済：マンデヴィル、			【復習】18 世紀前半の経済事象と経済思想の変化を確認する。		60	
第 4 回	18 世紀の経済思想 (2) ・商業社会：ヒューム ・重農主義：ケネー 小テスト① (第 2～4 回の学修内容の確認問題)			【予習】小テスト①に備えて第 2～3 回の内容を再確認しておく。 【復習】18 世紀後半の経済思想の動きを確認する。		90	
第 5 回	小テスト①の解説 18 世紀の古典派経済学 (1) ・スミス『道徳感情論』 ・スミス『国富論』①：全体の構成、分業論			【復習】『道徳感情論』におけるスミスの主張と、『国富論』の構成や、分業論についてのスミスの考えを確認する。		60	
第 6 回	18 世紀の古典派経済学 (2) ・スミス『国富論』②：価値論、見えざる手、資本蓄積、重商主義批判			【復習】『国富論』について学修した内容 (価値論、市場メカニズム、資本蓄積、重商主義批判) について確認する。		60	
第 7 回	18 世紀の古典派経済学 (3) ・スミス『国富論』③：小さな政府、植民地問題 小テスト② (第 5～7 回の学修内容の確認問題)			【予習】小テスト②に備えて第 5～6 回まで内容を再確認しておく。 【復習】スミスの自由主義思想を確認する。		90	
第 8 回	小テスト②の解説 19 世紀の古典派経済学 (1) ・功利主義 ・マルサス：人口問題 ・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位			【復習】ベンサム功利主義、および、マルサスとリカードの理論を確認する。		60	
第 9 回	19 世紀の古典派経済学 (2) ・J. S. ミル：生産分配差別論、賃金基金説 ・マルクス経済学：弁証法的唯物論、剰余価値と搾取			【復習】ミルとマルクスの理論とその時代背景を確認する。		60	
第 10 回	新古典派経済学 ・限界革命：ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー ・資源配分：エッジワース、パレート ・部分均衡論と余剰分析：マーシャル 小テスト③ (第 8～10 回の学修内容の確認問題)			【予習】小テスト③に備えて第 8～9 回の内容を再確認しておく。 【復習】新古典派の理論が古典派とどのように違うかを確認する。		90	
第 11 回	小テスト③の解説 20 世紀の経済学の潮流 (1) ・ケインズ経済学①：不確実性、古典派経済学批判、有効需要の理論			【復習】ケインズがどのような問題提起をしたのか、当時の時代背景とともに理解する。		60	
第 12 回	20 世紀の経済学の潮流 (2) ・ケインズ経済学②：資本理論、雇用理論 ・新古典派総合			【復習】ケインズ経済学全体と、新古典派総合を確認する。		60	
第 13 回	20 世紀の経済学の潮流 (3) ・シュンペーター：新結合、創造的破壊、管理資本主義 ・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義			【復習】新古典派総合の経緯を確認し、シュンペーター、ハイエク、フリードマンの主張の相違を理解する。		90	

第 1 4 回	授業の総括 授業内期末試験	【予習】学期末試験に備えて学修内容全体を総復習する。 【復習】経済学史で学修した内容をしっかり理解する。	90
〔授業の方法〕 ・授業は講義を中心に進める。学生は配布資料を有効に活用して、重要事項の関連等を書き込みながら授業に出席し、内容を理解するための復習に時間を割くことが求められる。上の表の準備学修は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。 ・小テスト（40 分程度の内容を予定）を 3 回行って知識の定着を図り、第 14 回の授業内期末試験に備える。小テスト①では第 2～4 回まで、小テスト②では第 5～7 回まで、小テスト③では第 8～10 回までの学修内容について、理解ができているかを確認する。 ・授業の進捗によって、内容の一部を変更することがある。			
〔成績評価の方法〕 小テスト 3 回（10%×3＝30%）、第 14 回を行う授業内期末試験（70%）による評価を基本としつつ、授業への取り組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。 なお、小テストと授業内期末試験は「授業の配布資料のみ持込可」で行う予定である。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・経済学の理論的かつ思想的な発展の経緯を理解して説明できるか。 ・授業で取り上げた経済学者たちの業績と思想的関連を説明できるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 経済学史に関する予備知識や、高度な経済数学の知識は必要としないが、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的知識は必要となる。			
〔テキスト〕 購入の必要なし。 授業毎に配布する資料をテキストとする。			
〔参考書〕 購入の必要なし。 各回の授業で関連する著作を紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業前後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名	社会思想史						
教員名	挾本 佳代						
科目No.	121351300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 テーマ：「経済学と人間性」 個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとして捉えられてきたのか。それは合理性に裏打ちされた人間の行為だけによるものだと考えられてきたのだろうか。それとも、もっと多様性をそなえた、自然と人間との関係性をも含めたものだと、考えられてきたのだろうか。 この授業では、経済を人間性ととともに論じた経済学者や社会学者の思想、彼らをとりにくく思想の歴史、時代背景などの考察・解説を行う。可能な限り翻訳された原典も参照しながら、思想家たちの生の主張を考察していく予定である。 授業では、古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかをも追求して行く予定である。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①経済学の基盤となる思想にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できる。 ②功利主義や合理主義などに拠らない経済学者や社会学者、功利主義や合理主義に拠る経済学者や社会学者の発想を的確に理解し、把握することができる。 ③先人のたちの思想を踏まえ、現代社会を深く理解することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション - 授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 - 現代社会理解に対する社会思想史や経済思想史の貢献を解説する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像を把握する。		60	
第2回	経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（1） マンデヴィル『蜂の寓話』から経済行為と人間性との関連性を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（2） - アダム・スミス『国富論』、『道徳感情論』を通し、利己心をもつとされる人間の経済行為の理論を解説する。 - 経済思想が西欧近代社会の中で確立した時点の時代背景を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	功利主義思想の誕生 - ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』から、功利主義思想を解説する。 - 効用の最大化は、現代社会ではどのように理解されているのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	資本主義経済の隆盛と人口問題（1） - マルサス『人口の原理』から、資本主義を確立したイギリスで起こった人口問題について解説する。 - 人間と自然との関係性から人口問題を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	資本主義経済の隆盛と人口問題（2） - 近代経済学を確立したリカードの思想を解説する。 - リカードとマルサスによる穀物法論争から、国民の人間性や徳、国防の問題を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（1） 19世紀になぜ社会学が誕生したのかについて、理論的な背景を探る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（2） - スペンサー『社会学原理』、『人間対国家』から、資本主義の陰で疲弊していった人間性について解説する。 - スペンサー思想から現代社会の環境問題の根幹部分を見る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	資本主義の精神、倫理、合理性（1） ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が思想として確立されるまでの背景として、ロック、カント、新カント派の思想を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	資本主義の精神、倫理、合理性（2） - ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から、西欧近代の資本主義の原動力となったものを解説する。 - ヴェーバーの理解社会学を通し、人間の内面から社会的行為を展開した理論を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第 1 2 回	社会病理からみる社会と人間性 ・デュルケム『自殺論』から、社会病理が増加しはじめた近代社会と人間の相克を解説する。	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第 1 3 回	職人気質を喪失した社会と消費行動の変容 ・ヴェブレン『有閑階級の理論』を通し、消費文化や人間の消費行動の本質を解説する。	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第 1 4 回	総括 ・授業のまとめ ・到達度確認テストの解説	【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】 これまでに学んだキーワード、キー概念を整理し、到達度確認テストに向けての準備を行う。	120
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第 1 回～6 回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ・経済思想の基盤となる思想の理解。 ・先人達の思想を通して、現代社会を見通す深い理解力。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 授業で適宜指示をする。			
〔参考書〕 授業で適宜指示をする。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名	労働法						
教員名	中村 仁恒						
科目No.	121355000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 労働法は、労働者と使用者の労働をめぐる関係について定めるものである。 本講義では、労働法の中心的な法律である労働契約法、労働基準法、労働組合法の内容や、それに関連する判例・裁判例や事例を取り扱う。 個別的労働関係（雇用関係の成立から展開、終了に関する問題）が主とした内容であるが、団体的労使関係（労働組合と使用者の関係に関する問題）などについても解説する。 講師の実務経験に照らして、紛争化しやすいケースや、問題の所在等について、可能な限り具体的に解説し、労働法について理解してもらう。 労働法は、労働者として、または使用者として、ほとんどの人が関与する法律である。 社会に出て、労働者になるとしても、あるいは起業するなどして労務管理を行う側になるとしても、労働法の基本的な理解は役に立つものと思われる。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）に関連して、次の点を到達目標とする。 ①代表的な法令の内容や関連する判例・裁判例の内容について理解し、労働法の基本的な内容について理解すること ②①の理解を前提に、具体的な事例について問題の所在を理解して、結論を導くことができること							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	労働法の全体像 ・労働法とは ・労働法の当事者 ・労働法の法源			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 2 回	雇用関係の成立 ・採用 ・採用内定 ・試用			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 3 回	人事 ・昇進、昇格、降格 ・配転、出向、転籍			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 4 回	懲戒 ・企業秩序と懲戒 ・懲戒処分の有効性 ・労働者の内部告発の保護			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 5 回	労働契約の終了 ・解雇 ・雇止め ・合意退職、退職勧奨 ・退職をめぐるその他の法的問題			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 6 回	労働条件の変更 ・個別同意 ・就業規則の変更 ・労働協約の改訂			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 7 回	「非正社員」の労働契約 ・短時間、有期雇用労働者 ・有期労働契約の無期転換 ・派遣労働者 ・均等、均衡待遇			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 8 回	雇用平等と労働者の人権擁護 ・男女雇用機会均等法 ・障害者雇用促進法 ・労働憲章 ・労働契約に関する規制 ・ハラスメント			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 9 回	賃金 ・賃金支払いの諸原則 ・休業手当 ・賃金に関するその他のルール			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 1 0 回	労働時間 ・法定労働時間、休憩、休日 ・時間外、休日労働 ・割増賃金及び固定残業代 ・労働時間制度の特則			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 1 1 回	休暇、休業、休職 ・年次有給休暇 ・育児、介護休業 ・休職			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	
第 1 2 回	労災補償 ・労災保険 ・労災民事訴訟			テキストの該当ページや配布資料の検討		60 分	

第 1 3 回	団体的労使関係① ・団結権 ・団体交渉権 ・労働協約締結権	テキストの該当ページや配布資料の検討	60 分
第 1 4 回	団体的労使関係② ・団体行動権 ・不当労働行為	テキストの該当ページや配布資料の検討	60 分
〔授業の方法〕 講義形式。概ねテキストに沿って講義する。レジュメ等の配布資料を基に、重要な点について裁判例や事例を紹介しつつ、より具体的に労働法を理解してもらう。			
〔成績評価の方法〕 試験 70% 平常点（授業への参加状況等） 30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づく。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 『ブレップ労働法』＜第 7 版＞ 森戸英幸 弘文堂 2,200 円（税込み） ISBN : 978-4-335-31333-2			
〔参考書〕 『労働法』＜第 10 版＞ 水町勇一郎 有斐閣 3,740 円（税込み） ISBN 978-4-641-24377-4 （購入の必要はなし）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		経済実務講義（世界経済と国際金融）					
教員名		篠山 善行					
科目No.	121355100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 日本人として、世界経済との関わりを学びます。具体的には、 １．国際金融の基本及び事例を学びます。(株)国際協力銀行での３０年にわたる実務経験からリアルに紹介します。 ２．世界経済の現状や日本企業の海外での活躍について学びます。 ３．国際的な仕事に関心ある受講生に対し、就職へのイメージやガイダンスを共有します。							
〔到達目標〕 １．世界経済についての理解を深め、自分の意見を言えるようになること。 ２．国際金融の本質を理解し、自分で説明できるようになること。 該当する DP：DP2（教養の修得）							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第１回	初回ガイダンス。講義の目的や内容について説明する。また、受講生の関心を確認するためのアンケートを行う。			講義テーマに関する関心事項のとりまとめ。		60分	
第２回	国際金融を学ぼう① 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第１回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第３回	国際金融を学ぼう② 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第２回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第４回	国際金融を学ぼう③ 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第３回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第５回	国際金融を学ぼう④ 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第４回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第６回	国際金融を学ぼう⑤ 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第５回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第７回	国際金融を学ぼう⑥ 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第６回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第８回	国際金融を学ぼう⑦ 「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行や AIIB などの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。			第７回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第９回	世界経済を考えよう① 英国の EU 離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱 CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。			第８回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第１０回	世界経済を考えよう② 英国の EU 離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱 CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。			第９回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第１１回	世界経済を考えよう③ 英国の EU 離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱 CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。			第１０回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第１２回	世界経済を考えよう④ 英国の EU 離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱 CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。			第１１回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第１３回	世界経済を考えよう⑤ 英国の EU 離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱 CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。			第１２回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。		60分	
第１４回	到達度確認テスト			全講義の復習及び到達度確認テストの準備。		60分	
〔授業の方法〕							

パワーポイント資料などを用いて講義形式で行う。授業中、受講生との質疑応答をたくさん行う。また、ミニテストやアンケートを時々行う。

〔成績評価の方法〕

第 1 4 回講義にて実施する到達度確認テスト及び平常点（授業への参加状況やミニテスト／アンケートへの回答状況）によって評価を行う。評価点の配分は、到達度確認テスト 5 0 %、平常点 5 0 %。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づく。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、いつでも電子メールで受け付ける。

〔特記事項〕

特になし。

※取寄せ販売品は、この交付書は発付となる場合がめりまう。

科目名		企業会計					
教員名		鷹野 宏行					
科目No.	121355200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 企業会計を初めて学ぼうとする大学生を対象とした授業である。会計学の領域は、財務会計と管理会計に大別されるが、本講義は、財務会計を中心とした講義となる。財務会計とは、財務(資金調達)のための会計ないしは財務諸表作成のための会計をいう。本講義では、財務諸表作成のためのプロセスを強く意識した内容とする。貸借対照表と損益計算書は、複式簿記の仕組みにより作成される。簿記は、検定試験なども普及しているため、授業でも検定試験の内容を意識した構成を検討している。							
〔到達目標〕 DP2(教養の修得)を達成するために、企業会計の基礎的な概念並びに理論を理解することを目指す。就職等に有利される簿記検定の内容を授業に包含することにより、単位の修得後に日商簿記検定 3 級が合格できるかどうかでも本講義の内容理解の達成度が測定できる。加えて、企業経営の理解に必要な財務データの分析の基礎が修得できることとなる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第 1 回	オリエンテーションに充てる。会計の定義、会計学の学問的位置づけ、会計学の範囲、国家試験(公認会計士、税理士)、検定試験概要等。			事前配布するレジュメを読んでおく。		90 分	
第 2 回	財務諸表の基礎(貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係)			教科書 CHAPTER01「財務諸表の基礎」を予習する。		90 分	
第 3 回	財務諸表作成の基礎(財務諸表作成の流れ、勘定への記入方法)、簿記の一巡(仕訳、転記、試算表)の基礎			教科書 CHAPTER02「財務諸表作成の基礎」、CHAPTER03「簿記一巡の基礎」を予習する。		90 分	
第 4 回	取引と会計処理、商品売買取引、その他の債権債務			教科書 CHAPTER04「取引と会計処理」～CHAPTER06「商品売買取引」を予習する。		90 分	
第 5 回	その他の主要な期中取引、現金預金、有形固定資産、営業債権と営業債務			教科書 CHAPTER07「現金預金」～CHAPTER09「期中取引におけるその他の諸論点」を予習する。		90 分	
第 6 回	決算手続Ⅰ(有形固定資産の減価償却、売上原価の算定、貸倒引当金の設定、収益費用の見越しと繰延べ)			教科書 CHAPTER10「決算手続Ⅰ」を予習する。		90 分	
第 7 回	決算手続Ⅱ①(勘定の締め切り、財務諸表作成、月次決算)			教科書 CHAPTER11「決算手続Ⅱ」を予習する		90 分	
第 8 回	決算手続Ⅱ②(勘定の締め切り、財務諸表作成、月次決算)			教科書 CHAPTER11「決算手続Ⅱ」を予習する		90 分	
第 9 回	決算手続Ⅲ(現金過不足の整理、貯蔵品の整理、当座借り越し)			教科書 CHAPTER10「決算手続Ⅲ」を予習する		90 分	
第 1 0 回	決算手続Ⅳ(8 桁精算表の作成、合計残高試算表の作成)			教科書 CHAPTER12「決算手続Ⅱにおける精算表」、CHAPTER15「試算表の作成」を予習する		90 分	
第 1 1 回	株式会社会計(株式の発行、剰余金の配当、法人税等・消費税)			教科書 CHAPTER13「株式会社の会計」を予習する		90 分	
第 1 2 回	財務諸表分析の基礎(1)。KDDI とソフトバンクの携帯電話会社の財務諸表比較。クロスセクション分析を学ぶ。			事前配布するレジュメを予習する。		90 分	
第 1 3 回	財務諸表分析の基礎(2)。オリエンタルランドのケースを中心に。時系列分析を学ぶ。コロナ禍により財務諸表のどの数字が変化したか。			事前配布するレジュメを予習する。		90 分	
第 1 4 回	期末試験及び解説、総まとめ			テスト範囲の復習をする。テスト結果の振り返りを行う。		120 分	
〔授業の方法〕 講義と演習をバランスよく配置する授業形態である。また、出席確認を兼ねた小テストも組み込む。企業会計に関する専門用語は、日常的には使わないものが多く、最初は難解であると困惑することも考えられる。まずは、用語の整理を行い、難解と思われるがちな用語をわかりやすく解説する。また、簿記に関していえば、電卓をたたきながら多くの演習問題をこなすことで理解が深まる。習うより慣れるという観点で、授業内での演習問題の解答に時間をかける予定である。							
〔成績評価の方法〕 期末試験 80%、授業態度 20%。授業態度は、小テストなどをもとに点数化する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づく。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 『簿記ワークブック 日商 3 級 for LECTURE』税務経理協会、価格(1000 円＋税)、ISBN978-4-419-06622-2
〔参考書〕 電卓専用機を必要とする。推奨電卓は、CASIO 製 AZ-26s 学習用電卓である。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		社会理解実践講義（OB・OG が語るビジネス最前線）					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121355300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 この授業は、現在社会で実務家として活躍中である本学 OB・OG を講師に迎え、各講師の実務経験を活かして、各産業界の実態と将来の展望、求められる人材・人間像について講義します。社会人として生き抜いてきた経験談を交えながら、社会経済の実情と、履修者である学生それぞれの 10 年後、20 年後に予想される社会人像を描きます。なお、諸事情により、担当講師、日程、講義内容が変更される場合があります。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、以下の到達目標を掲げる。 (1)OB・OG の活躍するビジネスの状況を理解し、文章として表現できる。 (2)将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	フェラガモジャパン 代表取締役社長 小田切 賢太郎 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「グローバルブランドの 2 極化するマーケットに関する現状と展望」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 2 回	ブラマンテ 社長 田島 弓子 講師（文学部卒業） 講義テーマ「不確実な時代を生き抜く仕事とキャリアとの向き合い方」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 3 回	成蹊学園 常務理事（元三菱商事） 三嶋 偉一 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「総合商社の海外事業の現場にて（海外で働くとはどういうことか）」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。特に、三菱商事 HP の中の会社紹介ビデオを視聴しておくこと。 https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/about/profile/ 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第 4 回	メディアプロデューサー 幸脇 麻由子 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「人の心を動かす、企画力」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 5 回	空港施設株式会社 代表取締役 副社長 西尾忠男 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「航空・空港における SDGs の取り組みと、ESG、SDGs について」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 6 回	人材開発コンサルタント 山崎 紅 講師（法学部卒業） 講義テーマ「将来の働き方・生き方を考えるヒント、今できるアクション」 ー企業の人事・人材開発に携わるコンサルタントとして、大学生の自分に会えるなら伝えたいことー			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 7 回	パーク・コーポレーション 専務取締役 COO 富永 悟司 講師（工学部卒業） 講義テーマ「花業界における青山フラワーマーケットの独自性」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 8 回	三菱地所 理事 OCA TOKYO 館長兼 GM 廣野 研一 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「新時代のライフスタイルのまちづくり」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 9 回	ゴルフダイジェストオンライン 社長 石坂信也 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「スポーツビジネスのケーススタディ」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 10 回	三菱 UFJ 銀行 千葉支店長 田中誠人 講師（法学部卒業） 講義テーマ「銀行の社会的役割について」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 11 回	オリエンタルランド 特任理事 安岡譲治 講師（経済学部卒業） 講義テーマ「東京ディズニーランドリゾートのホスピタリティについて」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 12 回	UNDP 駐日代表事務所ユース担当コンサルタント 天野裕美 講師（文学部卒業） 「世界の中の日本の役割／国際貢献の今」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第 13 回	Autify Inc. 創業者 近澤良 講師（工学部卒業） 「AI 時代の生き抜き方／起業のリアル」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	

第 1 4 回	パネルディスカッション ファシリテーター：未定 パネラー（予定）： NTT データ 豊田麻子 講師（成蹊高校卒） 作曲家・音楽 P/ピースボイスエンターテイメント 菅原直洋 (nao) 講師（経済） 三菱商事 平竹雅人 講師（経済）， 西武 HD 松岡千佳 講師（経済） テーマ：「最前線で活躍する OBOG 達から学ぶ 20 代の生き方働 き方」	【予習】 パネルディスカッションのテーマについてあらか じめ自分の考えをまとめておく。 【復習】 パネルディスカッションを通じて得た知見をふま えて、自分の考えが変わった点と変わらなかった点を確認 する。討議内容を要約し、感想を著し、レポートとして提 出する。	60
〔授業の方法〕 講義形式で実施する。各回指示された予習資料を確認参照し、講義を受け、小レポートを提出する。			
〔成績評価の方法〕 平常点（各回のレポート課題提出 50%）と平常点（各回のレポート課題内容 50%）を目安として、積極性（講義内での発言や質問）も考慮しながら総合的に評価 します。 尚、各回の講義を受けて提出されるレポート課題では、以下の視点から評価します： (1) OB・OG の活躍するビジネスの状況がしっかりと記述されている、 (2) (1) を踏まえて、各自のこれからのキャリアについて意欲的に述べられている。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 (1)OB・OG の活躍するビジネスの状況を授業の内容から理解し、文章として表現できる。 (2)将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識、先修科目は特になし。 関連科目は成蹊教養カリキュラムのキャリア教育科目など。			
〔テキスト〕 特になし。			
〔参考書〕 授業中に適宜紹介します			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		産業組織論 A					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360000	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論 A では、市場でみられる価格付けについて、現実の市場構造でみられる独占・寡占とよばれる少数の企業による戦略的行動に焦点を当てて分析を行います。これらは市場競争が十分に機能していないこととされており、こうした不完全競争の問題点を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。							
〔到達目標〕 本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・ミクロ経済学・産業組織論における「企業」や「市場」とは何か			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 2 回	完全競争市場（1） ・消費者・生産者の行動とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 3 回	完全競争市場（2） ・完全競争市場の社会的な望ましさ（社会厚生）とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 4 回	独占市場（1） -独占企業の価格・数量設定とその社会厚生への影響とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 5 回	独占市場（2） ・独占企業のさまざまな価格戦略			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 6 回	独占市場（3） ・独占市場がなぜ発生するのか（規模の経済・自然独占）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 7 回	独占市場（4） ・独占市場への規制の例を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 8 回	ゲーム理論 ・ゲーム理論の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 9 回	寡占市場（1） ・寡占市場における企業の行動とは何か			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 0 回	寡占市場（2） ・企業間の数量競争（クールノー競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 1 回	寡占市場（3） ・企業間の数量競争（クールノー競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 2 回	寡占市場（4） ・企業間の価格競争（ベルトラン競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 3 回	寡占市場（5） ・企業間の価格競争（ベルトラン競争）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 4 回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります							
〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学の知識があると望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		産業組織論B					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論 B では、企業が競争を回避するため、または消費者の特性に合わせた戦略（製品差別化、カルテル、合併、開発競争、ネットワーク効果など）に焦点を当てて分析を行います。こうした企業間の戦略的な行動がもたらす社会への影響を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。							
〔到達目標〕 本科目では、D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける。 ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・産業組織論 B の内容について			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 2 回	完全競争市場			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 3 回	独占市場			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 4 回	垂直的取引（1） ・垂直的な取引関係にある企業の行動と社会厚生に与える影響			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 5 回	垂直的取引（2） ・垂直的取引に関する競争政策の紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 6 回	寡占市場 ・企業間の戦略的関係			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 7 回	カルテル ・企業間の競争を緩和する協調行動（カルテル）が発生する要因とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 8 回	合併 ・市場構造を変化させる合併が生じる理由とその社会への影響を考察			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 9 回	製品差別化 ・企業間の競争を回避するための要素とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 0 回	広告と競争 ・広告戦略と価格戦略の関係			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 1 回	参入 ・参入の社会への影響、参入阻止行動			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 2 回	研究開発・知的財産 ・イノベーションと競争の関係 ・知的財産権の経済分析の紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 3 回	ネットワーク外部性 ・プラットフォーム市場における価格戦略とは			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 4 回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります							
〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、産業組織論 A の知識があると望ましいですが、必須ではありません

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第 2 版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します、授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕

※最終版とは異なる可能性があります。

科目名		国際経済学 A					
教員名		永野 護					
科目No.	121360200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 国際経済学を理論・データ面双方から学習します。国際経済学の理論に対し、現実の国際貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深めます。国際経済理論のデータ面からの確認では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況を中心とする講義を進めます。世界銀行、国連貿易開発投資、国際通貨基金他の国際機関データベースに API（Application Programming Interface）接続し、国際経済データをダウンロードして、理論を実装するデモを各回実施します。							
〔到達目標〕 国際経済学を主としてミクロ面から理論・データを踏まえて理解することで、DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】に到達することを目標とします。世界貿易機関（WTO）や経済連携協定（EPA）、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）などの専門用語を正しく理解し、これらの協定締結交渉へ至る経緯やその意義、協定がもたらす締結国への影響の理解が到達目標です。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	第 1 回 インTRODakション／国際経済学は何を研究するのか？			教科書第 1 章を予習・復習に参照してください。		120 分	
第 2 回	第 2 回 世界貿易の概観			教科書第 2 章を予習・復習に参照してください。		120 分	
第 3 回	第 3 回 労働生産性と比較優位：リカード・モデル①			教科書第 3 章を予習・復習に参照してください。		120 分	
第 4 回	第 4 回 労働生産性と比較優位：リカード・モデル②			教科書第 3 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 5 回	第 5 回 特殊要素と所得分配：ヘクシャー・オリーン・モデル①			教科書第 4 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 6 回	第 6 回 資源と貿易：ヘクシャー・オリーン・モデル②			教科書第 5 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 7 回	第 7 回 貿易の標準モデル			教科書第 6 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 8 回	第 8 回 規模の外部経済と生産の国際立地			教科書第 7 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 9 回	第 9 回 中間まとめ／規模の経済・不完全競争・国際貿易 1			教科書第 1－7 章、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 1 0 回	第 10 回 グローバル経済の企業			教科書第 8 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 1 1 回	第 11 回 貿易政策のツール			教科書第 9 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 1 2 回	第 12 回 国際収支と国民所得統計			教科書第 1 3 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 1 3 回	第 13 回 総まとめ 1			教科書第 1－9 章、1 3 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
第 1 4 回	第 1 4 回 総まとめ 2			教科書第 1－9 章、1 3 章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。		120 分	
〔授業の方法〕 講義では、講義の最後 2 0 分に簡単な Quiz を実施し、次回解説します。100 分の講義では冒頭 15 分が Quiz の解答、55 分が経済学理論の説明、30 分が統計データの説明と解釈の仕方について講義します。 QUIZ の回答を以って出席とします。 尚、本講義の成績評価の 6 割はレポート（1 頁／回）です。Python を用いた国際経済分析の方法は第 1 回～3 回の講義時に説明します。 OS は Windows が望ましいですが、コードエラーを自分で解決できるのであれば Mac でも可。							
〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しない。QUIZ への回答を以て出席とします。対面講義時には出席は採らない。 (A) QUIZ の回答（MS Forms） 40% (B) レポート（1 頁を 2～3 回程度） 60% に基づいて最終成績を算出します。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学にかかる理論的枠組みについては、改めて詳細を説明することはないため、講義参加前に十分に確認しておくこと。プログラミング言語 Python を用いた実証分析をレポートの課題とします。このため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。Mac を OS とする PC の利用も可能であるが、Windows 版とコードが若干異なるため、Mac を用いる場合はエラー等は自分で解決するか、大学から Windows のノート PC をレンタルすること。
〔テキスト〕 P.R.クルーグマン・M. オブストフェルド『国際経済学：理論と政策（上）貿易編』丸善出版を必ず購入し、出席時に携えること。
〔参考書〕 P. R. Krugman & M. Obstfeld, International Economics: Trade and Theory, 10th ed.
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は教室でのみ受け付けます。メール・チャットによる質問は不可。
〔特記事項〕 コンサルティング企業 17 年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		国際経済学B					
教員名		永野 護					
科目No.	121360300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 講義は、ミクロ経済学・国際経済学の理論を土台として、現実の日本企業、外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例とデータを踏まえながら解説する。具体的な企業のM&A戦略や販売戦略、R&D投資の動向を学ぶことで、ミクロ経済学・国際経済学の理論と現実について解説する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学・国際経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を、現実の企業社会の経営戦略、国際戦略に応用して理解し、これらの理論的枠組みをデータサイエンス分析により検証する能力を身に着ける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	第1回 自動車産業の国際戦略：トヨタ v s. テスラ 自動車メーカーの経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第2回	第2回 情報通信産業の国際戦略：エヌビディア vs. インテル 半導体メーカーの盛衰について、個々の事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第3回	第3回 石油化学メーカーの国際戦略：三井化学 vs. ダウ・ケミカル 石油化学メーカーの経営環境、国際戦略の現状について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第4回	第4回 ビール産業の国際戦略：麒麟 vs. サントリー ビール産業の直接投資、国際企業買収の事例について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第5回	第5回 銀行経営の国際比較研究：MUFG vs. JP モルガン・チェース メガバンクの経営状況と国際戦略について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第6回	第6回 地方銀行と国際銀行規制：横浜銀行 vs. ウェルズファーク 地方銀行、第二地方銀行の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第7回	第7回 前半まとめ 1～6回の講義を国際比較を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第8回	第8回 医薬品産業の国際戦略：タケダ vs. ファイザー 医薬品メーカーの経営環境の現状について、グラクソ・スミスクライン、テバ、ファイザーなどの国際比較を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第9回	第9回 総合商社の国際戦略：三菱商事 vs. 伊藤忠商事 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第10回	第10回 鉄鋼メーカーの国際戦略：日本製鉄 vs アルセロールミタル 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第11回	第11回 小売産業の盛衰とグローバル化：楽天 vs. アマゾン 百貨店、スーパー、コンビニの経営動向について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第12回	第12回 まとめ1 第1～12回の講義について総括する。。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第13回	第13回 まとめ2 第1～12回の講義について総括する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第14回	第14回 レポートのフィードバック			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
〔授業の方法〕							

本講義で扱うすべての産業を網羅する教科書はないので、適宜、参考図書を紹介しながら、ハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。講義では冒頭に Python を用いる Quiz (0～5 点) を実施します。14 回の講義において、プログラミング言語 Python を用いた 1 頁のレポートの課題提出を (3 回) 求めます。 Python の使用方法は第 1 回～3 回までで詳細を説明します。 昨年度のレポートテーマは次の通りです。 第 1 回 自動車企業の競争戦略の分析：マーケット・セグメンテーション vs. 価格差別化戦略 第 2 回 メガバンクのビジネス・モデル分析：金融業者の生産関数の推計 第 3 回 企業財務分析のデータサイエンス QUIZ の回答を以て出席とし、対面教室では出席は採りません。第 1 回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討します。
〔成績評価の方法〕 (A) Quiz 40% (MS Forms を通じての QUIZ の回答を以て出席とします。教室では出席は採りません) (B) レポート (3 回程度) 60% (Python を用いた企業戦略分析、株価・財務分析などを予定。) に基づいて最終成績を算出する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学、国際経済学を履修済みであること。プログラミング言語 Python を用いた実証分析を行うため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。OS は Mac でも構わない。
〔テキスト〕 ハンドアウトを配布する。
〔参考書〕 中西孝樹著『トヨタ対 VW』日本経済新聞出版社 永井隆著『サントリー対キリン』日本経済新聞出版社 その他、適宜、指定します。
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 質問は教室でのみ受け付けます。水曜 3 限のオフィスアワーでも構いません。メールやチャットでの質問は回答しないので注意してください。
〔特記事項〕 コンサルティング企業勤務歴 17 年の実務家教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		組織の経済学					
教員名		内田 潤					
科目No.	121360400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 経営学では組織の生産性に関する議論が広くさかに行われてきたが、統計学の手法を用いた実証的な研究を除いて数理的に行われることは珍しかった。組織の経済学は経済学の理論体系を活用し、主として数理的な方法を用いて組織内と組織間で生じる非効率性や組織の境界・規模に関して分析を行おうとするものである。 本講義ではゲーム理論やその他の経済学の理論的枠組みを用いてそれらの問題がなぜ起きるか、どのように対処できるのかについて説明を試みる。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）と DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の 3 点を到達目標とする。 1. 組織の経済学の基礎的な理論を修得する。 2. 人間や組織の間で起きる社会的な問題を組織の経済学の基礎的な理論に基づいて的確に分析し、考察することができる。 3. 人間や組織の間で起きる問題の解決に向けた議論を組織の経済学の理論に基づいて数理的に、かつ論理的に行うことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	「イントロダクション／ガイダンス」 組織の経済学の理論体系を概観する。また、講義の進行や成績評価の方法などについて伝える。			シラバスを事前に読む。		60 分	
第 2 回	「戦略形ゲームと支配戦略均衡」 戦略形ゲームについて説明し、支配戦略均衡の求め方を学ぶ。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 3 回	「戦略形ゲームにおける純粋戦略ナッシュ均衡とパレート効率性」 戦略形ゲームにおける純粋戦略ナッシュ均衡の求め方を学ぶ。また、ゲームの結果の効率性をテストする方法としてパレート効率性という概念を紹介する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 4 回	「チーム生産と報酬分配制度」 チームで協力して成果を出そうとすると、報酬分配の制度の違いが生産性にどのような影響を及ぼすか考察する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 5 回	「コーディネーション問題」 組織内、あるいは組織間で起きるコーディネーション問題について考える。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 6 回	「展開形ゲームとリーダーシップ」 展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡について説明する。コーディネーション問題がリーダーシップにより解決する場合があることを展開形ゲームにより確認する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 7 回	「ホールドアップ問題」 被雇用者や下請け業者などがしばしば直面するホールドアップ問題がなぜ起きるのか、どのようにしたら解決できるのかについてゲーム理論を用いて考察する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 8 回	「繰り返し囚人のジレンマゲーム」 囚人のジレンマゲームが繰り返されるような展開形ゲームを考える。このとき、有限回繰り返される場合と無限回繰り返される場合の部分ゲーム完全均衡についてそれぞれ分析する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 9 回	「繰り返しゲームと長期的な信頼関係」 前回に引き続き、繰り返しゲームの分析を行う。これにより、一定の条件のもとで長期的な信頼関係が維持され、ホールドアップ問題が回避される場合があることを確かめる。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 1 0 回	「不完全情報ゲームとプリンシパル・エージェント問題の導入」 不完全情報ゲームについて解説し、エージェントが努力をしたかどうかをプリンシパルが知ることができないときに生じる問題を分析する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 1 1 回	「プリンシパル・エージェント問題と契約（1）」 十分に整備された法制度のもとで適切な契約を結ぶことによりプリンシパル・エージェント問題を解決できる場合があることを確かめる。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 1 2 回	「プリンシパル・エージェント問題と契約（2）」 エージェントが努力をしたかどうかをプリンシパルが知ることができない状況でも、適切な契約によりプリンシパル・エージェント問題を解決できる場合があることを確かめる。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 1 3 回	「水平的統合と垂直的統合」 企業が買収や合併、事業の売却を行うのはどのような場合か？ 二重マージンモデルを使って考える。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。		90 分	
第 1 4 回	「発展的なトピックスと講義全体のまとめ」 授業に係る発展的なトピックスを紹介した後、講義全体の内容を総括する。			配布資料を事前に読む。 授業後に復習をする。		60 分	
〔授業の方法〕							

授業は毎回配布する資料に基づき講義を中心に進められる。配布資料は CoursePower 上に授業の 1 週間前をめどに配布する予定なので、事前にダウンロードして予習し、授業中には資料を参照できるように準備しておくこと。授業中は LINE オープンチャットで随時質問ができる。 原則として毎回宿題を課す。宿題の提出期限は原則として次回授業の開始時刻までとする。宿題の内容や提出期限などの詳細は講義の中で説明する。期末試験や到達度確認テストは実施せず、宿題以外のレポートは課さない。 提出された宿題は順次採点される。採点の結果とコメントは採点後に CoursePower で確認できる。これにより学生の学習状況を確認しつつ宿題の内容に対するフィードバックを行い、学習内容の定着を図る。また、講義内容を録画した動画を配信することで学生による自主的な復習を促す。これらの方法により、e-ラーニングを活用した自主学習支援を行う。 なお、受講生の関心事や能力などに応じて学期中に講義の内容や方法、授業計画などを変更する場合がある。その場合は授業時間中に、あるいは LINE オープンチャットで周知する。
〔成績評価の方法〕 成績評価は授業への積極的参加に対する評価（30％程度）と期限までに提出された宿題の内容に対する評価（70％程度）によって構成される。ただし、括弧内は成績評価の割合である。 授業への積極的参加に対する評価は次の 2 点が重視される。 1. 宿題が提出期限までに指示通りに提出されているか。 2. 提出された宿題への解答が誠実に行われているか。 （例えば、宿題が半分以上解答されていない場合には不誠実とみなす。） なお、宿題の解答に際して不正が行われた証拠を見つけ
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の 3 点を判断基準にして、到達目標への達成度を評価する。 1. 組織の経済学の基礎的な理論・知識について十分な理解があるか。 2. 人間や組織の間で起きる社会的な問題を組織の経済学の基礎的な理論に基づいて的確に分析し、その分析結果を適切に解釈できているか。 3. 人間や組織の間で起きる問題の解決に向けた議論を組織の経済学の理論に基づいて数理的に、かつ論理的に行うことができているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識：ナッシュ均衡などのゲーム理論に関する基礎的な知識 先修科目：「ゲーム理論」 関連科目：「情報の経済学」、「産業組織論 A」、「産業組織論 B」、「労働経済学」
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 次の 3 つの書籍を参考書とする。 『組織の経済学』、ポール・ミルグロム／ジョン・ロバーツ、1997 年、NTT 出版、ISBN：9784871885362。 『組織の経済学』、伊藤秀史／小林創／宮原泰之、2019 年、有斐閣、ISBN：9784641165502。 『組織の経済学のフロンティアと日本の企業組織』、新原浩朗、2023 年、日経 BP、ISBN：9784296113859。 ただし、いずれも購入の必要はない。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問や相談は随時 LINE オープンチャットか E メールで受け付けるほか、授業後であれば教室でも受け付ける。 LINE オープンチャットへの参加方法は第 1 回の講義で紹介する。 メールアドレスは第 1 回の講義で周知するが、講義資料の表紙などからも確認できるようにする。
〔特記事項〕 ICT 活用

科目名		労働経済学					
教員名		北條 雅一					
科目No.	121360500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 この授業は、労働経済学の基本的な考え方を学び、その考え方に基づいて現実の労働市場を理解することを目的としている。講義の前半では、労働者の意思決定（働くか働かないか、どのぐらい働くか、労働以外の活動とのバランスをどうするか、結婚するかしないか）、企業の意思決定（どのぐらい従業員を雇うか、労働以外の投入要素とのバランスをどうするか、雇用の調整）、失業（失業とは何か、なぜ失業が発生するか、失業対策）、最低賃金（最低賃金とは何か、最低賃金の効果）などについて解説する。後半では、日本的雇用慣行、女性・若者の働き方を題材としながら、日本の労働市場の特徴についての理解を深める。 授業は、理論と実証をセットにして進め、授業の計画に沿って講義を行う。なお、授業の進捗等によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①労働供給・労働需要・失業など、労働経済学の基礎的な考え方を理解し、説明できる。 ②労働経済学の考え方を現実の労働市場に応用することができる。 ③日本の労働市場の歴史と現状について理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する ・日本の労働市場を概観する			【予習】シラバスを熟読する。労働市場に関する最近の新聞記事等を探し、目を通す		60	
第2回	労働供給の理論（1） ・労働供給の基本モデル			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた安藤(2015)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	労働供給の理論（2） ・比較静学			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた安藤(2015)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	労働需要の理論（1） ・労働需要の基本モデル			【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	労働需要の理論（2） ・雇用調整			【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	失業 ・失業の発生要因 ・失業対策			【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	最低賃金（1） ・最低賃金とは何か			【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	最低賃金（2） ・雇用への影響			【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	日本的雇用慣行（1） ・人的資本理論と年功賃金			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口(2013)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	日本的雇用慣行（2） ・若者への影響			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口(2013)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	女性の働き方（1） ・歴史と現状			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた川口編(2017)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	女性の働き方（2） ・男女雇用機会均等法の効果			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた川口編(2017)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	若者の働き方 ・若年者雇用問題とは何か ・労働市場の世代効果			【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口(2013)を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ、授業内試験			【予習】授業全体について復習する。 【復習】試験の解答について確認する。		60	
〔授業の方法〕 授業は対面の講義形式でおこなう。講義資料は事前に配布するので、授業前に予習をしておくこと。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。							
〔成績評価の方法〕							

期末試験（60%）、各回の小レポート（40%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 and No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①労働需要や労働供給の決まり方、失業について、説明できる。
- ②日本の雇用慣行について理解し、それが女性や若者の働き方に及ぼす影響について、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

安藤至大『これだけは知っておきたい働き方の教科書』ちくま新書、2015 年、ISBN-10: 4480068236, 858 円「購入の必要なし」

大森義明『労働経済学』日本評論社、2008 年、ISBN-10: 4535555664, 3520 円「購入の必要なし」

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』有斐閣、2017 年、ISBN-10: 4641165122, 3960 円「購入の必要なし」

濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ、2013 年、ISBN-10 : 4121504658, 968 円「購入の必要なし」だが購入を勧める

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		法と経済					
教員名		矢作 健					
科目No.	121360600	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 法と経済では、法律のような社会のルールに関する現象をミクロ経済学・ゲーム理論といった経済学的手法を応用して分析する学問分野です。この講義では、社会のルール（法律など）や法制度が社会の人々の行動（インセンティブ）に与える影響を明らかにし、その社会への影響を資源配分の効率性の観点から考察していきます。具体的には、所有権、契約法、事故法、訴訟に関する手続き、刑法などを取り扱いたいと思います。そして、実際にどのように社会のルールが作成され、適用されていくのかについても考えていきたいと思います。							
〔到達目標〕 本科目では、D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・法と経済学の概要の説明			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 2 回	ミクロ経済学の考え方（１） ・ミクロ経済学の分析手法と社会厚生（効率性）の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 3 回	ミクロ経済学の考え方（２） ・市場の失敗とルール作りの必要性を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 4 回	所有権の経済分析（１） ・所有権とは ・所有権が存在することの意義を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 5 回	所有権の経済分析（２） ・コースの定理とは ・公共の所有物・共有の財産の経済分析を紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 6 回	ゲーム理論の考え方 ・ゲーム理論の分析手法と均衡の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 7 回	事故法の経済分析（１） ・事故が発生する際の賠償責任に関する諸ルールを紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 8 回	事故法の経済分析（２） ・製造物責任法への応用			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 9 回	契約法の経済分析 ・契約の必要性和その与える影響を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 0 回	訴訟・法的手続きの経済分析 ・訴訟か和解を決定する要因を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 1 回	刑法の経済分析 ・犯罪抑止に関する経済モデルを紹介			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 2 回	独占禁止法の経済分析 ・独占市場（不完全競争）の影響を考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 3 回	ルール作りの経済分析 ・法やルールが決まっていく過程を政治的プロセスに着目して考える			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
第 1 4 回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		90 分	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります							
〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する
- ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の知識があれば望ましいが、必要ではない

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- ・『法と経済学』 スティーブン・シャベル 田中亘・飯田高（訳）、日本経済新聞出版社 （ISBN 978-4532405854）
- ・『The Economic Approach to Law, Third Edition』 Thomas Miceli、Stanford Economics and Finance （ISBN 978-1503600065）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		金融論A					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121360700	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 金融取引とは、現在利用する予定のない資源を所有する資金余剰主体と現在資源を利用したいが資源を所有していない資金不足主体が資源を融通し合う取引である。本科目では、金融取引に関する様々な仕組みや機能を経済学に基づいて解説します。また、金融資産の価格の決定メカニズムや、金融機関の役割などについても解説します。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 金融についての基本的知識を習得する。日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第 2 回	金融システム ・金融仲介の全体像である金融システムについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 3 回	日本の資金循環 ・資金循環統計を見ながら、日本の金融システムの全体像について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 4 回	金融取引の基本 ・金利やリスクプレミアムなど、金融取引に際して重要な事項を説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 5 回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(1) ・マクロ経済における貯蓄と投資の均衡について基本モデルを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。。		60	
第 6 回	金融市場の均衡から見た日本経済 ・金融市場の均衡の基本モデルを利用し、日本の資金循環について分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 7 回	これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を 確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第 8 回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(2) ・政府が国債を発行する場合の金融市場の均衡のモデルについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 9 回	日本の財政赤字と金融政策 ・政府部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本の財政赤字や金融政策に分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 1 0 回	ファイナンスの基礎（1） 利子率・収益率と資産価格について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 1 1 回	ファイナンスの基礎（2） 割引現在価値モデルによる資産価格決定について説明し、合わせてバブルについても説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 1 2 回	ファイナンスの基礎（3） 危険資産とリスクプレミアムについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 1 3 回	ファイナンスの基礎（4） ポートフォリオ選択の考え方について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第 1 4 回	復習：ファイナンスの基礎の復習をする。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
〔授業の方法〕 通常の講義形式で実施する。授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。							
〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験（60%）および平常点（40%）で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（100%）で成績評価する。 平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目
経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」
関連科目 「金融論 B」「ファイナンス A」「ファイナンス B」があります。

〔テキスト〕
特に指定しない。

〔参考書〕
『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		金融論B					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121360800	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 金融取引とは、資金余剰主体と資金不足主体が現在と将来の間で資源を融通し合う取引であり、時間を通じた資源配分にかかわる取引とも呼ばれる。金融資産には様々なものがあり、中でも貨幣は決済手段となるという意味で、株式や債券等他の資産と異なった性質を持っている。また、貨幣は中央銀行の管理下であり、中央銀行は民間銀行と貨幣の取引をおこなうなど様々な活動を通じて、他の金融資産の市場の価格（利子率）に影響を与える。そして、それは家計や企業の異時点間の意思決定に影響を与え、マクロ経済全体に大きな影響を与える。 この授業は、日本において、中央銀行と金融機関の関係がマクロ経済全体にどのような影響を及ぶのかを、マクロ経済学的な基本的な分析枠組みを使って説明する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 日本の金融システムや金融政策の現状と歴史的変遷について、経済学に基づく知識を習得する。特に、日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第2回	貨幣市場と債券市場 ・債券市場で決まる利子率と、貨幣市場における貨幣の需給バランスがどのような関係にあるのかを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第3回	貨幣とLM曲線 ・中央銀行による貨幣供給量の操作が金利操作につながるメカニズムを説明する。 ・物価と貨幣市場の均衡の関係について説明する。 ・日本における貨幣量の推移について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第4回	総需要とIS曲線 ・財市場における需要の合計である総需要と利子率の関係であるIS曲線について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第5回	IS-LMモデルと総需要曲線 ・IS-LMモデルの均衡から、物価と総需要の関係である総需要曲線を導出する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第6回	これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第7回	企業の生産活動と労働市場 ・物価水準と労働供給の関係について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第8回	フィリップス曲線と総供給曲線 ・インフレ率と失業率の関係を表すフィリップス曲線と、総供給の関係について説明する。 ・日本のインフレ率と失業率の推移について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第9回	短期・中期・長期の総供給曲線 ・異なる物価間の調整速度と総供給の関係について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第10回	総需要・総供給モデル（1） ・総需要曲線と総供給曲線を使ったマクロ経済の均衡について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第11回	総需要・総供給モデル（2） ・マクロ経済の均衡と期待形成の関係について説明する。。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第12回	総需要・総供給モデル（3） ・マクロ経済政策とマクロ経済の均衡の関係について説明する。 ・日本の金融政策の現状について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第13回	総需要・総供給モデル（4） ・総需要曲線と総供給曲線を使って、デフレが生じるメカニズムについて説明する。 ・日本の金融政策、貨幣市場をマクロ経済理論を使って説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第14回	日本の金融システム・金融政策の今後 ・歴史的経緯を踏まえ、日本の金融システムや金融政策が今後どのようなと考えられるかについて議論する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
〔授業の方法〕							

一般の講義形式で行います。

なお、授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(60%)および平常点(40%)で成績評価する。
平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。
なお、状況により、期末試験は行わず平常点 100%で評価することもあります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目
経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」
関連科目 「金融論 A」があります。

〔テキスト〕

特に指定しない。

〔参考書〕

星岳雄+A. カシヤップ『日本金融システム進化論』（日本経済新聞社）
二神孝一・堀敬一『マクロ経済学』（有斐閣）
『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		ファイナンス A					
教員名		永野 護					
科目No.	121360900	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
【テーマ・概要】 本講義は、教科書に沿って、現代ポートフォリオ理論、CAPM 理論、モンテカルロ・シミュレーション、債券投資理論などを講義します。 講義の内容は、上記の現代証券投資理論の解説に加え、Python によるこれらの理論実装を説明します。講義では、前半 4 5 分に現代ファイナンス理論の解説を行い、後半 4 5 分は Python による株価日次データ分析、CAPM 理論の実装、効率的フロンティアの導出デモを実施します。							
【到達目標】 DP 1（専門分野の知識・理解）、DP 2（教養の修得）、を実現するため、以下を到達目標とする。 到達目標 1：pandas と numpy を用いたマーケットデータのハンドリングと記述統計を分析することができる。 到達目標 2：株価日次データを用い、効率的フロンティアと最適資本構成の算出が可能となる。 到達目標 3：株価日次データを用い、モンテカルロ法や機械学習により株価や為替レートの予測ができる。							
【授業の計画と準備学修】							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	第 1 回 ガイダンス／Python による API を用いたデータ取得 pandas と numpy を用いた株価リターンとリスクの算出方法について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 2 回	第 2 回 現代ポートフォリオ理論のデータサイエンス（Python 編） 株価データを用いた効率的フロンティアの導出方法を解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 3 回	第 3 回 CAPM 理論のデータサイエンス（Python 編） CAPM 理論についてプログラミング事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 4 回	第 4 回 マルチファクター・モデルへの拡張（Python 編） ベータ値、規模効果、バリュー効果についてプログラミング事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 5 回	第 5 回 株価の予測：モンテカルロ法と時系列モデル（Python 編） 株価データを用いたモンテカルロ法と時系列モデルによる株価予測を解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 6 回	第 6 回 デリバティブ取引の理論と実装（Python 編） 先物取引、オプション取引、スワップ取引についてプログラミング事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 7 回	第 7 回 中間まとめ 第 1～6 回の内容について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 8 回	第 8 回 債券投資理論の実装（Python 編） 債券価格と利回り、コンベキシティ等についてプログラミング事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 9 回	第 9 回 金利の期間構造と金利変動モデル（Python 編） 金利変動モデルについて、パラメトリック・モデルと確率論モデルをプログラミング事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 10 回	第 10 回 為替レート決定理論×機械学習（Python 編） 為替レート決定理論について解説し、現状と展望を議論する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 11 回	第 11 回 イベントスタディと株価効果（Python 編） イベントスタディの手法について解説し、M&A の株価効果をプログラミングにより計測する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 12 回	第 12 回 企業財務データの分析手法（Python 編） パネルデータを用いる企業財務分析について、python を用いる事例を解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 13 回	第 13 回 まとめ① 第 1～12 回の講義についての理解度確認を行う。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第 14 回	第 14 回 まとめ② 第 1～12 回の講義についての理解度確認を行う。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
【授業の方法】							

下記に示す教科書を用いて講義を進める。資料は適宜、ポータルサイトを通じて配布します。本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回最後の、20分程度、クイズ（小テスト）を実施し、これを出席点とします。このため対面教室では PC は必携です（自宅・学外からの QUIZ の回答も可）。レポート作成に必要な Python を用いた分析手法は各回講義時に詳細を説明します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験は実施しないため、平常点（40％）とレポート（60％）で成績評価します。
レポートは①主要銀行の β 値の算出、②モンテカルロ法による日経平均株価の予測、③日本株・日本国債・米国株・米国債の最適資産構成の算出、を予定。
python の使用方法是第 1～13 回において全て説明します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。基礎から説明します。

〔テキスト〕

永野 護『Python で学ぶファイナンス論×データサイエンス』朝倉書店 2023 年

〔参考書〕

なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は教室またはオフィスアワーで対面の場合のみ受け付けます。メールやチャットでは質問しないこと。

〔特記事項〕

コンサルティング企業 17 年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		ファイナンスB					
教員名		永野 護					
科目No.	121361000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義は、Rにより現代ポートフォリオ理論、CAPM 理論の実装を説明する。加えて、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を土台として、現代の金融産業、金融システムがどのような歴史的経緯を経て現状があるのか、事例を踏まえながら解説する。 講義の内容は、銀行業、証券業、保険業等の産業別の解説の他、金融資本市場のマイクロストラクチャを解説する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）、を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を応用し、現実の金融業、金融システムに関する専門知識を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	第1回 ガイダンス／Rを用いたファイナンス・データ取得 Rによるファイナンス理論実装後、銀行の経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第2回	第2回 株価の記述統計とリターン・リスク分析（R編） Rによるファイナンス理論実装後、不完備契約について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第3回	第3回 現代ポートフォリオ理論のデータサイエンス①（R編） Rによるファイナンス理論実装後、情報の非対称性について事例を交えて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第4回	第4回 現代ポートフォリオ理論のデータサイエンス②（R編） Rによるファイナンス理論実装後、都市銀行・地方銀行の経営環境、国際戦略の現状について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第5回	第5回 CAPM理論のデータサイエンス①（R編） Rによるファイナンス理論実装後、間接金融の仕組み、経営状況と国際戦略について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第6回	第6回 CAPM理論のデータサイエンス②（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金融機関の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第7回	第7回 中間まとめ 第1～6回の内容について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第8回	第8回 CAPM理論のデータサイエンス③（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金融資本市場の歴史と現状について財務データを用いて解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第9回	第9回 CAPM理論のデータサイエンス④（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金融システムのリスクと制度について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第10回	第10回 割引現在価値の算出と使い方（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金利形成と資産価格の理論について解説し、現状と展望を議論する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第11回	第11回 イールドカーブと長期金融市場（R編） Rによるファイナンス理論実装後、企業金融と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第12回	第12回 資産運用と市場 家計部門の貯蓄と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第13回	第13回 バブル・デフレと金融政策 第1～12回の講義について総括する。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。		60	
第14回	第14回 到達度確認 第1～13回の講義についての理解度確認を行う。			【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。		60	
〔授業の方法〕							

下記に示す教科書を用い、かつハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。レポート作成に必要な R を用いた分析手法は第 1 回～3 回の講義において詳細を説明する。

〔成績評価の方法〕

学期末試験は実施しないため、平常点（40％）とレポート（60％）で成績評価する。
レポートは①メガバンクの株価、②主要銀行の β 値の算出、③企業財務分析、を予定。R の使用方法是第 1～3 回までで全て説明する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みであること。

〔テキスト〕

村瀬英彰著『新エコノミクス金融論』 日本評論社

〔参考書〕

永野 護著『Python で学ぶファイナンス論×データサイエンス』朝倉書店 2023 年

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は教室、オフィスアワーの対面のみ受け付けます。メール、チャットでは受け付けませんので送信しないこと。

〔特記事項〕

コンサルティング企業 17 年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

科目名		国際金融論					
教員名		鈴木 史馬					
科目No.	121361100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、マクロ経済学・ファイナンスの応用分野として、国際金融と呼ばれる領域のテーマを扱います。マクロ経済学やファイナンスの標準的な理論を復習しながら、それを国際金融市場の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を身に着けるために実現するため、以下を到達目標とする。 1. マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。 2. マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	国際マクロ経済学のオーバービュー			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 2 回	為替レートの決定メカニズム（1） 購買力平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 3 回	為替レートの決定メカニズム（2） 金利平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 4 回	為替レートの決定メカニズム（3） データで見る購買力平価・金利平価の説明力			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 5 回	為替レートの決定メカニズム（4） 国際金融制度			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 6 回	開放交換経済 2 期間一般均衡モデル(1) 国際的な金融市場が完全な場合			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 7 回	開放交換経済 2 期間一般均衡モデル(2) 国際的な金融市場が不完全な場合			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 8 回	企業の最適化行動 利潤を求め生産活動を行う企業の行動を説明する			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 9 回	政府 政府支出を行い課税し国債を発行する政府行動を説明する			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 1 0 回	開放生産経済 2 期間一般均衡モデル(1)			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 1 1 回	開放生産経済 2 期間一般均衡モデル(2)			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 1 2 回	開放生産経済 2 期間一般均衡モデル(3)			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 1 3 回	開放生産経済 2 期間一般均衡モデル(4)			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第 1 4 回	授業のまとめ			これまでの授業内容をよく復習する。		60	
〔授業の方法〕 板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第 1 回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第 1 回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。							
〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点（毎回の提出課題等）(40%)で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（毎回の提出課題や授業内での試験等）(100%)で成績評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価します。

1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。
2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。
3. 発展的テーマへの考察ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：

経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など
現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など
経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」

〔テキスト〕

適宜、指定する。

〔参考書〕

植田健一・服部孝洋（2024）『国際金融』（日本評論社）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		財政学 A					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121361200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 政府の活動は社会保障、公共事業、国防など多岐に渡り、多くの国において重要な役割を果たしています。財政学は、このような政府の経済活動について幅広く分析を行う学問です。本講義では、財政学の基礎について解説を行います。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・政府の役割を説明できる。 ・政府の政策が経済に与える影響を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第 2 回	政府の役割（1） ・経済における政府の役割について説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	政府の役割（2） ・経済における政府の役割について説明します（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	財政制度 ・財政の仕組みと歴史について学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	公共財 ・「市場の失敗」にどう対処するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	租税(1) ・税の仕組みと原則を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	租税(2) ・基幹税をどう設計するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	社会保障（1） ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	社会保障（2） ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	地方財政（1） ・国と地方の財政関係を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	地方財政（2） ・国と地方の財政関係を学びます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	異時点間の財政運営（1） ・財政赤字の負担と発生原因を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	異時点間の財政運営（2） ・財政赤字の負担と発生原因を考えます（続）。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	まとめ ・講義全体のまとめを行います。			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、課題の出題を毎回行います。							
〔成績評価の方法〕 平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)40%、期末試験 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『財政のエッセンス』、西村・宮崎、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		財政学B					
教員名		中神 康博					
科目No.	121361300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 分権論議が高まる中で、都市・地方が今後どのようなようになっていくのか不透明な部分が多い。この講義は、都市・地方が抱える問題、とりわけ再分配に焦点を当てながら、経済学・経営学・政治学の立場から分析することを目的としている。取り扱うテーマは公共選択、再分配政策、地方税制、政府間財政関係、ニューパブリックマネジメントなど。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、財政学、公共経済学など）、経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション： ・講義の目的と到達目標について ・消費者行動の理論の解説			【復習】講義ノートをもとに余剰分析の考え方や無差別曲線などの概念を理解する。		60	
第 2 回	市場の失敗Ⅰ（外部性・公共財・地方公共財）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 3 回	公共選択Ⅰ（多数決について）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 4 回	公共選択ⅠⅠ（多数決が抱える問題）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 5 回	公共選択ⅢⅢ（住民移動）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 6 回	コミュニティと再分配Ⅰ（教育）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 7 回	コミュニティと再分配Ⅱ（医療・介護）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 8 回	コミュニティと再分配ⅢⅢ（公的扶助）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 9 回	コミュニティと税制Ⅰ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 1 0 回	コミュニティと税制Ⅰ（固定資産税と所得税を中心に）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 1 1 回	政府間財政関係Ⅰ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 1 2 回	政府間財政関係ⅠⅠ（地域間再分配について考える）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 1 3 回	公共と民間のあいだⅠ（問題の所在）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
第 1 4 回	公共と民間のあいだⅠⅠ（中間組織の役割について考える）			【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。		60	
〔授業の方法〕 講義を主体とし、小テストを数回行う予定である。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み、小テスト（3 回行う予定））および期末試験で成績評価する。評価割合は、授業への取り組み方、小テスト、期末試験それぞれ 10%、30%、60%を原則とする。							
〔成績評価の基準〕							

到達目標である経済学と経営学にもとづいて都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度に基づいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ミクロ経済学，マクロ経済学

〔テキスト〕
とくになし。毎回、講義ノートを配付する予定である。

〔参考書〕
必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		公共経済学					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121361400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、経済において政府はどのような役割を果たすべきか、また、政府は期待される役割を果たすことができるのかについて、経済モデルを用いながら考えていきます。まず、市場の失敗を学び、政府の役割について検討します。次に、政策を決めるための政治過程を学習し、政府の役割の実行可能性について考えます。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・経済において政府が果たすべき役割について説明できる。 ・政治過程を通じた政策決定について説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第 2 回	モデル分析と社会的余剰最大化① ・社会的余剰最大化			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	モデル分析と社会的余剰最大化② ・需要曲線と供給曲線			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	市場の失敗			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	民主主義と社会的意思決定① ・アローの不可能性定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	民主主義と社会的意思決定② ・中位投票者定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	間接民主制と選挙制度① ・間接民主制			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	間接民主制と選挙制度② ・さまざまな選挙制度			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	政治家の汚職① ・サブゲーム完全均衡			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	政治家の汚職② ・政治家のモラルハザード問題			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	政治家の資質① ・情報の非対称性下における均衡			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	政治家の資質② ・なぜ業績評価投票を行うのか			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	選挙運動			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	まとめ ・講義全体のまとめ			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、課題の出題を毎回行います。							
〔成績評価の方法〕 平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)40%、期末試験 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『私たちと公共経済』、寺井公子・肥前洋一、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）
『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』、浅古泰史、有斐閣（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		都市経済学					
教員名		中神 康博					
科目No.	121361500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 土地市場と住宅市場を中心に、都市における様々な現象を、経済学・経営学の立場から分析することを目的としている。土地や住宅は、通常の財とは異なり、消費財と投資財という性質を併せ持ち、空間というディメンションを持つ異質な財サービスである。土地・住宅市場がどのように機能するのか、他の財サービス市場と比較しながら分析を試みる。さらに、土地・住宅は、私的な財サービスという性質だけではなく、公共性という側面を持っているので、市場の失敗という観点からの分析も行う。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、公共経済学、計量経済学など）と経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・講義の目的と到達目標 ・不動産市場の特徴について			講義で配付される講義ノート#1 を復習すること。		60	
第 2 回	不動産市場と価格 ・家賃と住宅価格 ・地代と地価 ・不動産価格の推移			講義で配付される講義ノート#2 を復習すること。		60	
第 3 回	消費者行動の理論 ・無差別曲線の概念 ・効用最大化について 付け値地代について ・付け値地代とは ・付け値地代の性質			講義で配付される講義ノート#3 を復習すること。		60	
第 4 回	都市空間モデル① ・簡単な仮定のもとでの都市空間モデル ・家賃と地代の導出			講義で配付される講義ノート#4 を復習すること。		60	
第 5 回	都市空間モデル② ・土地の有効利用による家賃と地代への影響 ・居住選択とコミュニティ形成			講義で配付される講義ノート#5 を復習すること。		60	
第 6 回	資産としての土地 ・開発の最適なタイミング ・開発と地価との関係			講義で配付される講義ノート#6 を復習すること。		60	
第 7 回	住宅価格について ・ヘドニック分析について ・実際のデータに基づくヘドニック価格の推計			講義で配付される講義ノート#7 を復習すること。		60	
第 8 回	住宅価格について ・マクロ環境下における住宅価格の決まり方 ・マクロ環境の変化が住宅価格に及ぼす影響について			講義で配付される講義ノート#8 を復習すること。		60	
第 9 回	住宅ファイナンス ・住宅ローンの解説 ・住宅ローンが住宅市場にもたらす影響について			講義で配付される講義ノート#9 を復習すること。		60	
第 1 0 回	住宅保有と住宅投資 ・住宅梯子 ・持家か借家か ・リバースモーゲージ			講義で配付される講義ノート#10 を復習すること。		60	
第 1 1 回	住宅市場とサーチ理論 ・サーチ理論 ・住宅価格の変動			講義で配付される講義ノート#11 を復習すること。		60	
第 1 2 回	土地利用規制について ・都市計画と土地利用規制 ・ゾーニングの影響			講義で配付される講義ノート#12 を復習すること。		60	
第 1 3 回	不動産税制について ・不動産税制の役割 ・不動産税制が住宅市場に及ぼす影響について			講義で配付される講義ノート#13 を復習すること。		60	
第 1 4 回	住宅政策について ・現金給付と現物給付 ・需要サイド政策と供給サイド政策			講義で配付される講義ノート#14 を理解すること。		60	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への取り組み，小テスト（3 回行う予定））と期末試験で成績評価する。評価割合は，授業への取り組み方，小テスト，期末試験それぞれ 10%，30%，60%を原則とする。

〔成績評価の基準〕

到達目標である経済学と経営学の知識にもとづいて，土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し，その解決策を考える力を身につけることができたかどうか，その達成度にもとづいて評価する。なお，成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学，マクロ経済学，財政学，公共経済学など。

〔テキスト〕

特に指定しない。毎回講義ノートを配付する予定。

〔参考書〕

必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		教育経済学					
教員名		内田 雄貴					
科目No.	121361600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、個人が教育を受けるメリットや教育が社会・経済に与える影響について、経済学の観点から解説します。まず、人的資本論とシグナリング理論を説明し、「なぜ大学に通うのか」について考えます。次に、教育における政府の役割について検討します。そして、教育と所得格差の関係について考察します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・人的資本論とシグナリング理論を理解する。 ・教育における政府の役割を理解する。 ・教育と所得格差の関係を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	人的資本論（1） ・教育の便益と費用			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	人的資本論（2） ・現在価値法			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	人的資本論（3） ・内部収益率法			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	人的資本論（4） ・内部収益率の計測			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	人的資本論（5） ・内部収益率と進学行動			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	シグナリング理論（1） ・完全な資本市場			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	シグナリング理論（2） ・シグナリング均衡の特質			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	シグナリング理論（3） ・不完全な資本市場			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	人的資本論とシグナリング理論の比較			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	教育と政府の役割 ・政府介入の根拠			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	教育と所得分配・社会階層（1） ・教育と所得格差			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	教育と所得分配・社会階層（2） ・教育と格差の親子間継承			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめ			【予習】これまでの講義資料を熟読。 【復習】授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		120	
〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、課題の出題を毎回行います。							
〔成績評価の方法〕 平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)40%、期末試験 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
・『教育の経済学・入門 公共心の教育はなぜ必要か』、荒井一博、勁草書房（購入の必要なし）
・『教育を経済学で考える』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし）
・『教育の経済分析』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし）
・『概説 教育経済学』、松塚ゆかり、日本評論社（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

※取組取得には、この科目は必要となる科目がめりより。

科目名		環境経済学A					
教員名		山上 浩明					
科目No.	121361700	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 環境問題はさまざまな形態をとってわれわれの生活の中に存在している。粉塵・煤煙や廃棄物などの地域的環境問題から、気候変動に代表される大域的環境問題に至るまで、これらすべての問題をヒトの経済活動と切り離すことはできない。そこで本講義では、これらの環境問題を経済学（理論モデル）の観点から考察する。前半は環境経済学の基礎理論として外部性について学ぶとともに代表的な経済的手法を紹介する。後半では、具体的な環境政策立案に関する障壁となる、情報の非対称や政治的な問題についても経済学を用いて考察する。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする。 ①経済学的観点から様々な環境問題について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス&イントロダクション			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：レジュメ内でわからない用語や概念などを調べる。		60`120 分	
第 2 回	1. 環境問題の原因とその対策： ミクロ経済学（効用最大化など）			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 3 回	1. 環境問題の原因とその対策： 財市場と外部性			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 4 回	1. 環境問題の原因とその対策： 外部性と余剰分析			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 5 回	1. 環境問題の原因とその対策： 外部性と環境政策 (1)			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 6 回	1. 環境問題の原因とその対策： 外部性と環境政策 (2)			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 7 回	1. 環境問題の原因とその対策： 外部性とコースの定理			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 8 回	2. さまざまな環境政策： 排出量モデル			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 9 回	2. さまざまな環境政策： ボーモル・オーツ税			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 1 0 回	2. さまざまな環境政策： 排出量取引			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 1 1 回	2. さまざまな環境政策： 価格 vs 数量			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 1 2 回	3.Current Topics 1 企業の社会的責任			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 1 3 回	3.Current Topics 2 気候変動の経済学			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
第 1 4 回	総括			予習：レジュメを DL し、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60`120 分	
〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePower を通じて資料を配布する。複数回の小テストが実施される。							
〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数＝小テスト（ 3 0 ％）＋期末テスト（ 7 0 ％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①経済学的観点から環境問題と環境政策について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学関連科目、環境問題に関連する科目をすでに履修済みであることが望ましい。ただし、それと同等の知識があれば履修可能である。
〔テキスト〕 講義資料を各自シラバスでダウンロード・印刷トピック毎に下記の異なる参考書を用いる。
〔参考書〕 [1]日引聡・有村俊秀（2023）『入門 環境経済学 新版』中公新書 ISBN:4-12-1-1648-3, ¥900+tax [2]C.D. Kolstad (1999) Environmental Economics, Oxford University Press, (日本語版：細江守紀、藤田敏之(2001)『環境経済学入門』有斐閣) その他、講義内で紹介する。尚、購入の必要はない。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕